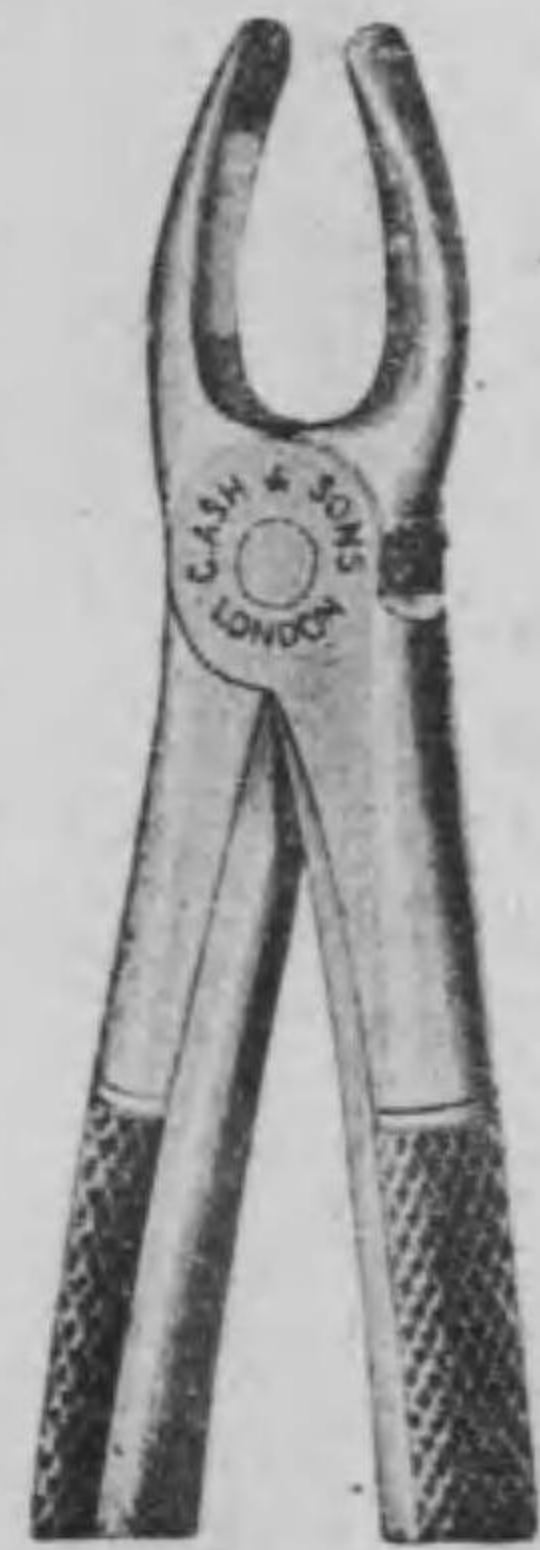


ミ、次テ數回輕ク之レヲ反覆シ、最後ニ二三回ノ回轉運動ヲナスト共ニ之レヲ靜ニ下方ニ牽引スベシ、但側切齒ハ其齒根側方ニ壓扁セララル、コト多キヲ以テ回轉運動ヲ要セザルコト多シ

犬齒

他ノ切齒ト相似タレトモ其齒根強大ニシテ抵抗最強キヲ異ナレリトス、回轉運動ハ又極メテ有効ナラザルコト多ク、唇舌運動ヲ主トシ、最後ニ前下方ニ牽引シテ脱出セシム、但齒根ノ尖端屈曲セルコト稀ナラザルヲ以テ殊ニ注意ヲ要ス、切齒用鉗子ノ可及的堅固ナルモノヲ撰ブベシ



圖五十三百第 子鉗用齒犬及齒切顎上

小白齒

圓錐形ニシテ前後ニ壓扁セラレタル齒根ヲ有シ、第一小白齒ハ内外ノ二小根ヨリナルコト多シ、鉗子ハ銃鎗狀鉗子或バ堅固ナル直嘴鉗子ヲヨシトス



圖六十三百第 子鉗用齒白小顎上

齒頸部ヲ高ク鉗取シタルノ後極メテ徐々ニ輕ク頰舌運動ヲナシ脱出セシム、回轉運動ハ効力少

ナシ

大白齒

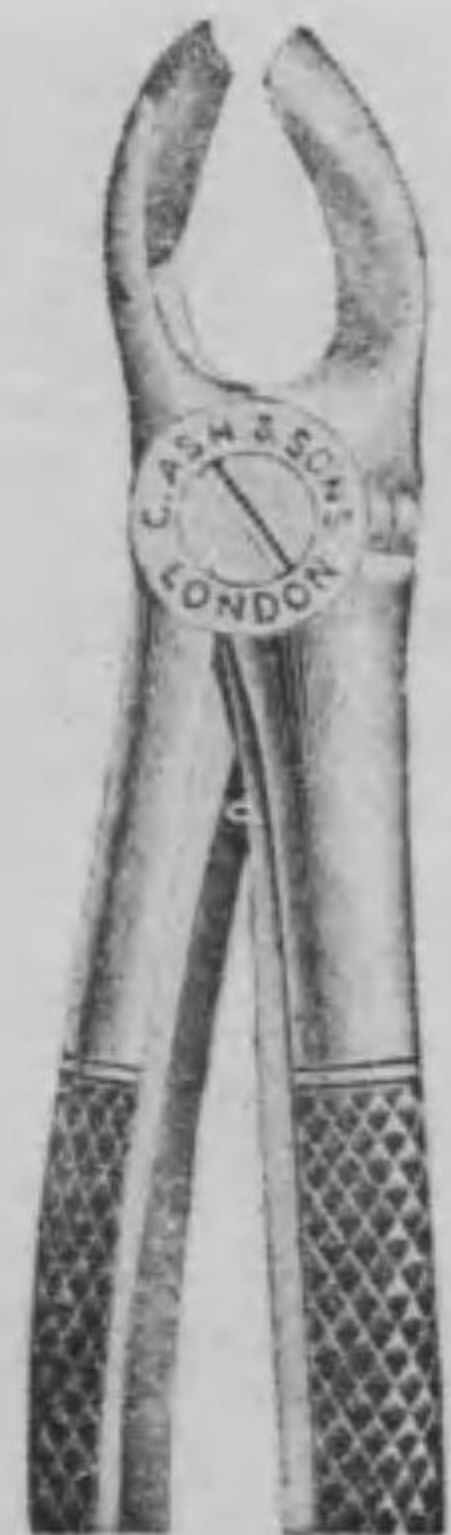
常ニ強堅ニシテ三根ヲ有シ、頰側ニ二箇舌側ニ一箇アリ、鉗子ハ外嘴ノ内面中央ニ區劃アリ二分岐根ニ適合スル様形成セラレタル者ニシテ左右各側ニ應ジテ二箇ヲ要ス、嘴ハ僅ニ彎曲セルカ或ハ銃鎗狀ヲナスベシ

深ク鉗取シテ徐々ニ内外運動ヲ

ナシ、漸ク力ヲ強メテ抵抗ノ最小ナル

方向ニ之レヲ動カスベシ、回轉運動ハ決シテ試ムベカラズ、齒根ヲ破

折スルノ患アリ



圖七十三百第 子鉗用齒白大側右顎上

智齒

齒根ノ形態極メテ不定ニシテ或ハ單根圓錐形ヲナ

シ、或ハ複根ニシテ著シク開散スト

雖モ、大抵齒冠ノ形態及ビ髓腔ノ形

態ニヨリ之レヲ察知スルヲ得ベシ

其形態ニヨリテ前記大白齒用ノ鉗子ヲ使用シ得ベシト雖モ銃鎗狀ニシテ適宜



圖八十三百第 子鉗用齒白大側左顎上

ノ嘴頭ヲ有スルモノモ亦佳ナリ、之ヲ適用シテ内外ニ運動シ又單根ナルトキハ回轉運動ヲ混ユベシ

下顎齒牙拔去術式

六 下顎齒牙拔去術式

下顎齒

Lower Teeth
Untere Zähne

シムベシ

術者ハ患者ノ右側ニ立チテ鉗子ヲ右手ニ取り、其右側ノ齒牙ヲ拔去スルニハ少シク患者ノ右前方ニ進ミ、左手ノ拇指ヲ頬ト齒齦トノ間ニ入レテ施術面ヲ明視スルヲ得セシメ、他ノ三乃至四指ハ下顎骨下緣ヲ抑ヘテ顎骨ヲ固定ス、之レニ反シテ若シ下顎左側ノ齒牙ヲ拔去スルニ方リテハ患者ノ少シク右後側ニ立チテ後頭部ヲ



圖九十三百第 齒拔側右顎下

術者ハ患者ノ右側ニ立チテ鉗子ヲ右手ニ取り、其右側ノ齒牙ヲ拔去スルニハ少シク患者ノ右前方ニ進ミ、左手ノ拇指ヲ頬ト齒齦トノ間ニ入レテ施術面ヲ明視スルヲ得セシメ、他ノ三乃至四指ハ下顎骨下緣ヲ抑ヘテ顎骨ヲ固定ス、之レニ反シテ若シ下顎左側ノ齒牙ヲ拔去スルニ方リテハ患者ノ少シク右後側ニ立チテ後頭部ヲ

超エテ左腕ヲ廻ラシテ頭部ヲ固定シ、左手ノ拇指ヲ齒上ニ加ヘ示指ヲ以テ唇頰ヲ壓排シ、他ノ三指ヲ下顎骨下緣ニ加ヘテ顎ヲ固定スベシ

切齒及犬齒

單根圓錐形ニシテ僅ニ側方ニ壓扁セラレテ極メテ強大ナラズ、直角ニ屈曲セル鉗子ヲ使用ス(第四百十圖)

深ク齒頸ヲ鉗取シタルノ後、徐々ニ前後運動ヲ施シ、其充分弛緩シタルヲ待チテ僅ニ回轉シツ、前上方ニ牽引シテ脱出セシム

小白齒

單根圓錐形ニシテ壓扁ノ度極メテ少ナシ、故ニ下顎切齒及犬齒ニ使用スルト同形ニシテ少シク強大ナル鉗子ヲヨシトス

深ク内外側ニ沿フテ齒頸ヲ鉗取シ、徐々ニ一大内外運動ヲ施シ、次テ輕ク之レヲ反覆シ、最後ニ僅微ナル

下顎齒牙拔去術式



圖十四百第 子鉗用齒犬及齒切顎下



圖二十四百第 子鉗用齒白大顎下

回轉運動ト共ニ外上方ニ脱出セシム

大白齒

最堅固ニシテ前後ノ二根ヲ有ス、根ハ共ニ扁平ニシテ少シク屈曲ス、或ハ根尖端ニ至ルニ從ヒ相離開スルコトアリ

鉗子ハ關節ニ於テ直角或ハ鈍角ニ屈曲シ内外ノ兩嘴ハ強堅ニシテ其内面ハ各ニ根ニ適合スル截痕ヲ有スルモノナルベシ(第四百一圖)

齒根分岐部ヲ超ユルマデ深ク鉗子ノ嘴端ヲ挿入シ、緩カニ且強キ内外運動ヲ施シ、其漸ク弛緩スルニ從テ漸ク其力ヲ増シ、最後ニ外上方ニ脱出セシム

第一大臼齒ハ第二大臼齒ヨリモ遙ニ強大ニシテ抵抗亦多大ナリ、然レトモ第二大臼齒モ亦下顎骨ノ表面ニ於ケル内外ノ斜走隆線ニ保護セラレテ頗ル堅ク植立スルコトナキニアラズ

智齒

ハ形態位置方向ノ一定セザルコト他齒ニ見サル處ナリ、或ハ圓錐形單根ナルコトアリ下顎小白齒用鉗子ヲ以テ拔去スルヲ得ベシ、或ハ第一及第

二大白齒ノ如ク扁平ナル二根ヨリナルコトアリ前法ニヨリ拔去スルヲ得ベシ、或ハ前方ニ傾斜シ、或ハ外方ニ彎曲シ、或ハ一部齒齦ヲ以テ被ハル、此ノ如キ際ニハ少シク強大ナル齒根用鉗子ヲ以テ拔去スルヲ得ベシ

之レヲ脱出セシムルニハ内外ノ運動ヲ主トシ、齒根圓錐形ナルトキハ僅ニ之レニ回轉運動ヲ交エ最後ニ外上方ニ牽引ス

七 齒根ノ拔去

齒根

Tooth Root Zahnwurzel

齒根ノ拔去ハ健全ナル齒冠ヲ有スル齒牙ノ拔去ヨリ遙ニ困難ナルコト往々之レアリ、例之拔齒ニ際シ齒冠ノミ破壊シテ齒根

ハ深ク堅固ナル齒槽窩内ニ潛入シタルガ如キ、或ハ又齶蝕漸ク進行シテ齒冠消失シ齒根ハ其上ヨリ肥大増殖シタル齒齦ヲ以テ厚ク被覆セラル、時等ノ如シ、然レドモ朽傷破壊シテ齒槽突起ノ吸收ト共ニ漸ク齒齦ノ表面ニ舉上セラレタル齒根ノ如キハ乳齒ト毫モ撰ブ處ナシ

各齒根ハ其之レニ相當スル齒牙ト同一術式ヲ以テ適當ニ形成セラ

齒根ノ拔去



圖三十四百第 子鉗用根齒顎下



圖二十四百第 子鉗用根齒顎上

レタル鉗子ニヨリ拔去スルヲ得ベシ然レトモ齒根若シ齒齦ノタメニ被覆セラレテ鉗子嘴端ノ適合ヲ明瞭ナラシメ能ハザルトキハ宜シク齒齦刀ヲ用ヒテ齒根ノ長軸ニ沿ヒ齒齦ニ縱切ヲ加ヘ之レヲ齒根ヨリ剝離シ置クベシ齒根ノ形態若シ鉗取ヲ許サ、ル時ハ乃チ齒根挺子ヲ使用セザルベカラズ

挺子ノ應用

Elevator
Hebel

多少楔狀ヲナセル器尖ヲ齒根側ト齒槽突起線トノ間ニ挿入シ、齒槽縁、隣齒又ハ此部ニ當テタル指背等ヲ支點ト

シ第一種槓杆ノ原理ニヨリテ齒根ヲ一側ヨリ挺起脱出セシムルヲ法トス、實ニ挺子ハ熟練セル人ノ手ニアリテハ輕妙ニシテ若痛ヲ生起スルコトナク拔齒セシムルコトヲ得ル唯一ノ利器ナリ、挺子ノ種類ハ通例四アリ、曰ク直嘴ノモノ、羊足狀ノモノ、内屈嘴及外屈嘴ノモノ之レナリ

一 適應症 挺子使用ハ前記ノ如ク左症ニ適ス

- 1 周圍齒齦ノ強ク發炎腫脹セル時 此ノ如キ場合ニハ鉗子ノ兩嘴端ヲ挿入スレバ若痛著シク寧ろ輕ク挺子ヲ以テ一側ヨリ之ヲ挺起スルヲ安全トス
- 2 齒質ノ脆弱ニシテ鉗取ニ堪エザルモノ 之ヲ無稽ニ鉗取スレバ破折スルノ患大ナリ、挺子ヲ以テ一側ヨリ挺起スレバ毫モ此ノ危險ナシ

- 3 殘根ノ深ク齒齦中ニ潜伏セル時 蓋シ其位置限界ヲ明ニスルコト困難ニシテ從テ之レヲ鉗取スルコト容易ナラズ、之レニ反シ挺子ノ薄刃ヲ一側ヨリ挿入シテ徐ロニ挺起スレバ周圍ノ組織ヲ毀損スルコトナクシテ極メテ輕易安全ナリ
- 4 手術部ニ鉗子使用ノ空隙ナキ時 例之難生智齒、傾斜轉生齒、埋伏齒等ニ於テ見ルモノ、如シ
- 5 齒根ノ已ニ大部分齒齦上ノ露出セル時 例之乳齒根、膿漏齒等ノ如シ

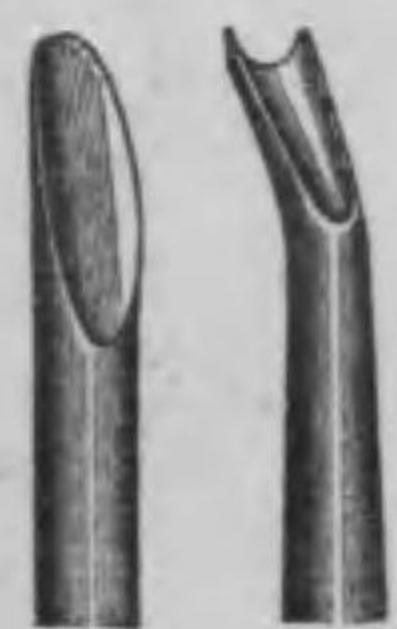
二 挺子適用法

(1) 顎右側ニ存スル齒根ノ拔去 直嘴、羊足狀或

ハ屈曲嘴何レノ挺子ヲ用ユルモヨシ

a 直嘴羊足狀又ハ挺子ヲ以テ拔去スルノ法

先ヅ挺子柄ヲ手掌ニ上セ拇指頭ヲ以テ嘴ノ直下ヲ支ヘ他ノ四指ヲ以テ堅ク柄ヲ把握シ、然ル後肘或ハ腕ヲ胸側ニ固定シテ強力ヲ加ヘテ壓迫スルモ器械ノ逸脱スルコトナカラシム、左手ハ患者ノ後頭部ヲ超エテ拇指ト他ノ四指トニテ堅ク下顎骨ヲ固定シ、脱臼或ハ手術中頭部ノ移動スルヲ



子挺用齒拔

圖四十四百第

齒根ノ拔去

防グ之ニ於テ右上膊ヨリ徐ロニ力ヲ加ヘテ齒根ヲ挺起スルナリ

但シ上顎ノ場合ニアリテハ肘或ハ腕ヲ胸側ニ附シテ固定スルコト極メテ不便ナルヲ以テ右手ノ拇指頭ヲ隣齒或ハ齒齦上ニ當テ、力ヲ抑制スベシ

b 屈曲挺子ヲ以テ拔去スルノ法 内屈嘴即直角ニ内方ニ屈曲セル挺子ヲ用ヒテ舌側ヨリ齒根ヲ挺起スルヲ得ベシ、左腕ヲ以テ頭部ヲ固定シ左指ヲ以テ顎骨ヲ固定スルコト前方ノ如クニシテ挺子ハ之レヲ右四指ニテ堅ク握リ拇指ハ全然之レヲ遊離セシム、而シテ靜ニ嘴ヲ齒根ノ舌側ニ當テ、壓入スルヤ遊離セル拇指頭ヲ齒齦或ハ隣齒ノ外側ニ堅ク固定シテ之レヲ支點トシテ挺子ヲ此ノ方向ニ移動スルニアリ、多クハ下顎齒ニノミ用ユ

上顎齒ニハ適用容易ナラズ且其要少ナシ、小白齒根ノ著シク朽傷シ舌側ノミ僅ニ硬固ナル齒質ヲ止ムルトキニ稀ニ行ハル、此ノ如キ場合ニハ外屈嘴ヲ裏返シテ適用セザルベカラズ

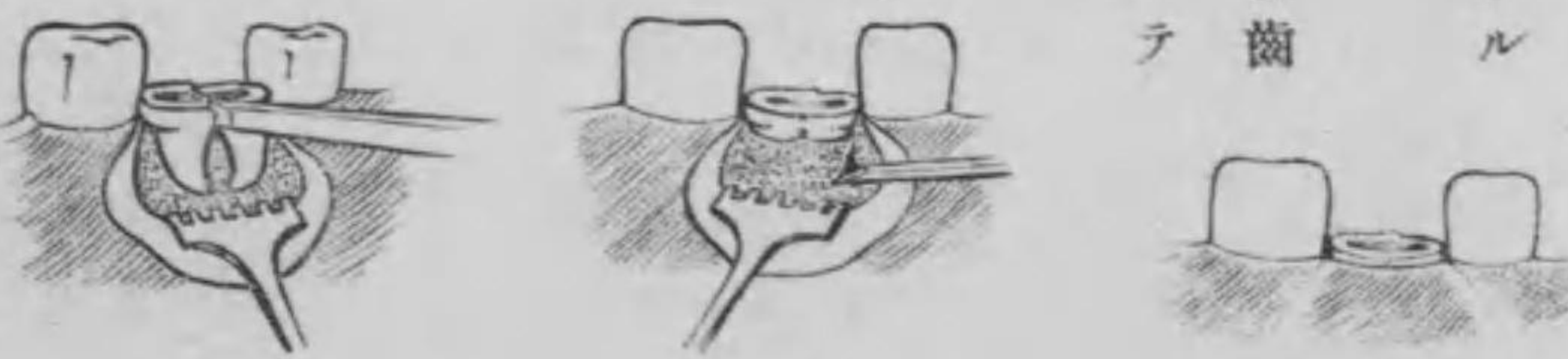
(2) 顎左側ニ存スル齒根ノ拔去 直嘴、羊足狀或ハ外屈挺子ヲ用ユベシ

a 直嘴又ハ羊足狀挺子ヲ以テ拔去スル法 右側ニ使用スルト同一ノ直嘴挺子ヲ以テ同一原理ニヨリテ拔去ス、即術者ハ患者ノ左側ニ立チ右手ニ直嘴挺子ヲ

握ルコト前記ノ如ク、左手ハ拇指ヲ適宜ノ齒上ニ加ヘ他ノ四指ヲ以テ下顎骨ヲ下方ヨリ支持シ同一注意ヲ以テ上膊ヨリ強大ナル挺起力ヲ加フルニアリ

b 屈曲挺子ヲ以テ拔去スル法 下顎白齒ノ殘根、小白齒、切齒ノ齒根等ニ於テ之レヲ要スルコト最多シ、通例外屈嘴ヲ撰用シテ

舌側ヨリ頰側ニ向テ挺起セシム、其法先ツ挺子柄ヲ四指ヲ以テ堅ク手掌中ニ握リ、拇指頭ヲ嘴ノ屈曲部ニ加ヘ、左手ハ頭部ヲ超エテ四指ヲ以テ下方ヨリ下顎骨ヲ支持シ、拇指ハ之レヲ拔去セントスル齒根ノ内側ニ於テ齒齦上ニ固定シタルノ後、徐々ニ嘴尖ヲ齒根ノ舌側ヨリ挿入シ適當ノ深サニ達シタルヲ確メ、右手ノ拇指側ヲ左手ノ拇指側ニ堅ク固定シテ之レヲ支點トシテ挺子ヲ挺起シテ齒根ヲ脱出セシムルニアリ、此法ハ上顎ニ施スコト不可能ナリ、上顎ニアリテハ寧ロ反對ニ此法ヲ行ヒテ頰側ヨリ齒根ヲ挺起スルヲ得ベシ



斷分根齒 (3) 轉騰ノ辭 (2) 開切齦齒 (1) 法除鑿根齒 圖五十四百第

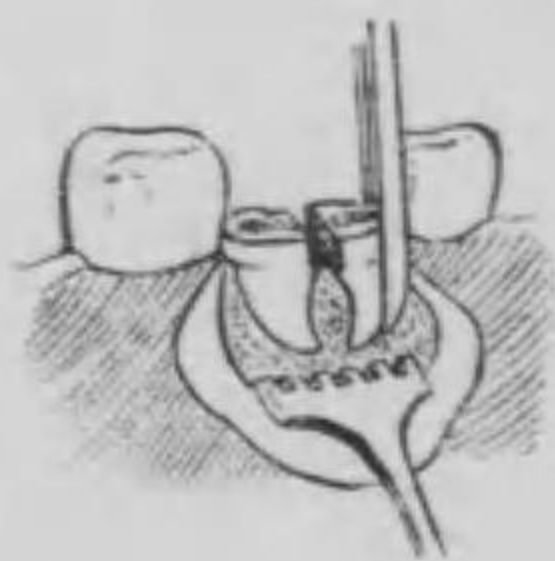
齒根ノ拔去

齒根鑿除法

Chiselling Out of Root
Anweisung der Wurzeln

通法ニヨリテ鉗取、挺起又ハ脫出セシメ能

ハザル齒根又ハ齒牙ニ對シテハ之ヲ周擁スル處ノ齒槽突起ノ一部ヲ鑿除スル方法ヲ實行スルモノアリ、殊ニ獨塊ニ於テ多シ、齒根鑿除法即之レナリ



起挺根齒(4)

一 適應症 左ノ如シ

I 齒槽窩内ニアリテ欲取又ハ挺起セシメ能ハサル破壊齒根

2 齒根ノ屈曲又ハ白堊質肥大等ニヨリ通法ノ如ク脫出セシメ能ハザルモノ

3 埋伏齒並ニ難生智齒

二 術式 左ノ如シ

I 通法ニヨリ手術部ヲ消毒シ、浸潤麻醉又ハ傳達麻醉ニヨリ局處麻痺ヲ生セシメタル後、齒槽ノ唇側又ハ頰側ニ於テ近心及遠心ノ二ヶ所ニ於テ相併行シテ齒齦緣ヨリ齒根長位ノ切開ヲ骨質ニ至ルマデ施コシ

2 次テ骨膜起子ヲ以テ齒齦及骨膜ヲ齒槽骨ヨリ剝離シ瓣狀ヲナサシメテ創鉤ヲ以テ翻轉牽引シテ齒槽骨ヲ露出ス

3 骨質ニ適宜穿孔シ其頰側壁ヲ除去シテ齒根ヲ充分ニ露出セシメ、用ニ臨ミ齒根ヲ各自鑿除分離シテ排除ス

4 齒根除去後ハ齒齦瓣ヲ舊位ニ復歸シテ縫合シ其治癒スルマデ防腐的處置ヲ施コスコト通法ノ如シ

八 乳齒ノ拔去

乳齒

Deciduous Teeth
Milchzähne

乳齒ハ其齒根短小ニシテ抵抗少ナク且其拔去ヲ要スルハ通例齒根吸收弛緩シテ後ナルヲ以テ拔去極メテ容易ナリ、直嘴及屈嘴二ヶノ鉗子アレバ足レリ其術式ハ永久齒ニ於ケルト相同ジ

只日常ヨク目撃スルガ如ク乳齒根ノ吸收漸ク進行シテ永久齒ノ將ニ萌出セントスルヤ齒根ノ尖端ハ齒齦ヲ突通シテ外部ニ露出スベシ、此ノ如キモノヲ拔去スルニハ露出セル齒根端ト齒冠部トノ間ニ横ハル處ノ齒齦ニ縱切開ヲ加ヘタルノ後、根端ニ挺子ヲ適用シテ脫出セシムルヲ最簡單ナリトス

乳齒ノ拔去ニヨリテ生ジタル拔齒窩ニハ「ガーゼ」ヲ挿入スルノ要ナシ、只外部ヨリ大ナル「ガーゼ」ノ重疊シタルモノヲ置キ十分乃至二十分間顎ヲ閉合シテ創面ヲ

壓迫セシムレバ容易ニ止血スベシ

拔牙ノ偶發症及其所置

九 拔牙ノ偶發症及其所置

偶發症

Accidents
Zufälle

拔牙手術中ニ起ル不快ナル偶發症種々アリ齒牙ノ破折、他齒出血、疼痛、及創傷傳染等之レナリ

(一) 齒牙ノ破折 拔去セントスル齒牙ガ未ダ齒槽窩ヨリ脫出セザルニ之レヲ

破折スルコト頗ルヨク目撃スル處ニシテ通例左ノ原因ノ一或ハ數者ニ歸ス

- 1 鉗子ノ嘴端ノ形狀齒牙ニヨク適合セザリシ時
- 2 鉗子ヲ以テ充分深ク齒根ヲ啖取セザリシ時
- 3 鉗子ヲ以テ啖取スルニ強力ヲ用ヒシ時
- 4 移動ヲ急劇且粗暴ニナセシ時
- 5 顎骨殊ニ齒槽突起極メテ強硬ニシテ彈性ヲ有セザリシ時
- 6 齒質極メテ脆弱ナリシカ或ハ齶蝕等ノタメニ著シク頰壞セシ時
- 7 齒根ノ形狀或ハ方向異常ナリシ時

處置 若シ破折ヲ生ジタルトキハ直ニ齒根鉗子或ハ挺子ヲ以テ拔去ヲ試ムベシ、或ハ他日齒槽窩ノ淺小トナルヲ待ツテ拔去スルモ佳シ

(二) 他齒ノ毀損 鉗子ノ操縱極メテ慎重ナラザルトキハ移動ニ際シテ隣齒ヲ弛緩或ハ破壞セシメ、又タ齒牙ヲ牽引脫出スルニ方リテ對顎ノ齒牙ヲ毀損スルコト少ナカラズ、腕關節ニ於テ輕卒ニ鉗子ヲ使用スルニヨルモノニシテ決シテ此ノ如クナスベカラズ、必ラズ腕關節ヲ固定シ肘關節ヲ支點トシテ施術スベキナリ

處置 其實質缺損ノ多寡ニ應ジテ充填或ハ義齒術ヲ施シ、又其弛緩シタルトキハ數日間之レヲ隣齒ニ結紮固定シテ消炎療法ヲ施セバヨシ

(三) 軟組織ノ毀傷 鉗子ヲ適用スルニ方リ嘴端ト齒牙トノ間ニ軟組織ヲ間在シテ啖取スルコトアリ、或ハ齒牙ヲ動搖シテ牽引脫出セントスルニ方リ齒根ノ側面ニ附着セル軟組織ヲ共ニ牽引シテ裂傷ヲ生ゼシムルコトアリ、此ノ如ク軟組織ヲ毀傷スルトキハ拔牙後出血、疼痛ヲ生ジ易ク乳齒列ニアリテハ埋沒セル繼承齒芽ヲ破壞スルコトアルベク、又拔牙後創傷傳染ノ期會ヲ作ルコト多シ、故ニ鉗子ノ適合ニ注意シ又殘根等ニアリテハ當初ヨリ齒齶刀ヲ以テ軟組織ヲ齒根ヨリ剝離シ置クベシ

拔牙ノ偶發症及其所置

處置 裂傷ハ其度ニヨリテ所置ヲ異ニス、若シ毀傷ノ度僅微ニシテ小片ノ遊離セルアラバ之レヲ剪切シテ後ニ防腐的所置ヲ怠ラザレバ足レリ、之レニ反シ裂傷極メテ大ナルトキハ二三ノ縫合ヲ致サ、ルベカラザルコトアリ

(四) 骨折 骨植堅固ナル多根齒ヲ拔去スルニ方リ、其分岐部附近ニ細小ナル齒槽突起ノ破片ヲ附着スルハ敢テ異トスルニ足ラズト雖モ、元來齒槽突起ハ其再生力極メテ微弱ニシテ一度折傷シタル處ノモノハ長ク顎骨ニ缺損ヲ止ムベク又其創面ヨリ病原菌ノ侵入ヲ容易ナラシムルヲ以テ極メテ注意セザルベカラズ、之レヲ生起スル原因ノ主ナルモノ左ノ如シ

- 1 鉗子ノ嘴端ヲ齒槽上ヨリ適合シテ齒根ヲ箝取シタル時
 - 2 動搖弛緩セシムルニ暴力ヲ用ヒシ時
 - 3 齒根ノ肥大、或彎曲ハ放散顯著ナリシ時
 - 4 殘根ト齒槽突起トヲ誤認シテ鉗取シタル時
- 處置 要スルニ齒槽突起ハ其營養極メテ旺盛ナラザルヲ以テ大ナル骨片ニアラザレバ癒合ヲ望ムコト頗ル難シ、故ニ普通ノ場合ニアリテハ骨片ノ遊離セルモノハ悉ク之レヲ除去シ後ニ防腐的處置ヲ施コスベシ

(五) 下顎脫臼 下顎後方齒牙ノ拔去ヲ行フニ際シ充分堅ク顎骨ヲ固定セザレバ脫臼ヲ生ズルコトアリ、未熟ノモノガ挺子ヲ使用スルトキニ最多シ、習慣性ニ脫臼スルモノ、或ハ曾テ脫臼ノ經驗アルモノニ於テ殊ニ然リ

處置 拔牙ヲ行フニ方リテハ常ニ顎骨ノ固定ニ注意シ、其已ニ脫臼シタルトキハ通法ニヨリ靜ニ之レヲ整復スベシ

(六) 咽喉ニ齒牙ノ墜落 鉗子ヲ以テ牽引脫出セントスル際齒牙ノ滑脱シテ咽喉ニ落下スルコトアリ、就中普通ナルハ挺子ヲ以テ齒根ヲ挺起スル時ニアリ、故ニ此ノ如キ場合ニハ常ニ齒牙ノ舌側ヨリ器械或ハ指ヲ以テ保護スルヲ必要トス

處置 咽喉ニ墜落シタル齒牙ハ多クハ急劇ナル呼吸運動ト共ニ口腔ニ復歸スルモノナリト雖モ、其少シク深ク落下スルトキハ或ハ其一隅ニ繫留シ或ハ更ニ嚥下セラレ或ハ氣管中ニ下降ス、殊ニ全身麻酔ヲ施シタルモノニアリテハ氣管中ニ侵入シテ氣管切開術ヲ施サルベカラザルコトアリ、咽喉ノ一隅ニ繫留セルモノハ喉頭鏡ノ補助ニヨリ鑷子ヲ以テ摘取シ得ベク又嚥下セラレタルモノハ毫モ支障ナクシテ糞便ト共ニ排泄セラレ

(七) 腦貧血 拔牙中患者卒然眩暈、頭重、其他違和苦悶ノ狀ヲ呈シ、顔面蒼白トナ

リ、嘔氣嘔吐ヲ催シ、體表冷汗ヲ以テ覆ハレ遂ニ失神スルコトアリ、腦貧血之レナリ、普通ノ場合ニアリテハ失神僅ニ數秒乃至數分ニシテ醒覺スト雖モ稀ニ持續シテ危險症狀ヲ發顯スルコトナキニアラズ

拔齒ニ偶發スル腦貧血ハ主トシテ精神作用ノタメニ發顯スル處ニシテ不安ノ念慮或ハ恐怖ノタメニ來ルコト最多シ、夫ノ注射針ヲ將ニ刺入セントスルヤ否ヤ之レヲ發顯スルモノ、如キ之レヲ證シテ餘リアリ、故ニ精神不安定ナル神經質ノモノニ多ク、殊ニ數日來苦痛睡眠不足ナリシ時ニ於テ然リトス、饑餓、天候不順、頭重、月經、疲勞、衰弱、一般貧血、脚氣等ハ之レガ素因ヲナス

所置 術者ハ施術ニ方リ常ニ靜謐平易ニシテ患者ニ不安ノ念慮ヲ與フベカラズ、而シテ手術中患者ノ腦貧血ヲ起スヤ先ツ頭部ヲ低下シテ臥位ニ置キ、胸部ニ纏ヘル衣服ノ緊縛ヲ解キ、窓牖ヲ開放シテ新鮮ノ空氣ヲ入レ、心臟部ヲ輕ク摩擦シ、酒精飲料、薄荷製劑、甘硝石精等ヲ投與シ、或ハ前額及ヒ顳顬部ニ酒精劑、薄荷、カンフル等ノ製劑ヲ塗布スルモヨシ

(八) 震盪 ハ幸ニシテ拔齒ニ偶發スルコト少クシ、然レドモ其顯ハル、ヤ施術ノ大小ニ關係ナク突然ニシテ來リ危態ニ陥ラシムルヲ以テ注意ヲ怠ルベカラズ

其起ルヤ患者ハ急ニ痴呆狀ヲ呈シ、周圍ニ行ハル、凡テノ事柄ヲ意ニ介スルコトナク、顔面蒼白ニシテ表情ナク、前額ニ皺襞ヲ顯ハシ鼻孔擴大セルヲ見ルベシ、眼ハ陷沒シテ半バ眼瞼ヲ開キ遠所ヲ凝視スルカ如ク、瞳孔ハ散大シテ光線ニ反應スルコト遲徐タリ、皮膚粘膜ハ蒼白ニシテ手指及口唇ハ數々暗紫色ヲ呈ス、體表厥冷ニシテ冷汗ヲ以テ覆ハレ、知覺脫失シ四肢ノ運動極メテ緩慢ナリ、脈搏ハ細小ニシテ容易ニ觸知シ難ク、不規則或ハ間歇性ニシテ或ハ五十以下ニ減ズルコトアリ、呼吸亦不規則ニシテ深淺一樣ナラズ、精神機能ハ全ク消失セズ問ニ應ズルコト極メテ遲シ、嘔吐、吃逆ノ起ルコト常ナリ

其他所謂亢奮性震盪ナルモノアリ、頗ル亢奮シテ燥狂ニ類シ、毫モ鎮靜セズ精神明瞭ナリト雖モ恐怖ニ堪サルナリ、粘膜面ノ蒼白ナルニ反シ顔面潮紅ヲ呈シテ前額頗ル熱ク、眼ハ陷沒スレドモ光輝アリテ瞳孔縮小スルコト常ナリ、其他ハ殆ト前者ニ同シ、而シテ此兩者ハ相移行スルコト少ナカラズ

所置 施術ヲ中止シテ患者ヲ仰位ニ安靜ノ位置ヲ取ラシメ衣服ノ緊縛ヲ解キ四肢及體部ニ乾熱ヲ適用ス、湯、タンボ等又佳ナリ、其他單ニ對症的ニシテ咖啡、酒精、カンフル等ノ内服或ハ注射、及ビ亞硝酸亞密爾ノ吸入、溫食鹽水ノ灌腸等ハ極メテ

有効ナリ

拔牙ノ偶發症及其所置

(九) 出血 血友病其他出血性素質アルニアラズシテ拔牙後出血制止スルコト能ハズ、數日ニ亘リテ其持續スルヲ見ルコトアリ、之レ或ハ術式ノ當ヲ得ザリシニヨルカ或ハ拔牙ニ際シ多大ノ損害ヲ附與シタルニヨル

所置 出血ノ度ニヨリテ相同ジカラズ、左者ヲ適宜施行ス

1 壓抵 最簡單ニシテ且最有效ナリ、之ヲ行フニハ拔牙窩ヲ清潔ナラシメタル後、沃度仿謨「ガーゼ」ヲ以テ之レヲ栓塞シ其上部ニ數回重疊シタル滅菌「ガーゼ」ヲ置キ、顎ヲ閉合シテ數十分間對合齒ヲ以テ創面ニ壓迫ヲ加フルコト拔牙ノ術式ノ條下ニ述ベタルガ如クスルニアリ、當初ヨリ此法ヲ行ヘバ大抵ノ特異質ヲ有スルモノト雖モ出血ヲ招來スルコトナカルベシ

數時間以上顎ヲ閉合スルハ頗ル不便ナリ、故ニ出血ノ持續スルトキハ他ノ方法ヲ求メザルベカラズ、例之拔牙窩ニ「ガーゼ」ヲ以テ栓塞ヲ施シタルノ後、僞答百兒加ヲ軟化シテ其上ヨリ壓迫シ之レヲ隣齒ニ結着シテ保持セシムルガ如シ

2 藥劑 通例緩和防腐藥ヲ以テ含嗽セシムレバ足レリト雖モ、時トシテ特ニ收斂止血性ノ含嗽料ヲ要ス、枯礬、單寧酸、密爾拉丁幾等ノ如シ、或ハ鹽化「アドリナリ

拔牙後疼痛ノ原因

ン、過鹽化鐵液等ノ塗布亦佳ナリ、シニツフハ熱湯ノ含嗽ヲ稱用セリ、其他稀ニ沒食子酸、麥角丁幾「ゲラチン」³、エルゴチン⁴等ノ内服又ハ注射ヲ要スルコトアリ

3

烙鐵、電氣燒灼等又稀ニ試ムルコトアレトモ効果頗ル疑ハシ

(一〇)

疼痛 拔牙時ニ於ケル疼痛持續シテ漸々増劇シ數日ニ亘ルコトアリ、或ハ術後一度鎮靜シタルノ後再ヒ増劇スルコトアリ、通例淺在性ノ鈍痛ナリト雖モ又廣ク放散スル處ノ神経痛様劇痛ナルコトアリ、拔牙時ニ暴力ヲ加ヘシカ、或ハ多大ノ毀傷ヲ致シタルカ、急性炎ノ存在セシカ、後所置ヲ怠リテ感染ヲ受ケタルカ、或ハ他ニ神経痛ノ原因存在シタルカノ一ニ歸スベシ

所置 拔牙後疼痛ヲ訴フルモノアラバ先ツ其感染ノ有無ヲ確メテ消毒ヲ嚴ニスベシ、而シテ單純ナル防腐性含嗽料ヲ少シク加温シテ用ヒシムベシ、或ハ氷水ヲ用ユルモ同効アリ

齒槽窩ニ塗布藥トシテ使用スルモノ抱水、クロラール、古加乙涅、薄荷油、阿片丁幾、沃双合劑等アリ、其發炎セルトキハ鹽化「アドリナリン」又用ユベシ

内服藥トシテ安知必林「フエナセチン」、抱水、クロラール、「アスピリン」、「ブローム」製劑等使用セラル、外頰部ヨリ卷法スルモヨシ、濕温ヲ殊ニ有効ナリトス

拔牙ノ偶發症及其所置

(一) 感染 後所置ヲ嚴ニナサ、レハ拔齒創ハ感染ヲ蒙ムルコト極メテ容易ナリ、最危險ナル偶發症ノ一ニシテ顎骨々疽、蜂窠織炎等ヲ起シテ終ニ患者ノ生命ヲ危フスルニ至ルコトナキニアラズ、拔齒後數時間乃至數日ニシテ疼痛徐々ニ加ハリ、惡寒發熱シテ體力沈衰シ、頰部或ハ顎骨附近ニ急劇ナル腫脹ヲ生ジ、骨膜炎或ハ蜂窠織炎ニ移行スルハ最怖ルベキ順序ナリ

所置 拔齒創ニ違和アレバ直ニ感染ヲ思ヒ之レヲ未發ニ防ガザルベカラズ、バイロゾンヲ以テ反覆洗滌シ、沃度丁幾、石炭酸樟腦ヲ塗布シ、或ハ多量ノ食鹽水、硼酸水等ヲ以テ口腔ヲヨク洗滌シ、防腐性含嗽劑ヲ投與シ、疼痛アレバ外頰部ヨリ卷法ヲ施シ、其經過ヲ注目スベシ、膿ノ蓄積明瞭トナレバ直ニ之レヲ切開シテ排膿ノ道ヲ講ジ骨質ノ犯サル、コトヲ少ナカラシメ、又蜂窠織炎ニ轉スルヲ防クベシ

第十四章 植齒術

植齒術

Teeth Plantation

Pflanzung der Zähne

トハ故意或ハ偶然ニ齒槽窩ヨリ脱出シタル天然齒牙ヲ任意ノ齒槽窩ニ挿入シテ固植セシムル方法ヲ云フ、大別シテ三トナス、再植移植及嵌植之レナリ

齒牙再植術トハ齒槽窩ヨリ故意或ハ偶然ニ脱出シタル天然齒牙ヲ其同一ノ齒槽窩ニ復歸シテ植立セシムル方法ヲ云フ、植齒術中最古ク行ハレタル者ニシテ或ハジュホン(一六三三年)ヲ以テ嚆矢トナスモノアレドモアムプロアース、バレーハ一五九四年ニ於テ已ニ之レヲ説ケリ

齒牙移植術トハ故意或ハ偶然ニ齒槽窩ヨリ脱出シタル天然齒牙ヲ他ノ齒槽窩ニ移植シテ固着セシムル方法ヲ云フ、或ハ同一人ノ口腔ニ於テ甲齒槽窩ヨリ乙齒槽窩ニ移植スルコトアリ、或ハ甲人ノ齒牙ヲ乙人ノ齒槽窩ニ移植スルコトアリ、或ハ新鮮ナル齒牙ヲ直ニ移植スルコトアリ、或ハ一定ノ時日ヲ經過シタル齒牙ヲ使用スルコトアリ、フオーシャルハ一七八六年ニ已ニ之レヲ説述セリ

齒牙嵌植術トハ拔齒後已ニ全部或ハ大部癒合セル齒槽窩ヲ更ニ人工的ニ擴大シテ自己或ハ他者ノ口腔ヨリ得タル天然齒ヲ嵌入スル方法ナリ、桑港ノ齒科醫ヤンガーが一八八五年ニ施シタルヲ最初トス、然レトモブールデハ一七八〇年ニ謂テ曰ク『無責任ナル齒科醫ハ齒槽窩ヲ作爲シテ齒牙ヲ植立ス』ト

一 齒牙再植術

齒牙再植術

Replantation of Teeth
Replantation of Zahne

再植術ハ植齒術中最應用ノ範圍廣クシテ且最
多ク成功ヲ得ル處ノモノナリ、曾テ消毒法等ノ

嚴重ニ施行セラレサリシ時代ニ於テモ尙且良果ヲ收得スルコトヲ得タリト稱ス、
豫後ノ良好ナルモノハ二十年以上用ヲナサシムルヲ得ベシ、左症ニ適應ス

1 外襲暴力ニヨリ齒槽窩ヨリ脱出シタル齒牙 例之打撲墜落或ハ鉗子ノ亂
用等ニヨルモノ、如シ

2 根尖端孔外ニ逸出シタル刺戟性物質ニシテ他ノ方法ニヨリ除去シ能ハザ
ル時 例之神經針ノ尖端、繼續齒合釘ノ切片、根管充填物等之ニ屬ス

3 根端附近ノ疾患ニシテ外部ヨリ治療シ能ハザルモノ 例之慢性難治ナル
根端性齒膜炎、慢性齒槽膿瘍ニシテ原因不明ノモノ、根端附近ニ於ケル沈着物或ハ
腐骨片等ノ存在ノ疑アルモノ等ノ如シ

術式

凡テ植齒ハ單純ナル術式ノ如何ニヨリテノミ其成否ヲトスベキニアラ
ズ、其植立即成功ハ一ニ組織ノ癒合機ニヨルモノナルガ故ニ組織生活力
ノ旺盛ナルモノニアラザレバ之レヲ施スベカラズ、齒槽突起ガ漸ク吸收ノ徵候ヲ
顯ハセルモノ、齒齦緣萎縮、其他ノ老人性變化ヲ呈セルモノニハ寧ロ之レヲ行ハザ

ルヲ安全トス、再植術ヲ行フニハ普通左ノ順序ニヨル

一 拔牙 外傷或ハ其他ノ原因ニヨリ齒槽窩外ニ脱出シタルモノハ之レヲ論
ゼザルモ、口腔ニ植立セル齒牙ハ先ツ之レヲ拔去スルヲ以テ再植術ノ第一準備ノ
初メトナス、拔牙ヲナスニ就テ最注意スベキハ周圍ノ軟組織、齒槽窩及ビ齒牙ヲ毀
傷セザルコトナリトス、軟組織ヲ毀傷スレバ癒合ヲ遲滯セシメ且感染ノ期會ヲ増
スモノナリ、故ニ硬固ニシテ堅ク齒頸部ニ附着セル齒齦ハ拔牙ニ際シ豫メ齒齦刀
ノ銳利ナルモノヲ用ヒテ齒頸部ヨリ剝離シ置クヲヨシトス、齒槽窩殊ニ其遊離緣
ハ齒牙ヲ移動スルニ方リ容易ニ破折スルモノナリ、齒槽突起ノ破折ハ齒牙ノ維持
ヲ微弱ナラシメ、齒槽窩内ニ炎症刺戟ヲ招來スルノ患ヲ生ズルガ故ニ最介意スル
ヲ要ス、齒牙ヲ毀損スルトキハ他ニ其代用物ヲ求ムルコト能ハズ、移植或ハ義齒術
ヲ施スノ止ムヲ得ザルニ至ルベシ、其ニ再植術ノ満足ナルニ如カズ

二 齒牙ノ準備 再植齒トシテ使用スル齒牙ハ齒髓ノ生活セルモノト失活セ
ルモノトノ二アリ、其各ニヨリテ處置相同ジカラズ

生活髓ヲ有スルモノニシテ其齒髓モ又病態ヲ呈セズ、細菌ノ感染ヲ受ケザルモ
ノニアリテハ之レヲ其儘ニシテ直ニ使用スルヲ得ベシ、再植後齒髓ハ第一期癒合

ヲ營ミ或ハ僅微ナル組織的變化ヲ受クルノミニシテ長ク其位置ニ止マルベシ故ニ此ノ如キモノハ拔牙後直ニ微温滅菌食鹽水中ニ入レ置キテ再植ノ準備成ルヲ待ツベシ但齒髓生活セルモ其病態顯著ナルモノ或ハ細菌感染ノ疑アルモノハ之レヲ失活齒ト同様ニ處置スベシ

齒髓ノ己ニ失活セルモノニシテ齶窩ノ存在スルトキハ拔牙後直ニ之レヲ擴大シテ髓腔ヲ開擴シ、齶窩ノ存セザルモノハ舌面或ハ咬合面ヨリ穿孔シテ髓腔ヲ擴大シ腔内ヲ洗滌消毒シタルノ後乾燥消毒シ偏答百兒加或ハ軟性金箔ヲ以テ根管充填ヲ施シ其上ヨリ金屬充填ヲ行フベシ此ノ如クニシテ準備ノ完了シタル齒牙ハ用時迄之レヲ滅菌食鹽水中ニ容レテ貯フ但シ變色顯著ナル齒牙ハ根管ヲ清掃シタルノ後一日間、バイロゾン中ニ浸漬シテ漂白シ次デ根管充填ヲ行フモヨシ

三 齒槽窩ノ準備 齒槽窩ハ其外傷ニヨリテ生成シタルト拔牙ニヨリテ作爲シタルモノトニヨリテ其準備ヲ異ニス

外傷ノタメニ齒牙ノ脫出シテ生シタル齒槽窩ニアリテハ組織ノ壞死、感染及ビ周圍組織ノ炎症ハ到底免カレザル處ニシテ只僅ニ多少ノ別アルノミ故ニ外傷後直ニ齒牙ヲ植立スルハ極メテ疑ナキ能ハズ蓋シ壞死セル組織ハ數日ヲ經過セザ

レバ健康組織ヨリ分離セズ又感染セル細菌ハ數日後ニアラザレバ其存在ニヨリ不良症候ヲ發顯セザルベシ故ニ寧ロ數日間之レヲ猶豫シテ壞疽組織ノ分離シテ齒槽窩ノ健全ナル肉芽ヲ以テ裏裝セラル、ニ至ルヲ待ツヘシ三日乃至八日ヲ以テ足レリトナス、而シテ此時期ヲ經過スル間ニ細菌ノ感染セルモノアレバ多少其病的症候ヲ顯ハスベシ故ニ齒槽窩ハ外傷後直ニ多量ノ滅菌食鹽水ヲ以テ之レヲ洗滌シテ異物ヲ去リ能ク其内景ヲ診査シタルノ後遊離セル組織片アレバ之レヲ除去シ次デ洗滌用、バイロゾンヲ用ヒテ之レヲ反覆洗滌スベシ然ル後沃度防護、ガーゼヲ以テ齒槽窩ヲ栓塞シ、防腐性含嗽料ヲ投與ス、ガーゼハ日々之レヲ交換スルヲ要ス、又若シ周圍組織ノ發炎顯著ナルトキハ醋酸礬土水ノ罨法ヲ用ヒシムベシ、此ノ如クニシテ數日ヲ經過シ炎症消退シテ毫モ異常ヲ認メザレバ乃チ齒牙ノ植立ヲ行フニ適ス

拔牙ニヨリテ故意ニ作爲シタル齒槽窩ハ少シク之レト趣ヲ異ニス、即此ノ如キ齒槽窩ハ兼テ無菌的狀態ノ下ニ生成セラレタルモノニシテ外部ヨリ新ニ病毒ノ感染セラレタルコトナク、組織ノ毀傷顯著ナラザルヲ以テ炎症壞疽ヲ生起スルコト少ナシ、此ノ如キ齒槽窩ハ先ツ其内部ニ異常ノ存否ヲ確メ、之レニ適當ナル處置

ヲ加ヘタルノ後、滅菌食鹽水及、バイロゾンヲ以テ順次洗滌スルトキハ直ニ齒牙ノ植立ヲナスヲ得ベシ、但シ拔去シタル齒牙ヲ準備スルニハ一定ノ時間ヲ要スルヲ以テ其間齒槽窩ニハ滅菌、ガーゼ或ハ沃度仿謨、ガーゼヲ挿入シ置クベシ、或ハ數日間放置スルモ差支ナシ、然レドモ、ガーゼハ之レヲ日々交換シ口腔ハ防腐劑ヲ用ヒテ斷エズ含嗽セシムルヲ要ス

四 齒牙ノ植立及固定 齒牙及拔齒窩ノ準備完了シタルトキハ齒牙ヲ齒槽窩ニ植立シテ之レヲ其位置ニ固定シ癒着スルヲ待ツ

植立ハ極メテ容易ニシテ齒牙ヲ輕ク拇指ト示指トニテ撮ミ齒槽窩ニ挿入シテ毫モ壓下スルコトナクシテ徐々ニ回轉運動ヲ雜ヘツ、齒槽窩底ニ達セシムレバ足レリ、然レトモ拔齒或ハ外傷後數日ヲ經過シタルモノニシテ、ガーゼヲ以テ堅ク栓塞セラレサリシモノハ内腔少シク縮小セルヲ以テ挿入ニ際シ多少ノ抵抗ヲ認ムベシ、此ノ如キ時ハ齒根ノ尖端ヲ僅ニ切除シテ圓滑ナラシムルモ障害ナシ

固定ハ齒列矯正術中ニ述ブル處ト相似タリ、即當該齒ヲ中心トシテ兩隣齒ニ互ル處ノ鑲帶或ハ金帽ヲ調製シテ合着スルニアリ、或ハ銀鍍又ハ結紮糸ヲ以テ兩隣齒ニ繫着スルモ佳シ

然レドモ植立及固定ハ同時ニ之レヲ行フヲ便宜トス、即先ツ拔齒以前ニ口腔ノ印象ヲ採得シ、石膏模型ヲ作り、之レニ則リテ當該齒及兩隣齒ニ適合スル鑲帶或ハ金帽ヲ調製シ置キ、齒牙及齒槽窩ノ準備成リテ將ニ植立ヲ施サントスルニ際シ、當該帽ハ先ヅ之レヲ口外ニ於テ、セメントヲ以テ鑲帶或ハ金帽ノ適當ナル部ニ合着ヲ終リ、而シテ口内ニ於ケル兩隣齒ニハ嚴重ナル防濕法ヲ施コシ齒牙ヲ植立スルト同時ニ鑲帶ヲ兩隣齒ニ通過セシメ、セメントヲ以テ之レヲ合着シ其全ク硬化スルマデ其防濕法ヲ持續スルニアリ

其他簡便ナルハ結紮糸ヲ以テ固定スル方法ナリトス、即先ヅ植立セントスル齒牙ヲ前後ニ於テ結紮シ、同時ニ口内ニ於ケル兩隣齒ヲ各別ニ結紮シ置キ、次テ齒牙ヲ徐々ニ齒槽窩内ニ挿入シテ相對合スル結紮糸端ヲ各自結紮スルニアリ

五 後處置 手術後ハ無刺戟性防腐藥例之、バイロゾン、硼酸、メント水等ヲ以テ日々含嗽セシムルコト前述シタルガ如シ、局所ハ之レヲ數日毎ニ検査シテ其固定状態ト癒合ノ正否トニ注意シ、バイロゾンヲ以テ洗滌シ、發炎セル周圍ノ組織ニハ沃度丁幾合劑ヲ塗布スベシ

固定裝置着用ノ時日ハ常ニ相同シカラズ、小白齒及大白齒ハ對合齒トノ叩打ヲ

避クル能ハザルヲ以テ數週間金帽ヲ以テ完全ナル固定ヲナスヲ要ス、切齒ニシテ對合齒ノ叩打ナク經過善良ナルモノハ數週間ニシテ足レリ、予ハ最短一週日ニシテ固定裝置ヲ除去シ満足ナル效果ヲ收メタル經濟ヲ有ス

組織的變化

再植術ニ關與スル處ノ組織ハ主トシテ齒根ノ外側即白堊質ト齒膜ニシテ又若シ齒髓ノ生活セルモノアルトキハ齒髓モ亦多少ノ變化ヲ生ズ、抑再植齒ノ固植スルニ至ル理由ハ何ゾヤ、蓋シ次ノ組織的變化ノ一乃至數者ノ起ルニヨル

1 第一期癒合 極メテ良好ナル狀態ノ下ニ適當ノ所置ヲナシテ再植スルトキハ一度斷絶シタル白堊質齒膜間ノ連絡ハ直ニ回復シ、創面ハ第一期癒合ヲ營ムベシ、是レ最良ナル結果ニシテ再植齒ハ數日ニシテ全然固植スルニ至ル

2 白堊質表面ノ吸收 齒膜白堊質間ノ連絡第一期癒合ヲ以テ恢復セシト否トヲ問ハズ、白堊質ノ表面ハ破骨細胞ノ發顯ニヨリテ所々ニ不正ナル蝕蝕面ヲ生ジ、深淺不同ノ凹窩ヲ呈スルコトアリ、凹窩ハ白堊質面ト齒膜纖維トノ連絡ヲ確實ナラシムルモノニシテ初メ破骨細胞ヲ以テ充塞セラル、モ時日ヲ經過スルニ從ヒ肉芽細胞ヲ生シ、遂ニ白堊質或ハ骨樣組織ヲ新生スルニ至ル

3 化灰 白堊質ノ表面ニ生ジタル吸收窩ハ無限ニ存在スルモノニアラズ、一定ノ時日ヲ經過スレバ多クハ化灰シテ齒質ニ生ジタル實質缺損部ヲ補綴スベシ、加之其化灰度ヲ超エテ旺盛ナルトキハ齒膜ノ一部モ亦化灰シテ終ニ齒根ノ表面ハ齒槽窩ノ内面ト限局性骨性癒着ヲ生ズルニ至ルコトアリ

4 器械的適合 再植齒ハ恰モ夫ノ濡レ紙ヲ卷付ケテ挿入シタル木釘ノ如ク器械的ニ維持ヲ助ケラル、モノナリ、蓋シ齒膜ハ強靱彈力性ヲ有シテ如何ナル部分ヲモ全ク填塞シ、加フルニ齒根ト齒膜トノ間ニ微細ナル空隙アレバ炎症性滲出物ハ茲ニ侵入シテ新組織ヲ形成シ可不及ナク之ヲ填塞ス

失敗ノ理由

然ルニ再植術ハ常ニ必ラスシモ成功スルモノニアラズ、或ハ當初ヨリ毫モ固植ノ起ラザルコトアリ、或ハ一度固植シタル者再ビ弛緩ヲ初メ終ニ全然齒槽窩ヨリ脱出スルニ至ルコトアリ、其理由種々アリ

1 感染 消毒ヲ怠リ、或ハ徒ニ手術ヲ急キテ壞死組織ノ分離ヲ待タサルトキハ再植後化膿性齒膜炎ヲ起シ、齒膜白堊質間ノ連絡ヲ恢復シ能ハサルコトアリ

2 固定不全 再植後固定不完全ナルトキハ咀嚼、談話、齒刷子ノ使用等ニ際シ弛緩動搖シテ靜止スルコト能ハズ、齒膜ト白堊質トノ癒合機極メテ遲滯シ或ハ全

然休止シテ容易ニ細菌ノ侵入ヲ許ルシ固植セサルコトアリ

3 齒根ノ吸收 前述ノ如ク再植後白堊質ノ表面ニ數多ノ微細吸收窩ヲ生成スルコトハ極メテ稀有ナラズト雖モ其吸收作用時トシテ其度ヲ超エ只ニ白堊質ノミナラズ之レヲ侵蝕シ盡シテ遂ニ象牙質ニ到達シ之カタメニ術後一タビ固植シタル齒牙再ヒ弛緩ヲ初メ遂ニ全ク脱出スルニ至ルコトナキニアラズ

生活齒髓ノ運命

再植齒牙若シ生活齒髓ヲ有スルトキハ極メテ稀ニ第一期癒合ヲナシテ齒髓ト齒膜トノ連絡復舊スルコトナキ

ニアラズト雖モ夫ノ根尖端孔ノ微細ナルニヨリ齒髓組織ヲ充分營養スベキ多量ノ血液ヲ送付スルコトノ容易ナラザルヲ思ハザルベカラズ故ニ齒髓ハ再植後一部或ハ全部ノ壞疽ニ陥リ種々ノ變性ヲ致ス纖維樣變性、脂肪變性及ビ石灰變性ヲ其ノ最トナス但シ此ノ如キ變性ハ收テ顯著ナル臨牀的症候ヲ呈セザルガ故ニ外部ヨリ之レヲ窺知スルコト難シ但シ不幸ニシテ化膿菌ノ侵入スルコトアレバ齒髓ハ容易ニ化膿シテ破壊スルニ至ルコト勿論ナリ

豫後

體質善良ナルモノヲ撰ヒテ施術其當ヲ得レバ豫後極メテ佳良ナリ固植充分ナルトキハ數十年間其機能ヲ營爲セシムルヲ得ベシ

二 齒牙移植術

齒牙移植術

Transplantation of Teeth
Transplantation der Zähne

移植術ハ米國齒科學ノ發達シ初メタル頃ニ隆盛ヲ極メタル者ニシテ米國ニ於テ初メテ

之レヲ施シタルハ佛人ルメートル(一七八一年)ナリ然レドモ其漸ク擴布セララルハヤ失敗モ亦漸ク知悉セラレ加フルニ近世ニ至リ無髓齒ノ治療、繼續架工術等ノ進歩スルニ及ビテ移植術ハ又昔日ノ如キ聲望ヲ保ツコト能ハザルニ至レリ左ノ如キモノニ適應ス

- 1 外傷ニヨリ偶然齒牙ノ脱落シタルモノ
- 2 殘根ニシテ朽傷甚シク繼續術ヲ施シ難キモノ
- 3 凡テノ療法ヲ以テ治療セザル齒根ノ疾病アルモノ
- 4 齒列不正ノモノ例之犬齒ガ外方ニ突出シテ第一小臼齒ハ其位置ヲ占領シ、齒列内ニ犬齒ヲ容ル、コト能ハザルトキノ如シ此ノ如キ場合ニアリテハ第一小臼齒ヲ拔去シテ犬齒ヲ其位置ニ移植スルガ如シ

此等ノ適應症ト雖モ移植スベキ齒牙ヲ所有スルニアラザレバ之レヲ施スコト

素ヨリ難シ、但シ新鮮ナルト乾燥セルトハ間フ處ニアラザルナリ

術式

齒牙移植術ハ再植術ト略ホ同一ナル方法ニヨリテ之レヲ行フモノナレトモ、又其間多少ノ別ナキニアラズ、左ノ順序ニヨリテ行フヲ便トス

一 拔牙 通法ニヨリ齒牙及ヒ周圍組織ヲ毀傷セザル様注意シテ拔牙シ、齒槽窩ニハ齒牙ノ準備完成シ且炎症全ク消退スルマデ沃度仿謨、ガーゼヲ栓塞シ置クベシ、時々「ガーゼ」ヲ交換シ防腐藥ヲ以テ洗滌スルコト再植術ニ同ジ

二 齒牙ノ撰擇及ビ準備 移植セントスル齒牙ハ可及的新鮮ナルモノヲヨシトス、然レトモ大小形狀色彩共ニ適當ナル天然齒牙ヲ得ルコト極メテ容易ナラザルヲ以テ多クハ兼テ拔牙シテ稀薄酒精中ニ貯ヘ置タル齒牙ノ中ヨリ之レヲ撰擇スルモノトス、乾燥齒牙ハ其髓腔ヲ充分ニ開擴シテ内部ヲ清掃消毒シテ根管充填ヲナスコト再植術ニ於ケルガ如シ、而シテ其齒根ノ形狀及方向ガ拔牙窩ニ適合スルヤ否ヤヲ口腔ニ就テ試ミ、任意、カーボランダム、輪子等ヲ以テ鑿刮形成ス、若シ大小形狀適當ナル天然齒牙ヲ得ル能ハサルトキハ先ツ齒根ノ類似シタル齒牙ヲ取り、齒冠部ヲ鋸斷シ、之レニ大小形狀色彩共ニ適合スル處ノローガン齒冠ヲ「セメント」ニテ合着シ、之レヲ天然齒ト同様ニ植立スルモヨシ

他人ノ口腔ヨリ得タル齒牙ハ殊ニ消毒ニ注意シ、二十四時間以上五%石炭酸水、或ハ千倍昇汞水中ニ浸漬スルヲ要ス

三 齒牙ノ植立及ヒ固定 先ツ移植齒ヲ充分消毒シ齒冠部ヲ乾燥シタルノ後、兼テ調製シ置キタル鑲帶ヲ移植ニ先ツテ「セメント」ニテ合着シ、同時ニ他方ニ於テハ口腔ニ於テ齒槽窩ヲ洗滌消毒シ、兩隣齒ニ防濕法ヲ行ヒ、齒牙ヲ植立スルト同時ニ隣齒ニ「セメント」ヲ以テ鑲帶ヲ合着ス、固定ニハ金帽或ハ結紮糸ヲ用ユルモヨシ

四 後處置 再植術ニ於ケルカ如ク時々移植齒ヲ檢査シテ洗滌シ、反應性炎ノ發起スルアレバ沃度丁幾合劑ヲ周圍ニ塗布シ、且絶エス防腐性含嗽劑ヲ使用セシム、固定ハ四乃至八週間之レヲ持續ス

組織的變化

第一期癒合ニヨリテ齒膜ト白堊質トガ其連絡ヲ復得スルコトハ極メテ稀有ナリ、同人或ハ他人ノ口腔ヨリ拔去シタルモノヲ即時ニ移植シタルトキハ稀ニ之ヲ見ルベシト雖モ、他人ノ口腔ヨリ得テ強力ナル消毒藥ニ觸接セシメタルモノハ殆ト全ク之ヲ期待スルコトヲ得ズ

I. 器械的適合 移植術ニアリテハ夫ノ再植術ノ如ク齒根ト齒槽窩トノ適合極メテ緊密ナラズト雖モ、兼テ口外ニ於テ齒根ヲ略齒槽窩ノ形狀ニ一致スル様調

製シテ而シテ植立スルトキハ齒膜ハ先ツ其彈力性ニヨリテ大概過不及ナク各部ニ適合シ加之齒膜ノ表面即白堊質トノ接合部ニ逸出シタル滲出物ハ忽チニ凝固成形シテ纖維性物質ニ變シ齒膜ト白堊質表面トノ適合ヲ補フベシ

2 吸收窩ノ形成 白堊質ノ表面ニ無數ノ微細吸收窩ヲ生ジテ恰モ齒根表面ニ刻目ヲ附與シタルカ如キ外觀ヲ呈シ以テ齒膜纖維ノ附着ヲ強固ナラシム、窩ハ多核不正形ノ巨態細胞ヲ以テ充塞セラレ或ハ骨樣質ノ沈着ヲ起サシム

3 化灰 吸收窩ハ時日ヲ經過スルニ從ヒ骨樣質ノ沈着ニヨリテ其缺損漸ク細小トナリ、遂ニ全然沒了セラレ、コトアリ、加之化灰ハ更ニ進行シテ齒膜ノ一部ヲ侵シ骨質ニ達シテ茲ニ白堊質ト骨質トヲ連絡セシムルコトアリ

豫後

施術ノ豫後ハ之レヲ再植術ニ比スルニ極メテ良好ナリト稱スル能ハズ、殊ニ乾燥セル齒牙ヲ使用スル時ニ於テ然リトス、故ニ手術後固定ヲ完全ニシ消毒ヲ嚴重ナラシメサレバ細菌ノ侵入スル患頗ル多シ、施術ノ經過佳良ニシテ全然固植スルトキハ十數年間尙其用ニ堪フヘシト云フ

三 齒牙嵌植術

齒牙嵌植術

Implantation of Teeth
Implantation der Zähne

嵌植術ハ一八八五年ヤンガーガ初メテ施シタルモノナレトモ其効果確實ナラズ、加フルニ一

方ニ於テ繼續術、架工術等ノ進歩スルアリ、從テ現在之レヲ實施スルモノ又多カラズ、寧ロ一實驗ニ過ギズト謂ツベシ

蓋シヤンガーノ謂フガ如クンバ顎骨ノ任意部ニ已ニ收閉シタル齒槽窩ヲ再ビ開鑿シテ他ヨリ得タル天然齒ヲ植立セシメ得ヘキ理ナリ、故ニ其効果常ニ良好ナリトセバ又義齒術ノ用ヲ絶ツベキナリ、然レトモ僅ニ齒膜或ハ骨膜ノ癒合力ノミニヨリテ維持セラル、齒牙ノ長ク口腔ニアリテ其要ヲ營ムヘキハ極メテ疑ナキ能ハズ、試ニ茲ニ數齒缺如シタル齒列アリトセヨ一方ヨリ序ヲ追フテ悉ク之レニ嵌植術ヲ施コサントスルモノアランヤ、其煩ニ堪エサルベシ、之レニ反シ茲ニ齒列中一齒ノ缺如セルモノアリトセヨ誰カヨク効果ノ疑ハシクシテ且煩雜ナル嵌植術ヲ施コスモノアランヤ、一部義齒或ハ架工義齒ハ實用外觀共ニ遙ニ優レル効果ヲ與フルヲ得ベシ、之レニヨリテ之レヲ見レハ齒牙嵌植術ハ一實驗的ノ方法ニシテ齒科治療學上何等ノ興味アルモノニアラズ

術式

先ツ大小形狀色彩適當ナル新鮮或ハ乾燥齒ヲ撰ミ、髓腔ヲ開擴シテ通法ノ如ク充填シ、次デ其對合齒トノ咬合狀態ヲ試ミテ成形ス

齒牙ノ準備成リタル時ハ口腔ヲ完全ニ消毒シ、局處麻醉ノ下ニ銳利ナル切開刀ヲ用ヒテ施術部ノ齒齦ニU字形切開ヲ施シテ骨質ニ達セシム、而シテ骨膜起子ヲ以テ軟組織ヲ骨質ヨリ剝離シ、方形骨膜瓣ヲ作ル、其基底ハ内外何レニ向フモ佳ナリトス

次テ露出シタル骨質ニヤンガー穿孔子ヲ用ヒテ適當大ノ凹窩ヲ作り、時々齒牙ヲ試植シテ對合齒トノ關係ヲ檢シ、其適當ナルニ至レバ更ニ凹窩ヲ洗滌消毒シテ齒牙ヲ植立シ、隣齒ニ結紮シ、或ハ銀帶又ハ金帽ヲ用ヒテ固定ス

施術面ハ時々洗滌消毒シテ且絶エス防腐性含嗽ヲナサシムルコト前法ノ如シ、固定ハ少クトモ一二ヶ月間之レヲ持續スルヲ要ス

氏ノ説ク處ニヨレバ嵌植齒ノ維持ハ一ニ齒膜ノ機能ニヨルモノニシテ齒膜ハ拔齒後齒槽窩ノ閉凋シタル後尙數月間其附近ニ遺存スル者ニシテ嵌植術ヲ施スヤ齒膜ハ其外面ヲ以テ骨膜及骨質ニ連續シ、内面ヲ以テ齒根トノ連絡ヲ營ミ、茲ニ假骨質ヲ形成ス、數年以上此方法ヲ以テ齒牙ノ機能ヲ營マシムルヲ得ベシト云フ

第十五章 齒牙矯正術

齒牙矯正術

Orthodontia; Tooth-regulation
Orthodontie; Zahnregulierung

トハ一或ハ數齒ノ位置ノ異常(齒列不正)ヲ矯正シテ咬合及顔貌ヲ正常ナラシメ以テ

口腔ノ機能ヲ完全ニ營爲スルヲ得セシムル方法ヲ云フ

齒科醫學ガ一般醫學ノ一分科トシテ特立スルニ至リシヤ否ヤ、幾モナク齒牙矯正術ノ起始セルハ記録ノ示ス處ニシテ埃及ニ於テ當時最隆盛ナリシガ如シ、故ニ埃及時代ノ木乃伊ヲ檢スルニ轉位齒ヲ一定ノ位置ニ致サンガタメニ金銀線並ニ副木等ヲ使用セル痕跡ヲ認ムベシ、然レトモ其學術的進歩ヲナセシハ僅ニ最近三十年ニシテコフィン、アングル、ブアツフド、ヘルブスト、ケース等與ツテ力アリ

一 齒列不正ノ原因

齒列不正

Anomalies of dental Arch
Anomalien der Zahnreihen

ハ遺傳性ニ之ヲ見ルコトナキニアラズト雖モ後天性原因ニヨリテ生スルモノ極メテ多シ、就

中全身原因ニヨルモノアレトモ、局處原因ニヨリテ生起セラル、コト遙ニ多シ、原

齒列不正ノ原因

因ノ主ナルモノ左ノ如シ

1 乳齒ノ晚期存在 乳齒ハ六歳乃至十二歳ノ間ニ於テ序ヲ追フテ脱落シ、成齒ト置換スルモノナリ、然ルニ何等カノ原因ニヨリ乳齒根ノ吸收完全ニ營爲セラレズシテ脱落期ニ達スルモ尙其位置ヲ固守シテ動カザルモノアリ、此ノ如キ場合ニアリテハ下ヨリ萌生シ來ル成齒ハ止ムヲ得ズ齒列外ニ萌出スルカ、或ハ長ク乳齒下ニ埋伏スルコトアルベシ

2 乳齒ノ早期喪失 小兒ノ顎骨殊ニ齒槽突起ハ乳齒ヲ使用スルニヨリテ發育ヲ全フスルモノナリ、然ルニ乳齒ニシテ早ク喪失スルトキハ齒槽突起ハ完全ニ發達スル能ハズ、又兩隣齒ハ多少傾斜ヲ起スベク、從ツテ後日萌出シ來ルベキ永久齒ニ充分ナル空隙ヲ與フルコト能ハザルヤ明ナリ

3 成齒ノ喪失 顎骨殊ニ齒槽突起ハ齒牙ノ存在シタルトキニノミ完全ニ發育スルモノナリ、故ニ小兒ノ顎骨中ニ於テ成齒ヲ拔去スルヤ其部ノ顎骨ハ完全ニ發育セズシテ以テ齒列ノ不正ヲ致スベシ

4 成齒ノ萌出遲滯 成齒ノ萌出遲滯シテ數ヶ月乃至數年間齒槽窩内ニ埋伏セルトキハ兩隣齒ハ漸次互ニ空隙ニ向テ多少傾斜シ、當該齒ノ萌出セントスルニ

方リ充分ノ空隙ヲ供スルコト能ハズ、當該齒ハ已ムヲ得ズシテ齒列外ニ轉位萌出スルニ至ルベシ、之レ上顎犬齒及小白齒ニ於テヨク目撃スル處ナリ

5 過剩齒 ハ上顎切齒部ニ顯ハレテ過剩齒自身又ハ他齒ノ一乃至數者不正位置ヲ取ルコトアルベシ

6 變位齒 ハ頗ル稀ナレトモ時トシテ上顎切齒又ハ犬齒部ニ顯ハレテ又齒列不正ノ原因ヲナスコトアルベシ

7 充填義齒等ノ咬合不正 上下齒牙ノ關係的位置ハ各齒ノ咬合面ノ狀態ニヨリテ調節セラル、モノナリ、然ルニ其中ノ一乃至數者ノ咬合面缺損シ、之レヲ補綴スルニ充填又ハ義齒等ヲ以テシ、而カモ其咬合狀態完全ナラザルトキハ數多ノ年月ヲ閱スル間ニ續發性咬合不正ヲ生シ、其關係的位置ヲ全然變化セシムルコトアルベシ

8 外傷 永久齒又ハ其齒槽突起附近ニ外力ノ加ハリテ之レヲ破折シ、又ハ轉位セシムルコトアリ、又若シ乳齒ニ暴力ノ加ハルトキハ其下ニ埋伏セル發育中ノ永久齒芽ニ影響ヲ及ホシテ或ハ畸形齒ヲ生ジ或ハ轉位置ヲ生ズルコトアルベシ

9 口唇繫帶ノ異常 口唇殊ニ上唇ニ附着スル繫帶ノ發育及附着ノ狀態ガ正

中離開ノ生成ト多大ノ關係ヲ有スルコトアングル、ケッチヤム等ノ説ク處ナリ

10 鼻腔ノ通氣不正 鼻腔ニ腺腫、中隔彎曲、甲介肥大、肥厚性炎等ノ疾患アリテ通氣不全ナルトキハ上顎竇其他ノ副竇ヲ初メトシテ顎骨、齒槽突起ノ發育完全ナル能ハズ、口呼吸ヲ營ムノ結果トシテ舌、頬、唇等ノ共同運動ニ不調和ヲ生シ、齒列不正ノ緊要ナル原因ヲナス、夫ノ腺様増殖ヲ有スルモノガ常ニ口唇ヲ弛緩シテ口呼吸ヲ營ミ、口腔ニハ深クシテV字形ヲナセル齒穹ヲ有スルコト日常ヨク目撃スル處ナリ

11 習慣 齒牙ノ置換期即顎骨ノ發育旺盛ナル時ニ方リテ不良ナル習慣ヲ有スルカタメニ齒列ヲシテ不正ナラシムルコト少ナカラズ、極メテ注意スベキ事柄ナリトス、夫ノ拇指ヲ口腔ニ入レテ吸フモノ、又夫ノ上切齒ヲ以テ下唇ヲ咬ムモノ等ガ切齒部ノ齒列不正ヲ有スルコト多キハ之レナリ

12 全身状態ノアルモノハ直接或ハ間接ニ顎骨ノ發育ニ影響ヲ及ホシテ齒列不正ノ原因トナルコト決シテ少カラズ、少時顎骨發育中發疹病、慢性消化器病等ニ罹レルモノ、佝僂病、肢端肥大症、甲狀腺其他ノ内分泌腺疾患等ヲ其主ナルモノトス

二 矯正ノ適應症

適應症

齒列ノ不正ハ如何ナル種類及ビ程度ノモノヲモ矯正シ得ヘキヤ否ヤハ極メテ疑問ニ屬ス、然リト雖モ後條ニ説ク處ノ矯正ノ條件ニシテ許スベクンバ左ノ種類ノモノハ之レヲ矯正術ニヨリテ整復スルヲ得ベシ

一 轉位齒 ハ齒列不正ヲ生スル最大原因ニシテ其一齒ニ止マルコトアリ、或ハ數齒同時ニ轉位スルコトアリ、齒穹ノ内側ニ轉位スルトキハ齒穹ヲ狭小ナラシメ、外側ニ轉位スルトキハ齒穹ヲ不正ニ膨大ナラシム、轉位ノ最多ク顯ハル、ハ切齒部ナリトス、蓋シ切齒ハ單根圓錐形ニシテ抵抗比較的少ナク、且永久切齒ハ乳齒列以外ニ萌出スルヲ以テナリ

轉位齒ハ齒列内ニ之レヲ容ル、ノ空隙存在スルトキハ容易ニ矯正力ヲ加ヘテ整復シ得ヘシト雖モ、若シ齒列ノ大サニ比シテ齒牙ノ幅員大ナルトキハ一或ハ數齒ヲ犠牲ニ供セサルベカラザルコトアリ、故ニ轉位齒ノ矯正ヲ企ツルニハ先ツ其齒穹ノ正常ナルヤ否ヤヲ研究セサルベカラズ

二 捻轉齒 齒牙ガ其長軸ニ沿フテ廻轉シテ生スルコトアリ、之レヲ捻轉齒ト

云フ、單根圓錐形ノ切齒ニ最多シ、其上顎切齒ニ顯ハル、ヤ發音不明瞭ニシテ外觀不良ナリ、故ニ之レヲ廻轉シテ齒列内ノ正位ニ矯正スルヲ要ス

三 齒穹ノ異常 齒穹ハ類橢圓形ニシテ齒牙ハ整然一列ヲナシテ其内ニ植立スルモノナレトモ、齒槽突起ノ發育不正ナルカ、或ハ數齒轉位萌出スルトキハ種々ナル不正形ヲ呈ス、V字形齒穹、瓢形齒穹、狹縮齒穹等ノ如シ、此等ノ齒穹ハ外觀不良ニシテ發音及ヒ咀嚼ノ機能ヲ障碍スルコト大ナリ

四 齒牙長徑ノ異常 齒列内ニ齒牙ノ植立スルヤ其長徑比較的一致シ、上下顎骨ヲ閉合スレハ各齒一樣ニ對合齒ト相咬合スル者ナリ、然レトモ其中ノ一或ハ數齒長キニ過クルトキハ他ノ齒牙ハ對合齒ト咬合スルコト能ハザルベシ、之レヲ延長齒ト稱ス、之レニ反シ齒列中ノ一或ハ數齒短キニ過クルトキハ咬合ニ方リ對合齒ト相觸接スルコト能ハス、之レヲ短縮齒ト云フ、延長齒或ハ短縮齒ノ何レニヨルヲ問ハズ數齒ガ對合齒ト咬合スルコト能ハサル状態ヲ咬合缺如ト稱ス、其前方ニ於ケル數齒ガ相離開セルヲ殊ニ開咬ト云フ、凡テ齒長ノ異常ニヨリテ生起セラレ不正ハ咀嚼及ヒ發音ニ多大ノ障碍ヲ致スベシ

五 咬合ノ異常 上下兩顎ノ關係的位置ノ錯誤モ亦大ニ矯正術ヲ要スルモノ

ト云フベシ上下兩顎共ニ各自後退又ハ前突スルコトアリ或ハ大小臼齒部ニノミ異常アルコトアリ或ハ前齒部ニノミ限局セルコトアリ

六 顔貌ノ異常 顔面角其他顔面下部ノ調和ヲ失シタルモノモ亦矯正術ノ適應症ヲナス

三 矯正ノ條件

條件

Condition
Behningsson

前述ノ如ク齒牙及顎骨ノ矯正ハ常ニ必ラズシモ成功スルモノニアラズ、故ニ一定ノ條件ヲ具備セルモノニアラザレバ之レヲ施スベカラズ

一 年齢 八歳ヨリ十八歳ノモノハ齒牙矯正術ヲ行フニ最適當ナリ、極メテ幼若ナルモノハ骨質ノ化灰尙進行セザルヲ以テ齒牙ノ移動容易ニシテ且整復後顎骨ヲシテ正規ノ發育ヲ遂ゲシムルノ希望多シト雖モ元來自ラ矯正ノ必要ヲ認識スルノ力ニ乏シク、從テ矯正術ニ伴フ種々ノ苦痛ト煩勞ニ堪エザルヲ以テ効果頗ル疑ハシ、之レニ反シ年齢漸ク進ンデ十八歳ヲ超ユルヤ骨質ノ化灰漸ク完成シ、齒牙ヲ移動スルニ多大ノ抵抗ヲ生ジ、且年齢ト共ニ漸ク再生力ヲ減ズルヲ以テ齒牙

ノ移動ニヨリテ生ジタル骨質吸收部ノ代償極メテ容易ナラズ、矯正齒ノ固定ニ長時日ヲ要ス、且一度不正發育ヲ終リタル顎骨ハ整復後又正規ノ形態ヲ受得スルニ至ルコト前者ノ如クナル能ハザルナリ、故ニ矯正ハ八乃至十八歳ノ間ニ於テ可及的早期ニ施コスヲ最良トス、體質ト事情トニヨリテ時期ヲ撰擇スベキナリ

二 健康狀態 凡テ矯正術ハ其施術ニ少カラザル時日ヲ要シ、且ツ其ノ口腔ノ機能殊ニ咀嚼運動ニ多少ノ拘束ヲ加フルヲ以テ、或ハ消化不良、營養不給ヲ生起スルノ患ナキ能ハズ、故ニ健康不良ナルモノニハ先ツ其健康ヲ恢復セシメテ然ル後ニ之レヲ施スベシ、其他健康不良ナルモノハ組織ノ恢復力ニ乏シク矯正術ノ効果ヲ危カラシムルコトナキニアラズ

三 認識力 矯正術ヲ施スハ一定ノ時日ト費用ト及ビ不快ニ堪フルノ忍耐力トヲ有スルノ患者ナラザルベカラズ、而シテ之レ實ニ矯正ノ必要ヲ認識スルモノニアラザレバ望ムベカラザル處ナリ、幼若者常識ノ少ナキモノ、及ビ不整ノ程度輕微ナルモノニアリテハ極メテ疑ハシ、要スルニ矯正術ハ術者ノ能力ニ據リテ成否ノ別ヲ生ズルノミナラズ、又患者ノ忍耐力及ビ認識力ニ待ツ處些少ナラズ、時期ヲ誤マラズシテ矯正力ヲ増減シ、或ハ口腔ヲ不潔ニ陥ラシメザル等凡テ之レナリ、而

シテ之レ實ニ矯正術ノ効果ニ至大ノ影響ヲ有スルモノナリ

四 矯正ノ原理

矯正ノ原理

Principles of Orthodontia
Prinzipien der Orthodontie

齒列ヲ矯正スルニハ或裝置ヲ以テ徐々ニ齒牙殊ニ齒冠ノ一部ニ牽引力或ハ追進力ヲ加

エ、齒槽突起ノ實質ニ緩徐ナル骨質吸收ヲ起サシメ以テ齒牙ヲ移動スルヲ常トス、移動シタル齒牙ハ整復當時ニアリテハ弛緩セリト雖モ一定ノ時日間完全ニ之ヲ固定スルトキハ再ヒ周圍ニ骨質ヲ新生シテ固植スルニ至ルベシ、即矯正術ヲ行フニハ 1 先ツ齒列内ニ不正齒ヲ入レ得ベキ空隙ヲ作爲シ置キテ 2 次ニ堅固ナル固定點ヲ撰ミテ 3 之レヲ中心トシテ矯正力ヲ不正齒ニ適用シテ移動セシメ 4 其完全ナル位置迄移動シタルトキハ即其固植スルニ至ル迄之ヲ其部ニ固定スルモノナリ

(一) 空隙ノ作爲

Making the Space
Raum abdecken

轉位セル齒牙ヲ齒列内ニ整復センニハ先齒列内

ニ之レヲ容ル、ノ空隙ナカルベカラズ、然ルニ齒列ハ常ニ必ラズシモ此空隙ヲ具備スルモノニアラズシテ、或ハ僅ニ之レヲ有シ、或ハ全然之レヲ缺如ス、要スルニ之

レ齒牙ト顎骨ノ大サトノ不調和ニ基クモノニシテ、齒牙ノ大ナルカ或ハ顎骨ノ小ナルカニ歸スベシ、齒牙ノ過剰ニシテ顎骨ガ其全部ヲ受容シ能ハサルトキハ其中ノ比較的要用ノ少ナキモノ一或ハ數ケテ拔除シテ齒列ノ不正ヲ整復スベシ、之レニ反シ顎骨ノ小ニ過クルニ方リテハ之レヲ擴大シテ以テ齒牙ヲ齒列内ニ受容セシム、齒牙ノ大ニ過クルカ顎骨ノ小ニ失スルカヲ判斷スルハ極メテ難事ナリトス、然レトモ口腔ノ機能ヲ完全ニ營爲スルヲ得テ而カモ顔貌ノ正常ナルトキハ吾人ハ之レヲ以テ正常ナル齒列ナリトス、故ニ之レヲ標準トシテ矯正ヲ企圖シ得ベキナリ

齒列内ニ空隙ヲ作爲スルニ左ノ三法アリ

I 隣齒ノ側壓 齒列内ニ於ケル空隙ノ不足極メテ僅微ナルトキハ兩隣齒ヲ側方ニ壓開シテ以テ所望ノ空隙ヲ作ルヲ得ベシ、之レ齒間分離法ニ於ケルガ如ク對側ノ齒膜ガ其彈性ニヨリテ扁平菲薄トナルニヨルモノ、如シ、尙少許ノ空隙ハ之レヲ行フニ先タチ兩隣齒ノ側面ヲ少シク鏟刮スルニヨリテ得ラルベシ

2 拔齒 齒列ノ大サ正常ニシテ轉位齒ヲ受容スルノ空隙ヲ有セズ、而カモ轉位齒ハ緊要ナル齒牙ニシテ之レヲ拔去シ能ハサルトキハ齒列中ノ齒牙ニシテ比

較的緊要ナラサルモノヲ犠牲ニ供シテ除去シ、之レニヨリテ空隙ヲ作爲シ、茲ニ轉位齒ヲ整復スルコト少ナカラズ、前方齒牙ノ轉位及ヒ顎骨ノ突出ニ於テ數々行フ處ナリトス

上顎切齒及犬齒ハ其形態特異ニシテ其一個ヲ缺如スルモ直ニ醜惡ナル外貌ヲナス、故ニ其一或ハ數個ノ轉位スルコトアルモ之レヲ拔去スルハ勉メテ避クベキ處トス、此ノ如キ場合ニハ通例外觀ニ罹ルコト尠ナキ小臼齒ヲ犠牲ニ供ス、殊ニ第一小臼齒ヲ然リトス、但第二小臼齒ノ齶蝕ニ罹レルカ、或ハ轉位セルトキハ之レヲ撰フモ差支ナシ、拔齒ニヨリ齒列ノ一部ニ空隙ヲ生スルトキハ直ニ其前方ニ存スル齒牙ヨリ順次ニ後方ニ牽引シテ齒列内ニ容レ、遂ニ目的トスル處ノ轉位齒ヲ其固有ノ位置ニ整復ス

3 齒穹ノ擴大 齒列ノ不整ガ齒穹ノ狹縮ニヨリテ生起セラル、トキハ之レヲ擴張シテ正規ノ大サニ達セシメ以テ轉位齒ヲ固有ノ位置ニ容ル、ヲ得、切齒ノ叢生及狹縮齒穹ニ於テ最多ク施ス處ナリトス

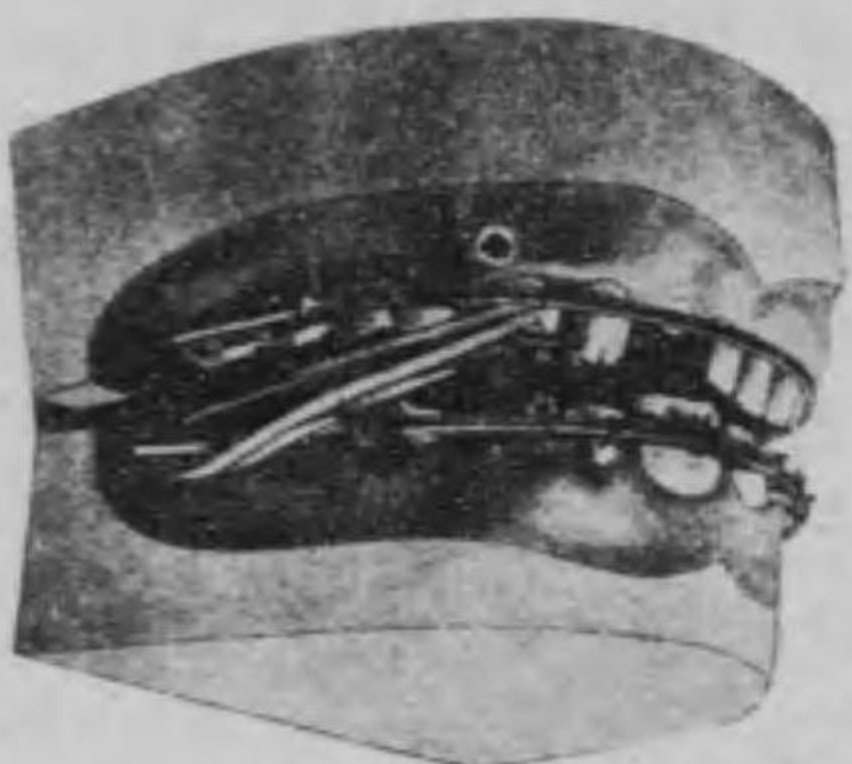
(二) 固定ノ撰擇 *Selecting the Anchorage* 轉位齒ヲ移動スルニハ先ツ確固不動ナル固定點ヲ撰ンデ之レヨリ轉位齒ニ牽引力或ハ追進力ヲ加フ、然レトモ動力ハ必ラズ

反動力ヲ伴フモノナルヲ以テ固定點ニシテ確固ナラザルトキハ轉位齒ノ移動ニ伴フテ多少固定齒ノ移動セラル、モノナリ、故ニ左ノ一ヲ撰ンテ強固ナル固定ヲ作ルベシ

- 1 轉位齒ヨリモ植立遙ニ強固ナル齒牙ヲ撰ム 即切齒或ハ犬齒ヲ移動スルニ大白齒ヲ固定齒トナスガ如シ、轉位齒ノ植立極メテ大ナラザルトキニ用ユ
- 2 數齒ノ抵抗ヲ連合シテ固定裝置ヲ作ル 數個ノ小白齒或ハ大白齒ニ鑲帶或ハ金帽ヲ相連續シテ作り固定齒トナスハ最安全ナル方法ナリ
- 3 反動力ヲ中和ス 轉位齒ヲ矯正セントスルカヲ用フルトキハ必ラズ之レガ反動力起リテ固定齒ヲ轉位齒ノ方向ニ牽引セントスベシ、故ニ此反動力ヲ中和センガタメ之レト反對ノ方向ニ働クカヲ用ユルニアリ
- 4 齒槽突起ノ抵抗ヲ應用ス 蒸和護謨或ハ金屬ヲ以テ床板ヲ作り、之レヲ固定裝置トナス、口腔内ニ於テ多大ノ容積ヲ占取シ不潔ニ陥リ易キノ弊アレトモ頗ル確實ニシテ有用ナル裝置ナリ
- 5 對顎齒列ノ抵抗ヲ利用ス 夫ノ下顎ノ突出或ハ後退ヲ矯正スルニ上顎ノ抵抗ヲ應用スルガ如シ(第百四十六圖)

6 後頭部ノ抵抗

ヲ應用ス 數多ノ齒牙ヲ矯正スル時、或ハ顯著ナル顎骨ノ突出ヲ矯正スルニ方リテハ口腔内ニ充分ナル固定ヲ得ルコト能ハズ、故ニ特ニ特別ナル裝置ヲ作爲シテ後頭部ニ適合スル帽狀固定裝置ト口腔ニ於ケル裝置トヲ連絡セシメテ矯正スルコトアリ、其應用ノ範圍稍制限セラル、ト雖モ、之レヲ適用シ得ル場合ニハ極メテ確實ナル方法ナリ(第百四十七圖)



圖百四十六第 (Pfaff) 對顎抵抗ノ利用



圖百四十七第 (Pfaff) 後頭部ノ抵抗ノ利用

(三) 矯正力ノ適用 Apply the Regulating force Regelmäßig, sanft, anzuwenden 安全ナル固定齒ヲ撰擇スルヲ得タルト

キハ之レヨリ不整齒ニ矯正力ヲ適用スベシ、矯正力トシテ使用セラレベキモノ數種アリ

I 彈性帶 彈性帶ヲ緊張シテ固定齒ト不整齒トヲ連結スルトキハ其收縮力

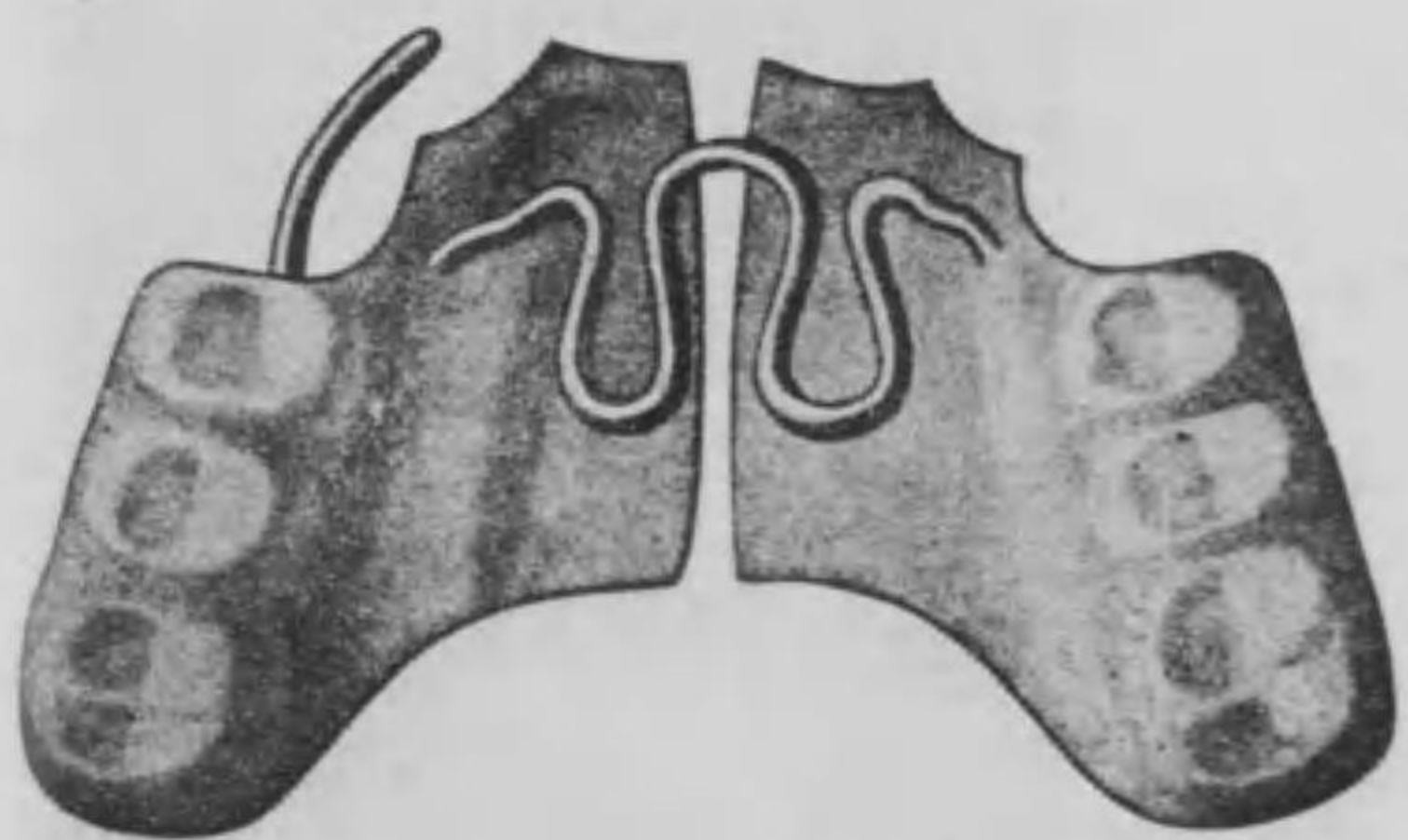
ニヨリテ轉位齒ヲ牽引スルヲ得、護謨管ノ細片、絹糸等之レニ屬ス、然レトモ此等ノ物質ハ之ヲ直ニ齒冠上ニ適用スルトキハ滑脱シテ齒齦線下ニ潜入スベシ、故ニ固定齒及轉位齒ノ兩者ニ各鑲帶ヲ作爲シ之レニ鈎或ハ突起ヲ附着シテ繫留セシム、或ハ床板ニ附着スルコトアリ

2 彈鍊 白金加金鍊或ハ琴鍊等ノ如キ彈力アル鍊ヲ任意ニ彎曲シテ其ノ一端ヲ固定齒ニ固着シ、他ノ一端ヲ轉位齒ニ附着スルトキハ鍊ハ其彈力ニヨリテ眞直ナラント欲シ轉位齒ヲ移動スベシ

ジャクソンハ琴鍊ヲ以テ固定及ビ發動兩裝置ヲ兼攝スルノ方法ヲ案出セリ、格狀裝置 *Cup* 即之レニシテ極メテ簡易ナル方法ナリト雖モ、之レヲ以テ植立堅固ナル齒牙ニ應用スルコト能ハズ



圖八十四百第
置裝狀格ソフリヤフ
(Pfaff)



板床裂破氏ソイフコ 圖九十四百第
(Pfaff)

コフィンハ彈鍊ノ作用ト床板ノ効用トヲ併用シタリ、即W字形ニ彎曲シタル琴鍊ノ彈力ニヨリテ床板ノ兩片ヲ壓開シ矯正スルノ方法ナリ、破裂床板 *Split plate* 即之レニシテ極メテ有力ナル裝置ナリト雖モ口腔内ニ於テ多大ノ面積ヲ占領シ其機能ヲ障害スルコト少ナカラズ

3 螺旋 古來最廣ク轉位齒ヲ牽引スルニ使用セラレタルハ護謨其他ノ彈力帶ナリトス、然ルニ一八七六年ニフラーハ說ヲナセリ

曰ク齒牙ヲ矯正スルニ牽引力ハ間歇性ニシテ且一定ノ制限ヲ超ユベカラズ 曰ク凡テ彈力護謨裝置ニヨリテ齒牙ヲ移動スル方法ハ非科學的ニシテ疼痛及炎症ヲ生起シ、齒牙ノ將來ヲ危カラシムルガ如キコトアリト雖モ、之ヲ矯正スルニ金屬製裝置ヲ用ヒ雌錠及雄錠ヲ以テ作用セシムルトキハ其結果満足ニシテ疼痛等ヲ發起セシムルコトナシ

曰ク齒齦及ヒ齒槽突起ヲ通シテ齒牙ヲ移動スルコト日々朝夕二百四十分ノ一時ナルトキハ毫モ疼痛等ヲ發起スルコトナシ

曰ク齒牙ヲ移動スルコト前記ノ制限ヲ超エサルトキハ此ニ起ル變化全然生理的ナレトモ之レヲ超過スレバ即病理的ノモノトナルベシト

之ヨリ以後矯正學上螺旋ノ價值漸ク重要視セラレタリシガ一八八七年アング
ルノ更ニ之レヲ稱道シテ矯正術上ニ一新機軸ヲ出シ所謂アングル矯正式ナルモ
ノヲ公布スルニ至レルヨリ螺旋ノ聲價數層ヲ加エタリ

要スルニ螺旋裝置ハ其發動力確實ニシテ、而カモ自由ニ之レヲ制禦スルヲ得ベ
ク、應用ノ範圍極メテ廣クシテ而カモ輕易ナルハ實ニ他ノ方法ヲ以テ企テ及ハサ
ル處ナリ

4 斜面 極メテ稀レニ斜面ヲ適用スルコトアリ、例之他顎ノ齒牙ヲ移動セン
トスルニ方リ一顎ノ對合齒ニ斜面裝置ヲ附シ、咬合毎ニ徐々追進スルガ如シ

5 楔 二齒ノ密接セルモノ、間ニ楔ヲ挿入スレバ抵抗ノ薄弱ナル齒牙ハ移
動スベシ、又床板ヲ作り其邊緣ト轉位齒トノ間ニ楔ヲ介在セシメテ移動スルコト
アリ、現今多ク使用スルモノナシ

(四) 整復後ノ固定

Retention after Correction
Fixierung nach Regulierung

矯正力ヲ加エテ移動シタル齒牙ハ弛緩

シテ直ニ其用ヲナサズ、加之之レヲ放置スルトキハ齒頸部ヨリ細菌ノ侵入ヲ招來
シ遂ニ脫出スルニ至ルコトアルベシ、故ニ整復後其全ク固植スルニ至ルマデ之レ
ヲ固定セザルベカラズ、保持法即之レナリ、保持ヲナスニ數多ノ方法アリ、或ハ外科

用結紮系又ハ銀線ヲ以テ結紮固定シ、或ハ口蓋板ヲ作りテ適合スト
雖モ、共ニ極メテ安全ナラズ、連合録帶ニ劣ルコト數等ナリ、整復齒及
其兩隣齒ニ適合スル録帶ヲ作爲シ之レヲ緻着合一シテ「セメント」ニ
テ齒牙ニ合着スルヲ最良トス、堅固ニシテ輕便ナルコト他ニ比類ナ
シ(第百五十圖)

保持裝置ヲ着用セシムル時日ハ體質ト不整ノ形態トニヨリテ相
同ジカラズト雖モ、最單純ナル者ニシテ三ヶ月以上、數齒ヲ移動シタ
ル者ハ一年以上之ヲ持續セザルベカラズ



帶環續連 圖十五百第

五 組織的變化

組織的變化

齒牙ノ移動ニ際シテ周圍ノ組織ニ起ル變化ハ概ネ一ニシテ即
一齒ニ矯正力ヲ加フルヤ前方ニ於ケル齒膜ハ齒槽窩内ニ壓縮
セラレテ血液ノ供給減少シ、神經ハ初メ壓迫セラレテ多少不快感乃至疼痛ヲ生起
スト雖モ、乃チニシテ半バ麻痺ニ陥ル、此等ノ營養的變化ニヨリ破骨細胞發顯シテ
漸ク其働キヲ初メ前方ニ橫ハル處ノ齒槽骨質ノ吸收ヲ起ス

之レニ反シ齒牙ノ移動シタル後方ニアリテハ齒膜ハ初メ先ヅ壓迫ノ減少ニヨリテ弾力性組織漸ク弛緩シ、血流増加シテ營養機旺盛トナリ、造骨細胞ノ活動ニヨリテ新生骨質ヲ沈着ス、然レトモ骨質ノ沈着ハ前面ニ於ケル吸收ト相併行スル能ハザルヲ以テ整復後一定時ヲ經ザレバ移動齒ハ固植スルニ至ラザルモノトス

骨質ノ吸收ハ齒槽板ノ厚薄ニヨリテ難易アリ、上顎切齒ヲ前方ニ移動スルハ極メテ容易ナリト雖モ之レヲ後方ニ移動スルハ抵抗頗ル大ナリ、抵抗ノ最小ナルハ齒槽中隔ニシテ其海綿樣質ヨリナルニ基ク

其他相並列セル數齒ヲ一時ニ同一方向ニ移動スルトキハ齒槽板ハ其彈性ニヨリテ甚ダ速ニ移動スルヲ見ルベシ、又タ上顎齒穹ヲ擴張スルニ際シテハ正中線ニ於ケル縫合ノ分離ヲ隨伴スルコトアリ

六 轉位齒ノ矯正法

轉位齒

Malposed Teeth
Schickigstellung Zahn

一二齒ノ轉位ハ切齒及犬齒部ニ最好發ス、遺傳乳齒ノ拔去不當、或ハ顎骨ト齒牙トノ不調和ナルニ歸スルコト多シ、上顎犬齒ノ外轉、同側切齒ノ後轉、同中切齒ノ前轉及ビ下顎切齒ノ叢生ハ普

通見ル處ノ形態ナリ、小白齒及大白齒ノ轉位ハ齒穹異常ノ條下ニ述ブ

(一) 前方轉位齒ノ矯正 後方ニ之ヲ移動スルニハ堅牢ナル支持ヲ有スル內齒槽板アリ、故ニ大白齒又ハ口蓋ニ堅固ナル固定ヲ設ケテ之ヲ牽引スルヲ要ス、左法ノ一ヲ撰ブヲ得ベシ

1 コフィン法 齒列内ニ相應ノ空隙ヲ作爲シタルノ後、口蓋ニ適合スル蒸和護謨床ヲ作り、其蒸和ノ際適宜ノ部ニ鈎或ハ環ヲ附着シ置クヲ要ス、此繫留部ヨリ轉位齒ニ護謨環ヲ緊張スレハ徐々ニ之ヲ牽引スルヲ得ベシ

2 或ハ口蓋板ヲ小白齒及ビ大白齒咬合面ヲ超エテ頬部ニ達セシメ、其前方ニ琴線ヲ埋沒蒸和スルモヨシ、琴線ハ前轉齒ヲ唇面ヨリ壓迫シテ徐々ニ整復スルヲ得、而シテ琴線ノ彈力ハ其彎曲度ヲ増加スルニヨリテ增強セラルベシ(第百五十一圖)

3 上顎或ハ下顎切齒ノ全部ガ前方ニ突出セルト



板蓋口正矯 圖二十五百第 (Pfaff)



床氏ジイフコ 圖一十五百第 (Pfaff)

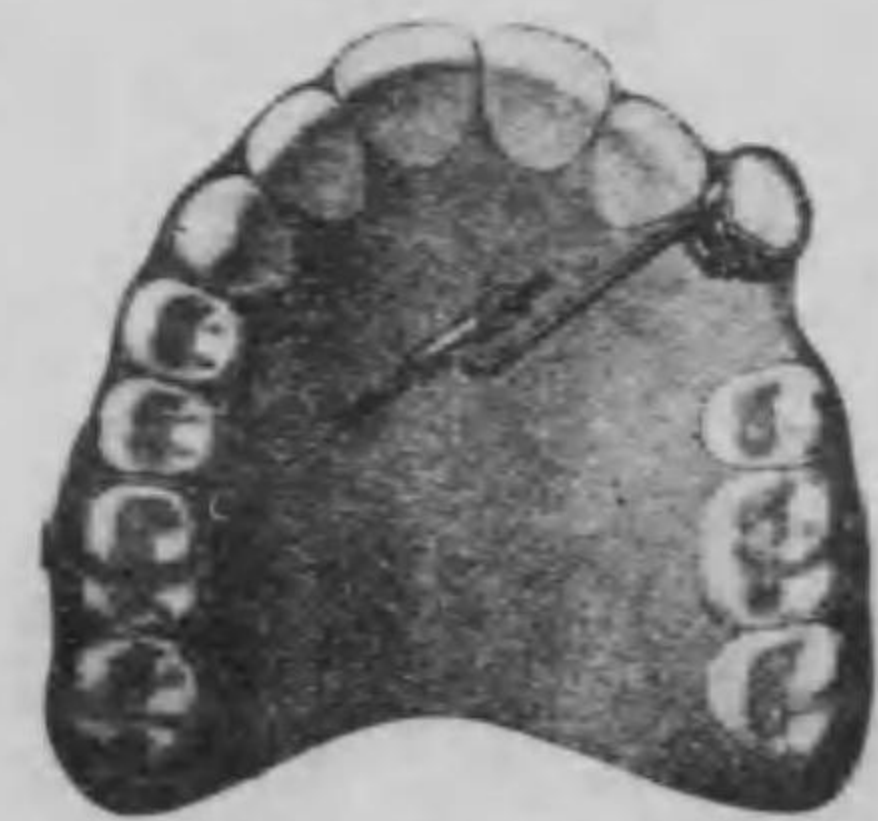
キハ金或ハ蒸和護謨ヲ以テ床板ヲ調製シ其前方ニ於ケル繫留部ヨリ各齒ニ護謨帶或ハ結紮糸ヲ緊張スベシ(第百五十二圖)

4 或ハ對側大白齒部ノ抵抗ヲ利用シテアングル螺旋裝置ニヨリ牽引スルモヨシ(第百五十三圖)

(二) 後方轉位齒ノ矯正 後方ニ轉位セル齒牙ヲ前方ニ移動セシムルハ比較的容易ナリ蓋シ菲薄ナル外齒槽板ノ抵抗アルノミナレバナリ、マーギル或ハアングル等ノ如キ簡單ナル裝置ニテ足ルベシ

1 マーギル法 上顎兩側切齒ノ後方ニ轉位セルモノアリタルトキハ兩中切齒ヲ固定齒トシテ各鑲帶ヲ作り之レヲ鑲着合一シ前面ニ金屬例之白金加金或ハ琴線ヲ横ニ鑲着シ其兩端ヲ轉位齒ノ前面ニ停止セシム之レヲ「セメント」ニテ合着シ線ノ兩端ヨリ轉位齒ニ護謨帶ヲ緊張スルカ或ハ絹糸ヲ以テ結紮スルトキハ之レヲ前方ニ牽引スルヲ得ベシ

2 アングル螺旋法 側切齒或ハ中切齒ノ後方ニ轉位セルモノヲ氏ハ次ノ如クシテ矯正シタリ即チ轉位齒ニ白金製鑲帶ヲ作り其口蓋面ニハ稍厚キ白金鍍ノ小片ヲ鑲着附加シテ堅固ニナシ且其實質ヲ通シテ一小孔ヲ穿ツ固定齒トシテハ反對側ノ第二小白齒及第一大白齒ヲ撰ビ之レニ連續シテ白金製鑲帶ヲ作り且其一部ニ白金鍍ノ一小片ヲ鑲着シテ増厚シ其部ニ小溝ヲ穿ツ兩鑲帶ヲ「セメント」ニテ合着シ其間ニ壓開螺旋ヲ適合シ日々之ヲ少許宛旋退スルトキハ徐々ニ之レヲ壓出スルヲ得ベシ



圖三十五百第 旋螺引牽氏レゲンア (Pfaff)

或ハ同側ノ大白齒ヲ固定齒トシ之ニ鑲帶ヲ適合シ便宜牽引螺旋ヲ裝置シテ旋退推進スベシ(第百五十四圖)

3 ブアッフ法 氏ハ一小白齒ヲ拔去シテ他ノ一小白齒ヲ後方ニ牽引シ空隙ヲ作りツ、犬齒ヲ後退セシメンガタメ次ノ如キ方法ヲ行ヒタリ即同側二ケノ大白齒及切齒ヲ固定齒トシ連續齒帽及橫桿ニヨリテ之ヲ連結シ小白齒及犬齒ニハ牽引裝置ヲ附着シ徐々ニ之ヲ後退セ



圖四十五百第 旋螺引牽氏レゲンア (Pfaff)



圖五十五百第 法退後齒犬氏フツァフ (Pfaff)

シムルニアリ(第五百五十五圖)

七 捻轉齒ノ矯正法

捻轉齒

Torsion Gebrochene Zähne

齒牙ガ其中軸ニ沿フテ回轉スルハ圓錐形單根ヲ有スルモ冠部比較的廣大ナル楔狀ヲナセルヲ以テ其邊緣ニ加ハル僅微ノ抵抗モ容易ニ之レヲ生起スルノ原因トナルベシ、齒穹内ニ空隙ノ缺乏、齒槽中隔ノ不正肥大、隣齒ノ不正位置等ノ如シ、然レトモ又其遺傳タルコト少ナカラス、之ヲ矯正スルニハ左法ノ一ニ據リテ容易ニ成功シ得ベシ

1 ギルフォード法 二ヶノ相隣在セル齒牙同方向ニ捻轉セルトキハ先各自ニ鑲帶ヲ作り、其一部ニ各鈎ヲ附シ鈎ニ護謨帶ヲ緊張ス(第五百五十六圖)

2 アングル法 二齒相對シテ各外方ニ回轉セルモノアルトキハ其各自ニ鑲帶ヲ作り鑲帶ノ唇面遠心角ニ近ク各短管ヲ水平ニ鑲着シ、之レヲ「セメント」ニテ齒牙ニ合着シテ管ヨリ管ニ彈力アル琴線ヲ挿入スルニアリ(第五百五十七圖)

3 シグフリード法 吾人ガ日常使用スル紙挟ミ、或ハ婦人ガ用ユル蝶形襟止

齒長ノ異常

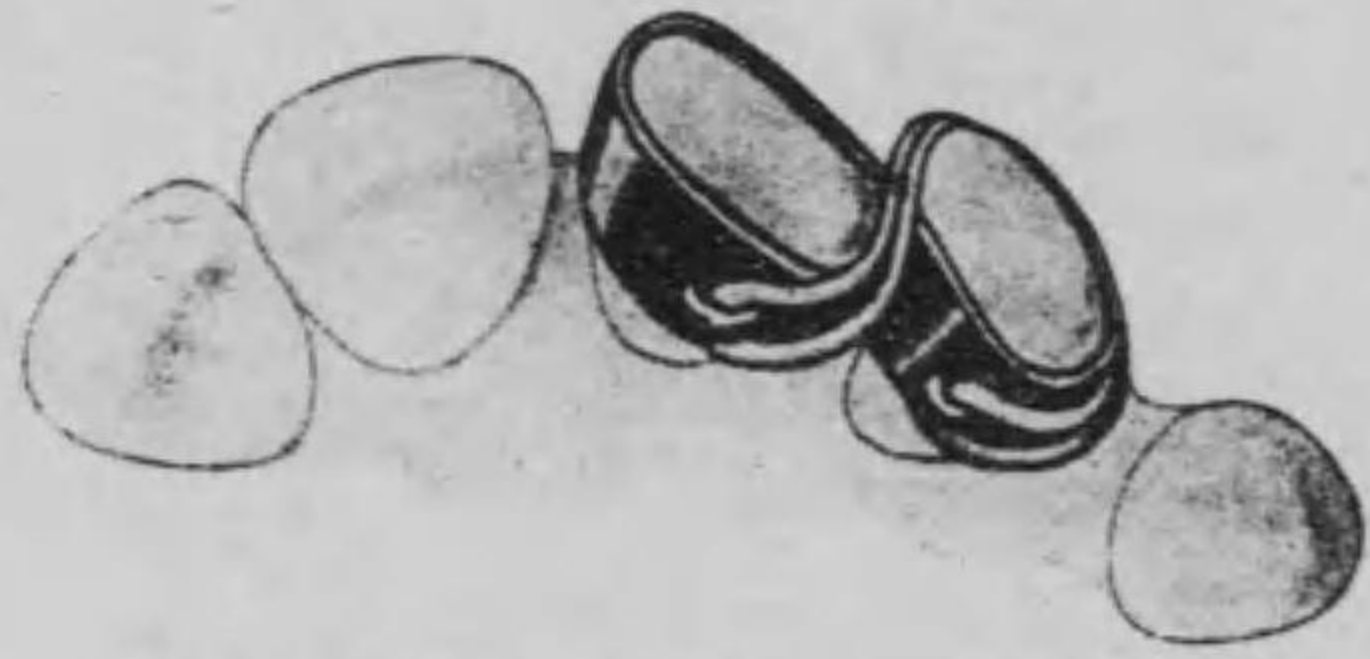
Anomalies of Length Anomalien der Länge

齒長異常ノ矯正法

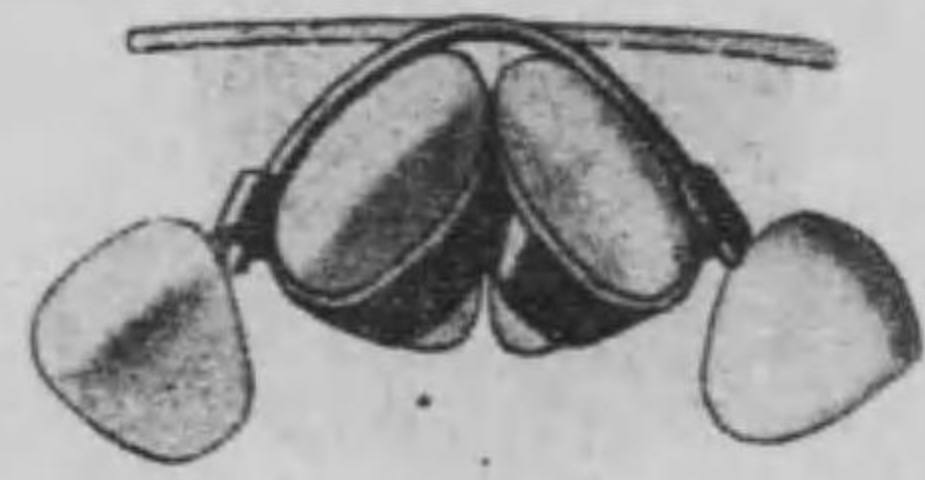
八 齒長異常ノ矯正法

齒長ノ短ニ失スルモノアリ、長ニ過クルモノアリ、短縮齒ハ之レヲ牽出シ、延長齒ハ之レヲ押入

メニ於テ目撃スル處ノ發條ノ原理ヲ齒牙矯正術ニ應用スルヲ得ベシ、即各捻轉齒ニ鑲帶ヲ適合シ其遠心部ニ近ク縮狀緊留部ヲ附着シ之レニ發條ノ兩翼ヲ受容セシムルニアリ(第五百五十八圖)



圖六十五百第 法轉回氏ドーホフルギ (Pfaff)



圖七十五百第 法轉回氏ルゲンア



圖八十五百第 條發狀翼氏ドーリフケシ (Pfaff)

ス、又數齒ニ亘リテ咬合ノ缺如セルモノハ其狀態ニ應シテ適宜此二法ノ一ヲ施シ或ハ之レヲ併用ス

(一) 押入法 *Intrusion* 齒牙ノ延長若シ齒膜ノ慢性炎ニ歸スルトキハ先ツ一定時日間消炎療法ヲ施シ且齒牙ヲシテ安靜ノ位置ニアルヲ得セシメ然ル後初メテ矯正ニ着手スベキモノトス

1 ヘルブスト法 防護護膜ノ小片ヲ延長齒ノ截端ヲ超エテ兩隣齒ニ設置シ結紮スルノ方法ニシテ抵抗ノ多大ナラザル切齒等ニ使用スベキノミ(第百五十九圖)

2 ゴダード法 兩隣齒ニ鑲帶ヲ適合シ、其唇舌兩面ニ於テ一鑲帶ヨリ他鑲帶ニ亘リテ各橫桿ヲ鑱着シ、一桿ノ中央ヨリ延長齒ヲ超エテ他桿ニ護膜環ヲ緊張スルモノニシテ簡易ノ一法タルヲ失ハズ(第百六十圖)

(二) 牽出法 *Extrusion* 短縮齒若シ單ニ兩隣齒ノ傾斜ニヨリテ萌出路ヲ失ヒタルニ基クトキハ只隣齒ヲ壓開スレバ足レリ、然レドモ多クハ左ノ一法ヲ要ス



法入押氏トスブルヘ 圖九十五百第 (Pfaff)

ヲ超エテ短縮齒ニ合着シタル鑲帶ノ繫留部ニ護膜環ヲ緊張スル方法ナリ(第百六十一圖)

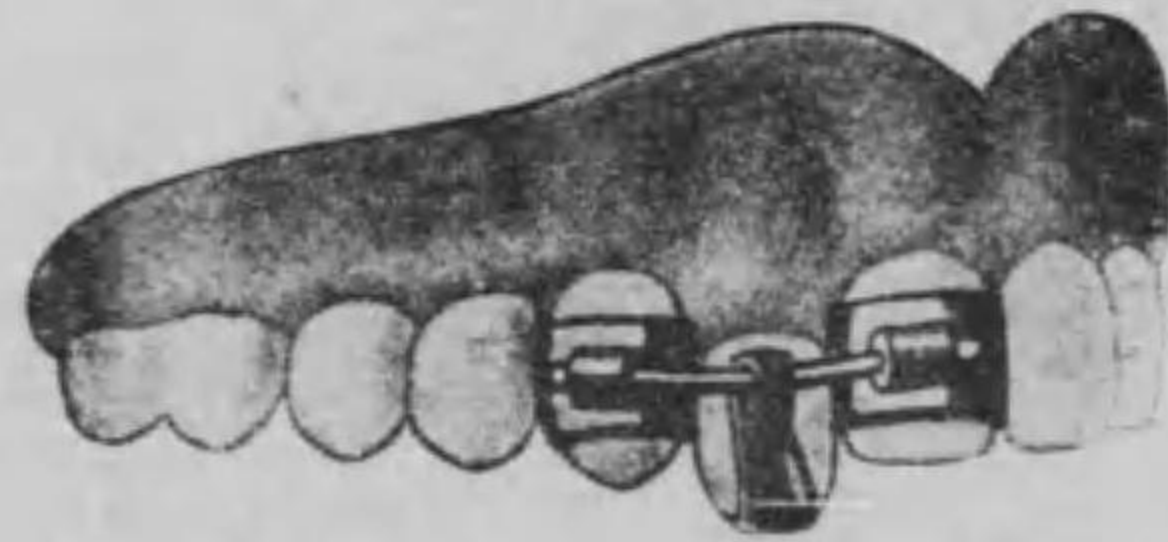
2 強制的萌出法 萌出路

ニ於ケル障害、或ハ萌生機ノ停止等ノタメニ生シタル僅微ノ短縮齒ニアリテハ適宜ノ形狀ヲナセル拔齒鉗子ヲ以テ徐々ニ之ヲ齒槽窩ヨリ牽出シ適當ナル位置ニ固定スルヲ得ベシ

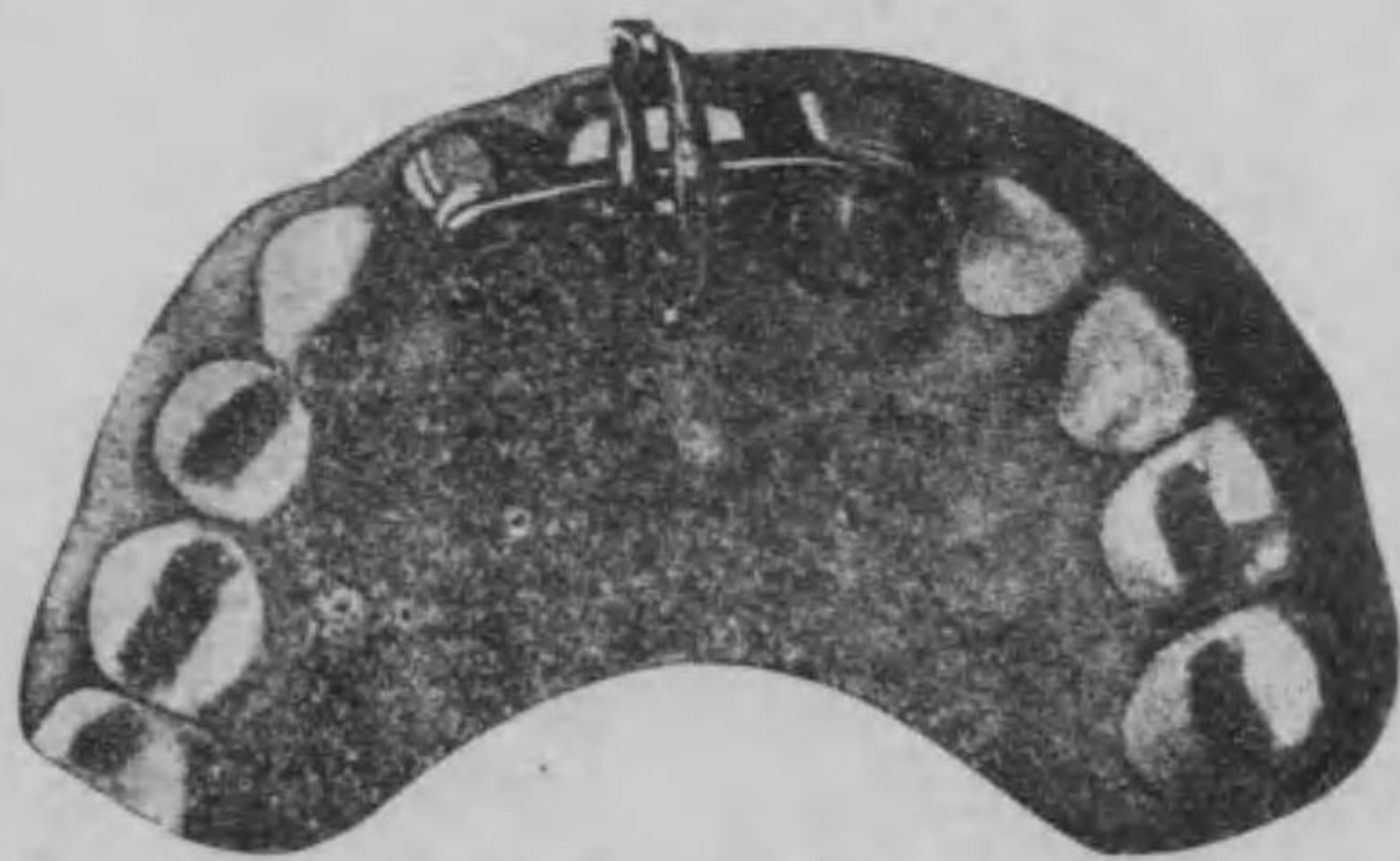
(三) 咬合ノ缺如 *Lack of Occlusion* *Missfehler*

咬合ノ缺如若シ後方ニ於ケル一二齒ノ延長ニヨリテ生シタルトキハ其延長齒ノ咬合面ヲ刮去スルカ或ハ之レヲ拔去シテ矯正スルコトナキニアラズト雖モ數齒ニ亘レルモノハ其矯正頗ル困難ナリ

1 ダーベンボート法 氏ハ橋狀裝置ヲ用ヒテ咬合缺如セル兩側ノ第一大臼



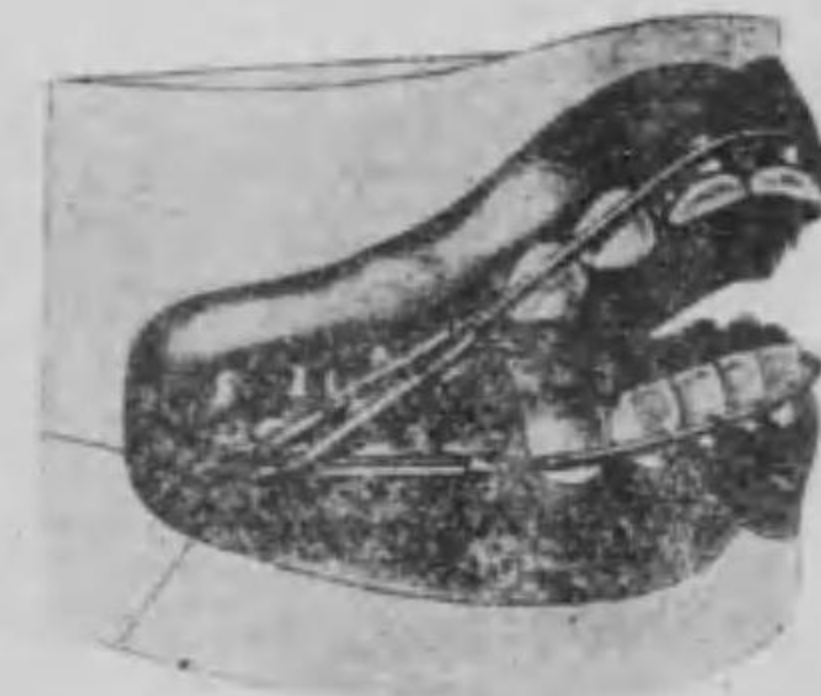
法入押氏ドーダゴ 圖十六百第



法出牽氏ドーダゴ 圖一十六百第 (Pfaff)

齒及ビ二ケノ小臼齒ヲ高舉セリ、裝置ハ兩側最後ノ大白齒ト切齒トニ適合セル金帽ト此ノ凡テヲ連絡スル橋トヨリナルモノニシテ橋下ニ存在セル短縮齒ヲ彈性帶ヲ以テ橋ニ結紮スル方法ナリ

2 ケース法 兩側ノ最後ノ大白齒ヲ固定齒トシテ之レニ鑲帶ヲ作り其頰側ニ各一ケノ短管ヲ鑲着ス、短縮セル兩側ノ大白齒及小臼齒ニモ各鑲帶ヲ適合シテ其各頰面ニ鈎ヲ截端ニ向ケテ鑲着シ、延長セル切齒ニモ各鑲帶ヲ作り、唇面ニハ齒根ニ向ヘル鈎ヲ鑲着ス、此等ノ鑲帶ヲ悉ク「セメント」ニテ合着シタル後、彈力ニ富メル琴線或ハ白金加金線ヲ各齒鑲帶ノ鈎ニ適合シテ裝置シ、兩端ヲ固定齒鑲帶ノ短管中ニ挿入スルノ方法ナリ、琴線ノ彈力ハヨク牽出押入ヲ一時ニ營爲スルヲ得ベシ(第百六十二圖)



法正橋咬開 圖二十六百第 (Pfoff)

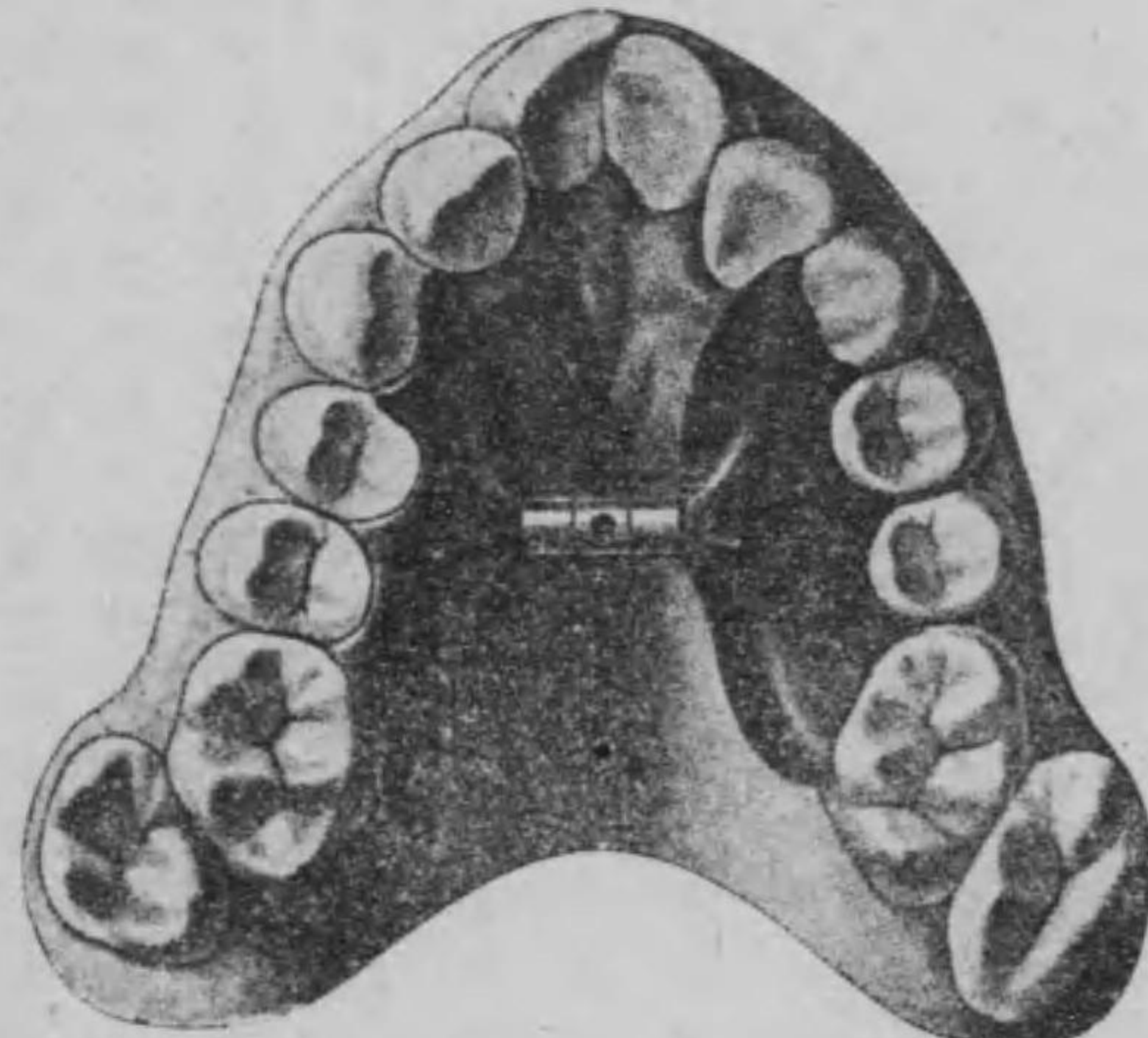
九 齒穹異常ノ矯正法

齒穹異常

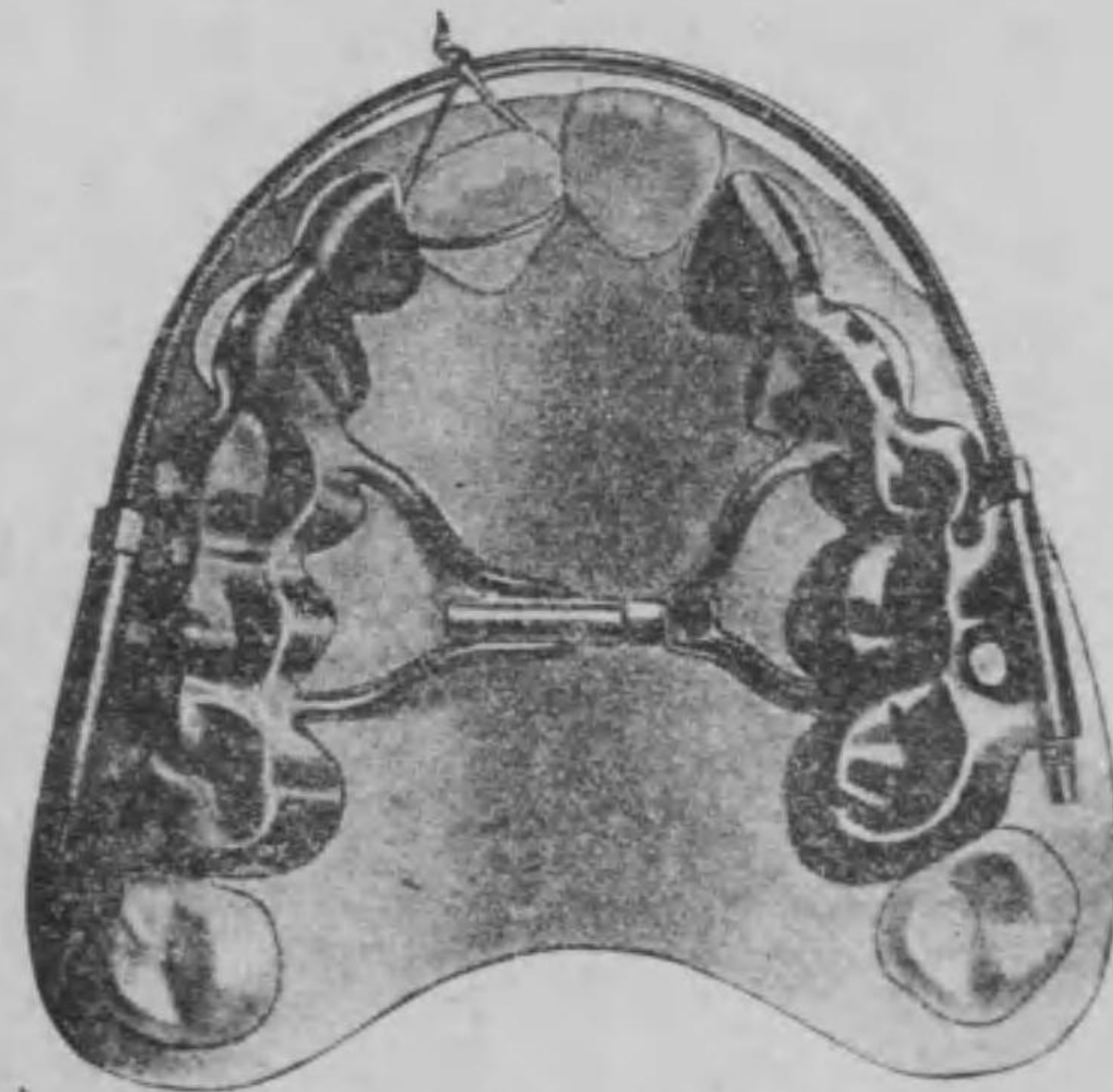
Anomalies of dental Arch
Anomalien der Zahnreihen

齒穹ガ不規則ナル狹縮ヲ呈スルコトハ上顎ニ於テ極メテ稀有ナラザル現象ニシテ殊ニ小臼

ヲW字形ニ彎曲シタルモノヲ附着シ、其彈力ニヨリテ齒穹ヲ擴大スルノ方法ナリ



法大擴穹齒 圖三十六百第 (Pfoff)



法大擴穹齒氏フツェブ 圖四十六百第 (Pfoff)

齒部ニ於テ其狹縮顯著ナルヲ見ル、然リト雖モ上顎切齒部及下顎ニ於テ之レヲ目撃スルコトナキニアラズ、之ヲ矯正スル方法少ナカラズ、例之左ノ如シ

1 コフィン法 口蓋ニ適合スル口蓋板ヲ調製シ、其ノ中央ヲ縱斷シテ茲ニ彈線

同一原理ヲ以テ齒穹狹縮部ニ相當スル護謨床ヲ兩側ニ於テ別個ニ作り、之ヲ壓開螺旋ニテ左右ニ壓開スルモ亦佳ナリ(第六十三圖)

2 **ブツツ法** 氏ハ狹縮部ニ相當スル數齒ニ連續金帽ヲ作り、之ニ壓開螺旋ヲ装着シタリ(第六十四圖)

3 **ゴダート法** 上顎切齒部ニ於ケル齒穹ノ狹縮ヲ矯正スルニ適ス、口蓋板ヲ犬齒部ニ於テ橫斷シ、前後兩片ノ間ニ縱ニW字形彈簧ヲ働カシムル方法ニシテ、Wノ彎曲ヲ左右スレバ矯正力ヲ増減シ得ベキナリ

一〇 咬合及顔貌異常ノ矯正法

咬合ノ異常

Malocclusion
Bismontien

最普通ナル形態ハ上顎切齒部齒槽突起ノ突出ニシテ下顎切齒部之レニ次グ、或ハ兩者併發スルコトアリ(黒

奴口、或ハ下顎骨ノ前後徑異常ニ大ニシテ頤部ノ著シク突出スルコトアリ(頤部前突)、或ハ上顎又ハ下顎ノ後退スルコト稀ニ之レアリ、矯正法左ノ如シ

1 **ギルフォード法** 蒸和護謨ヲ以テ口蓋板ヲ製シ、其中央ニ鑲或ハ鈎ヲ附シ、之

レヨリ各突出齒ニ彈性護謨環ヲ緊張スルトキハ簡易ナル矯正器ヲ得ベシ、護謨環若シ齒頸部ニ於テ滑脱シ齒齦ヲ毀傷スルノ患アルトキハ齒牙ニ鑲帶ヲ合着シ、鑲帶ニ鑲或ハ鈎等ノ繫留部ヲ鑲着シ置クベシ

2 **アングル法** 兩側二個ノ大白齒ヲ固定齒トシテ鑲帶ヲ適合シ、其頰側ニ短管ヲ鑲着ス、之レヲ「セメント」ニテ合着シタルノ後、兼テ齒穹前面ニ適合シテ成形シ置キタル弦線ヲ取り其兩端ニ雄錠ヲ刻ミ、之レヲ各短管ニ挿入シ、其後端ノ各側ニ於テ雌錠ヲ働カシムルトキハ前方ニ於ケル突出齒ハ徐々ニ後退セララルベシ

3 **ゴダード下顎後退法** 下顎骨ノ前突顯著ナルトキハ其移動ニ大ナル力ヲ要シ後方齒牙ノ抵抗ノミヲ以テ充分ナル固定ヲ得ル能ハザルコトアリ、此ノ如キトキハ後頭部ニ於ケル抵抗ヲ應用スルヲ常トス

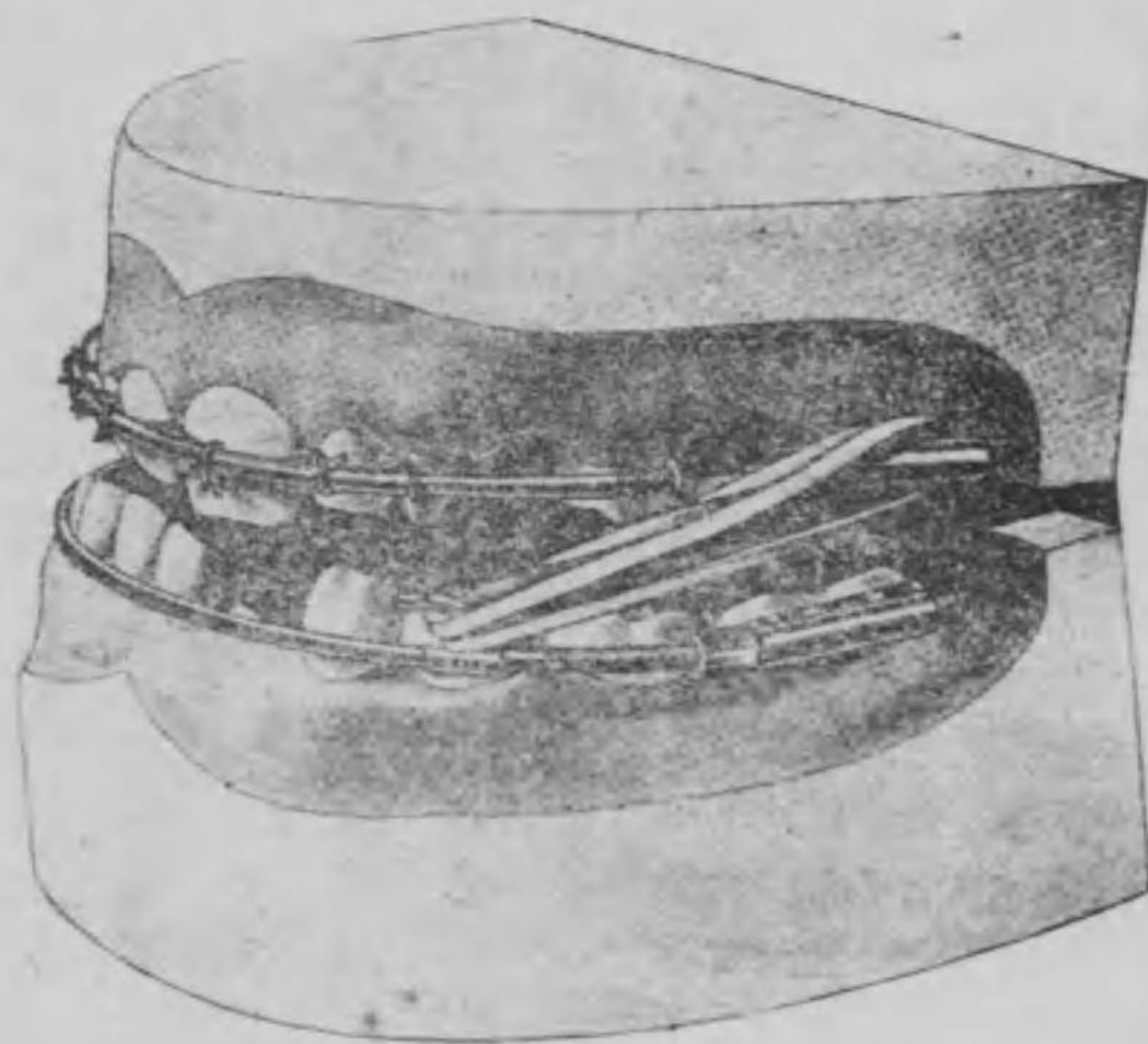
氏ハ顯著ナル前突ニ方リ切齒唇面全體ニ適合スル護謨塊ヲ作り之レニ兩側口角外ニ突出スベキ彈力線ヲ埋沒シ、之レヲ齒牙ニ適合シテ兩側ノ鈎狀端ヲ後頭部ニ於ケル矯正帽ニ彈力帶ヲ以テ附着シ、固定ヲ完全ニシ之レヨリ矯正力ヲ適用シタリ

4 **ブツツ法** 氏ハ下顎ノ突出、或ハ後退セルモノヲ矯正スルニ上顎ノ抵抗ヲ

顎骨異常ノ矯正法

利用シタリ、即下顎ヲ後退セシメンニ
ハ後上方ヨリ前方ニ向テ上下顎ニ
亘リテ強キ護謨帶ヲ緊張シ(第百六十
五圖)之ニ反シ下顎ヲ前進セシメンニ
ハ上前方ヨリ下後方ニ向テ上下顎ニ
彈性帶ヲ緊張シタリ(第百六十六圖)

5 ジャクソン 下顎後退法 下顎骨
殊ニ頤部ノ前突顯著ナルトキハ口腔
ヨリ充分ナル矯正力ヲ附與シ能ハサ
ルコトアリ、殊ニ其不正ガ下顎骨隅角
或ハ關節窩ニ於ケル變化ニ歸スルト
キニ於テ然リトス、此ノ如キ場合ニモ亦後頭部ノ抵抗ヲ應用ス、即對合齒トノ咬合
狀態ニヨリ口腔ヲ適當ニ所置シタルノ後、頤部ニ適合スル革製或ハアルミニウム
製杯狀板即頤蓋ヲ作り、之レニ兩側ヨリ突出スル彈簧ヲ附着シ、其ノ鉤狀端ヲ
各側ニ於テ彈力帶ヲ以テ矯正帽ノ繫留部ニ連絡セシムル方法ナリ(第百四十七圖)

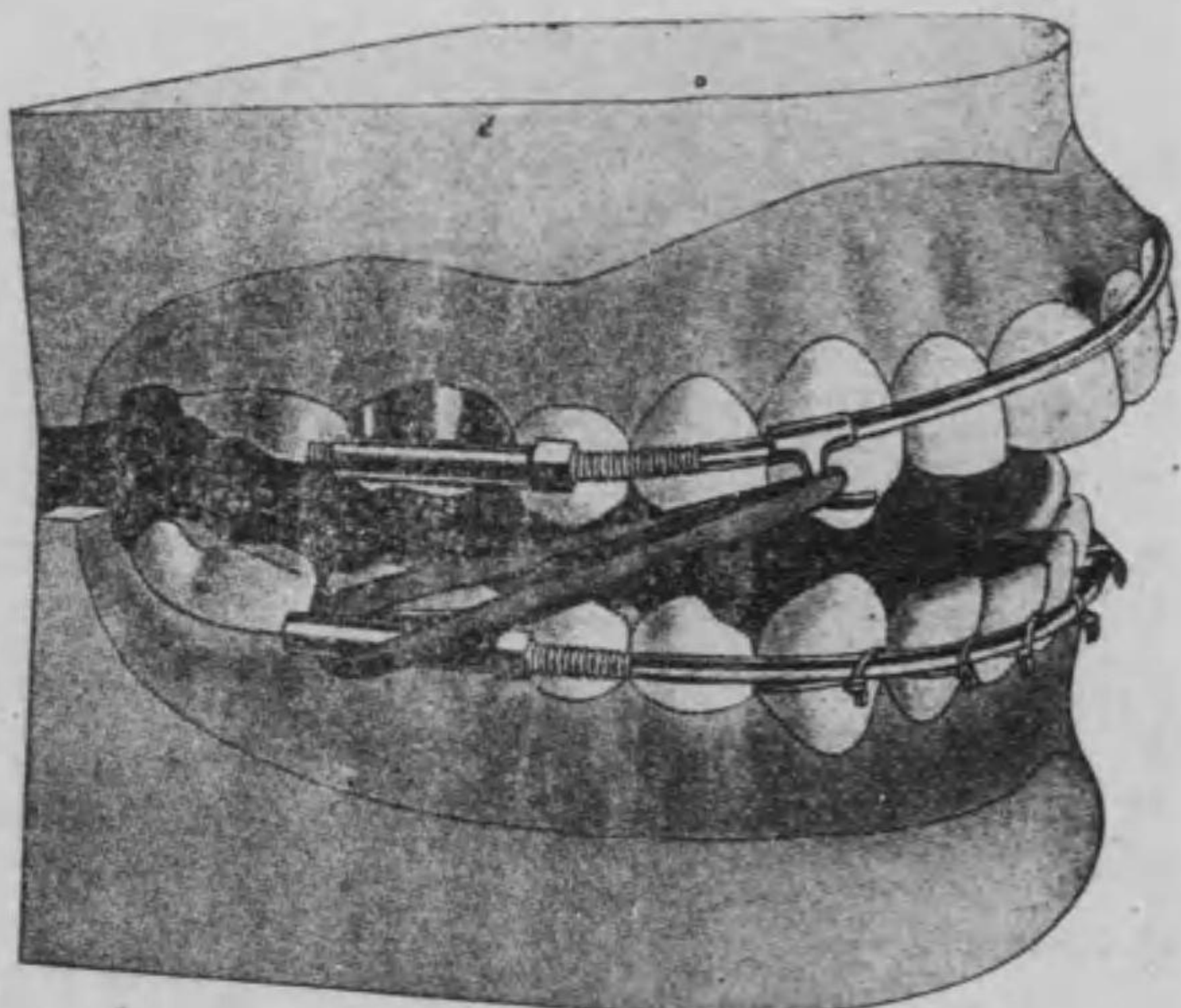


法退後顎下氏フツァブ 圖五十六百第 (Pfoff)

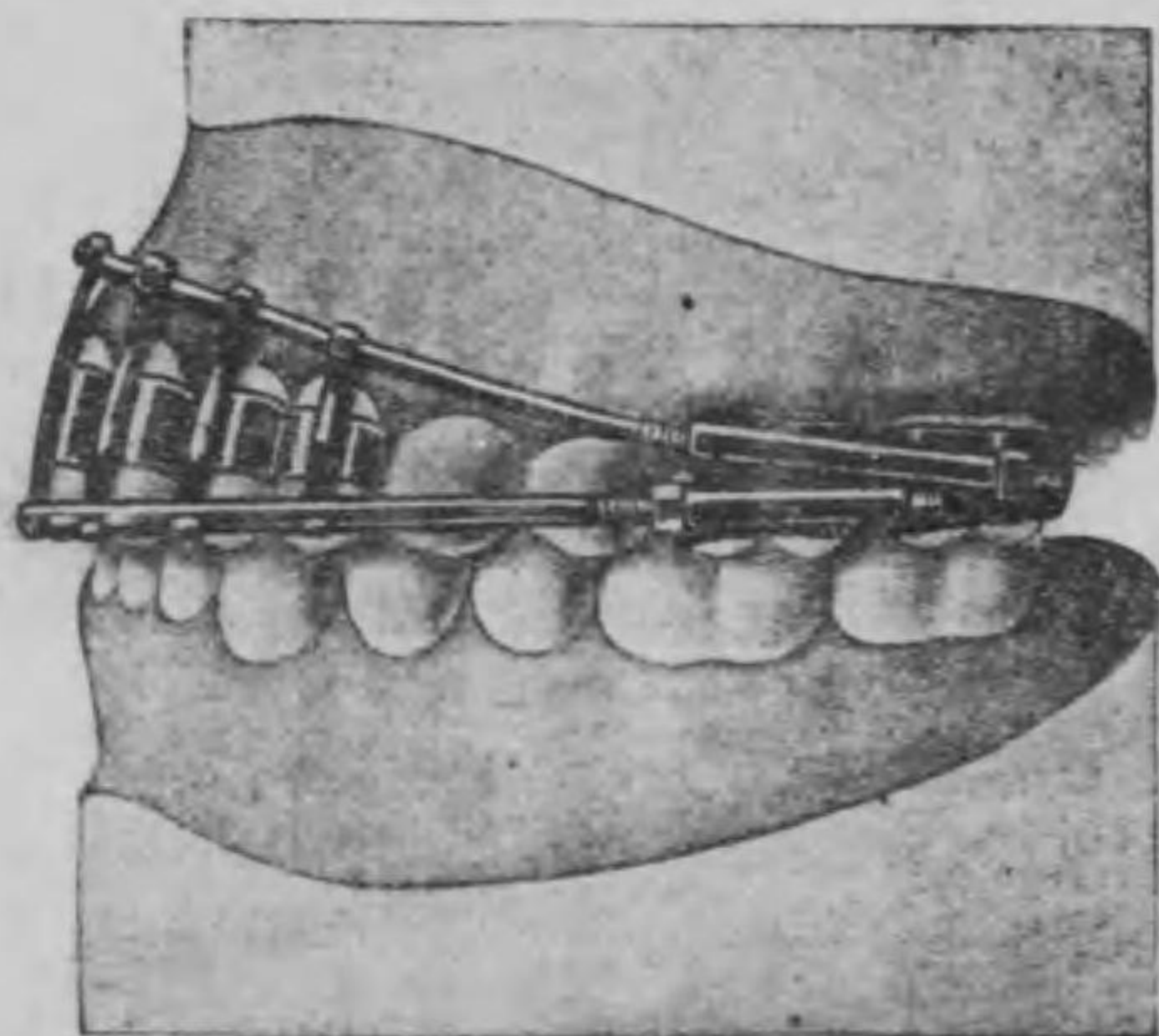
6 ケース法

氏ハ齒冠或ハ齒根ノ特ニ突出セルモノニ對シ冠根別々ニ矯正
力ヲ適用センガタメ切齒ノ鑲帶ニ縱立桿ヲ鑲着シ、其二ヶ所ニ齒穹弦線ヲ働カシ
メタリ、顔貌矯正裝置之レナリ(第百六十七圖)極メテ複雑ナルモノナレドモ又以テ

顎骨異常ノ矯正法



法進前顎下氏フツァブ 圖六十、六、百第 (Pfoff)



置裝正矯靨顔氏スーケ 圖七十六百第

任意顔貌ノ調和ヲ恢復スルヲ得ベシ

一一 外科的齒列矯正法

外科的矯正法

Surgical Regulation
Chirurgische Orthodontie

普通行ハル、齒列矯正法ハ齒牙ノ移動ヲ一
ニ破骨細胞ノ作用ニ待ツモノナルヲ以テ極
メテ緩慢ニシテ其間疼痛、化膿等ノ種々ナル煩勞ヲ生起スルコトナキニアラス、故
ニ少シク外力ヲ適用シテ齒牙ノ移動ヲ即時ニ企ツルコト却テ有益ナルコトアリ、
之レヲ即時矯正法或ハ其多少外科的方法ヲ要スルニヨリ外科的矯正法ト云フ、數
十年前以前ヨリ行ハレタル處ナリ

1 トームス法 氏ハ初メテ外科的齒列矯正法ノ記録ヲ遺シタル人ニシテ圓
錐形單根ヲ有スルモノニ好ンデ之レヲ應用シタリ、其法先ツ齒頸部ニ適合スル拔
齒鉗子ヲ撰擇シ、靜ニ齒牙ヲ鉗取シ、先ツ之レヲ前後ニ移動シ、次テ少シク回轉運動
ヲ施シツ、齒牙ヲ徐々ニ正位ニ向ハシムルニアリ、整復後ハ絹糸或ハ銀鍊ヲ以テ
兩隣齒ニ結紮シ、或ハ兼テ調製シ置キタル環帶ヲ以テ隣齒ニ固定ス

2 タルポット法 氏ハ普通ノ器械的齒列矯正法ヲ施スニ方リ齒牙ノ移動ヲ迅

速ナラシメンガタメニ齒牙ヲ移動セントスル方向ニ横ハレル齒槽突起ノ一小部
分ヲ楔狀ニ切除スルコトヲ推奨セリ、切除ニハ鑿子或ハ「バー」ヲ使用シタリ

3 アングル顎骨切除法 下顎骨ノ前突極メテ大ニシテ他ノ方法ヲ以テ矯正
シ能ハザルモノニ氏ハ下顎兩側小白齒部ニ於テ顎骨ノV字形小片ヲ切除シタル
後普通ノ下顎骨折ヲ處置スル方法ニヨリ齒間副木ヲ適用シテ好成績ヲ收メタル
コトアリ、蓋シ稀有ニ施スベキ方法ノミ

第十六章 有床義齒術

義齒術

Artificial Denture
Künstlicher Zahnersatz

凡テ義齒術トハ人工的ニ天然齒殊ニ其齒冠ヲ模造シ
齒列内ノ解剖的缺損ヲ補綴スル方法ヲ總稱スルモノ
トス、之レニ三種ヲ區別スルヲ得ベシ

1 有床義齒術 粘膜面ノ一部ヲ覆フ處ノ床板ニ人工義齒ヲ附着ス

2 繼續義齒術 殘存スル齒根ヲ基礎トシテ其上ニ人工齒冠ヲ繼續維持セシム

3 架工義齒術 一或ハ數ケノ齒牙或ハ齒根ヲ支臺トシ喪失セル齒冠ヲ補綴ス

有床義齒

Plate
Plate

ハ又單ニ義齒ト稱ス、其淵源極メテ遠ク紀元前二世紀ノ頃已
ニ至ルマデ義齒ハ單ニ一小技術トシテ思考セラレ之ヲ調製スル齒科醫モ亦技工
以外特ニ教育ヲ受ケタルモノナク義齒製作及拔牙ヲ以テ自己ノ職業トナシ、夫ノ
寶石細工業者等ト大ニ撰フ處ナカリキ、然ルニ近世ニ至リ齒科醫術漸ク進歩シテ
齒科醫ハ其天職單ニ拔牙及義齒ノミニ限ルベキニアラザルコト科學者ノ認識ス

一 口腔ノ準備

ル處トナリテヨリ、學理的、醫學的方面ヨリ義齒ヲ研究スルモノ輩出スルニ至レリ
要スルニ義齒術ハ單ニ齒穹線内ノ解剖的缺損ヲ補綴スルノミナラズ、之レニ隨
伴スル處ノ機能的缺損ヲモ全ク補綴セサルベカラズ、咀嚼及ビ談話之レナリ、義齒
ニシテ咀嚼及談話ヲ完全ナラシメ能ハサルモノハ満足ナルモノニアラズ、然ルニ
往々此等ノ缺損ヲ更ニ増劇セシメ、加之口腔ニ有機質ノ蓄積ヲ促進シ、頬唇等ノ自
由運動ヲ障妨シ、外貌ヲ醜惡ナラシムル義齒ノ少ナカラサルハ畢竟義齒ヲ一小技
工ト思爲スルノ罪タラズンバアラズ

義齒ヲ調製センニハ 1 先ツ口腔ヲ之ニ適スル状態トナシタル後 2 口腔ノ
印象ヲ採得シ 3 之ニ據リテ石膏模型及 4 咬合模型ヲ作り 5 之ヲ標準トシ
テ口腔ノ状態ヲ研究シ、先ツ假定的ニ陶齒ヲ排列シ、之ヲ一度口内ニ試適シテ適否
ヲ檢シ 6 然ル後蒸和其他ノ方法ニヨリ完成セシムルヲ法トス、以下序ヲ追ツテ
之ヲ説カントス

口腔ノ準備

Preparation of the Mouth
Vorbehandlung des Mundes

義齒ハ口腔内ニ於テ少ナカラザル空間ヲ占領スルモノニシテ一ハ以テ軟組織ニ刺戟ヲ

與ヘテ容易ニ發炎セシムルノ傾向ヲ生ジ、一ハ以テ床ト粘膜面トノ間、並ニ床線ト天然齒トノ間ニ異物殊ニ有機物ノ蓄積ヲ促ガシテ容易ニ分解、酸酵ノ作用ヲ惹起セシムベシ、義齒ノ挿入ハ實ニ軟組織ノ炎症ト口腔ノ不潔トニ多大ノ期會ヲ與フルモノナルコト明ナリ、從テ義齒製作ニ方リ先ツ施サ、ルヘカラサル所置ハ口腔ヲ清潔ナラシメ、且將來不潔ヲ由來スヘキ原因トナル疑アルモノヲ悉ク除去スルニアリ、此際注目スベキ要項次ノ如シ

- 1 口腔ヲ清掃シ且凡テノ疾病ヲ治療ス、口腔粘膜及齒齦ノ炎症、齒石ノ堆積、齶蝕齒等ヲ然リトナス
- 2 弛緩シテ保存シ能ハサル齒牙ハ之レヲ拔去ス、而シテ甚タシク朽傷セル齒根亦然リ
- 3 齒根健全ナルトキハ時トシテ之レヲ保存治療シテ根管ヲヨク充填シタルノ後、其上ヨリ義齒ヲ調製セザルベカラサルコトアリ、然リト雖モ之レ最冷靜ノ考慮ヲ要スル處ニシテ初學ノ往々惑フ處ナリトス、凡ソ齒根健全ニシテ充分保存ノ

適應ナルヲ認メバ宜シク之レヲ保存シテ、齒冠繼續術ヲ施スベシ、何ゾ之レヲ充填シテ其上ヨリ義齒ヲ施スヲ要センヤ、蓋シ齒根ハ其如何ニ健全ニシテ其充填如何ニ完全ニ行ハレタルヲ問ハズ、其上ヨリ義齒ヲ調製シテ床ヲ以テ之レヲ被覆スルヤ數月ナラズシテ必ラズ齒根ト齒齦線トノ間ニ有機質ノ蓄積分解ヲ致シ、齒齦線ノ潮紅浮腫狀ヲナスヲ目撃スベシ、健全ナル齒根ヲ完全ニ充填シタルモノニ於テ尙且然リ、況ンヤ齒根ノ不健全ナルモノ、或ハ之レヲ充填セサリシモノニ於テオヤ、故ニ齒根ハ其病的狀態ヲ呈セルモノハ勿論、其健全ナルモノト雖モ齒冠繼續術或ハ架工術ヲ施スニ適應セサルモノハ悉ク之レヲ拔去スルニアラサレバ義齒ヲ調製シテ完全ナル補綴ヲナスコト難シ、但シ義齒ヲ調製スルニ方リ拔齒ヲナストキハ其創口完全ニ癒合スルマデ調製ニ着手シ能ハサルヲ思ハザルベカラズ

- 4 拔齒創ノ癒合シテ義齒調製ニ適スルニ至ル時期ハ各人ニヨリテ同ジカラズ數週ヨリ一年半ニ至ルノ差アリ可及的遅キヲヨシトス、癒合未タ完全ナラサルニ印象ヲ採得シテ義齒ヲ調製スレバ義齒ハ創口ノ收縮ニ從ヒ漸ク其適合ヲ失シテ遂ニ全ク用ヲナサ、ルニ至ル
- 5 極メテ稀ニ齒根ヲ保存セザルベカラサルコトアリ、例之拔齒ノ禁忌症ノ一

或ハ數ヶノ状態存在シタルトキ、繼續或ハ架工術ヲ施ス迄暫間的ニ義齒ヲ調製スル場合、或ハ極メテ安全ナル齒根及口腔ノ状態アリシ時等ノ如シ、此等ノ事情アリテ齒根ヲ保存セサルヘカラサルニ方リテハ其病的状態ヲ全ク治療シタルノ後、根端ヲ齒齦ト同一水平ニ至ル迄切斷、鋸斷或ハ磨刮シテ根管ヲ「セメント」又ハ「僭答百兒」加ニテ充填セサルベカラズ、齒根ノ長キモノハ鋸子ヲ用ヒテ鋸斷シ、小ナルモノハ「コロンドム」輪子ヲ用ヒテ刮去ス

二 印象ノ採得

印象

Impression
Abdruck

義齒ヲ調製スルニハ口腔ノ状態ヲ口外ニ於テ代表スヘキ模型ヲ作ラサルヘカラズ、而シテ先ツ其第一着手トシテ口腔ノ印象

ヲ採得スルヲ要ス、印象トハ口腔状態ノ陰像ヲ口外ニ於テ代表スル處ノモノニシテ、之レヲ採得スルニハ先ツ適當ナル印象材品ヲ得ルヲ必要トス

(一) 印象材所要ノ性質 古來此目的ニ使用セラレタル物質種々アリ、僭答百兒加、モルデン、密蠟、ステント氏合劑、石膏、及「モデリング」コムボジション等之レナリ、然レトモ左ニ記ス所要ノ性質ヲ完全ニ具備セルモノ少ナキヲ以テ比較的多量ニ此ノ

性質ヲ有スルモノヲ撰用スベシ

- 1 初メ柔軟ニシテ可塑性ヲ有セザルベカラズ
- 2 硬化シテ口腔ヨリ取出スニ方リ變形スヘカラス
- 3 軟化、硬化ヲナスニ方リ毫モ收縮變形スルモノナルヘカラズ
- 4 處置容易ニシテ口腔ニ送入スルモ不快ヲ與フルモノナルヘカラズ

(二) 印象材ノ優劣 僭答百兒加ハ硬化ニ方リ變形收縮顯著ニシテ「モルデン」ハ硬化完全ナラズ且印記明確ナラズ、密蠟ハ不快ニシテ硬化顯著ナラズ、ステント氏合劑ハ使用簡單ナラズ、少シク變形スルノ弊アリ、故ヲ以テ現今比較的良好ナリト思考セラル、ハ石膏及「ビ」モデリング、コムボジションノ二ナリトス

就中石膏ハ其印記最明確ニシテ收縮變形ノ患亦極メテ鮮少ナリト雖モ其使用稍煩雜ニシテ容易ニ破折シ且口腔ニアリテ極メテ爽快ナリト云フ能ハサルヲ以テ其名聲「モデリング」コムボジション」ト伯仲ノ間ニアリ、普通ノ場合ニ常用スルニハ後者ヲ却テ輕便ナリトス

(三) 使用法 此等ノ材品ハ「モルデン」ノ僭里設林ヲ以テ煉和シ、石膏ノ食鹽水ヲ以テ軟泥トナスヲ除イテハ悉ク熱湯中ニ軟化セシムルヲ法トス、此ノ如ク軟化シ

印象ノ採得

タル材品ハ口腔ニ送入シ硬化スルニ至ルマデ手指ヲ以テ維持スルコトハ極メテ難事ニシテ加之粘膜ニ向テ各部同時ニ平等ニ壓迫スルコトハ殆ント不可能ナリ故ニ之レヲ便ニスルガタメ托盤 *Impression Tray* ヲ使用ス

托盤ハ上下兩顎大小種々ノ形態ヲ有スル鑄製小盤ニシテ其適當大ノモノヲ取り之レニ材品ヲ軟化填塞シテ口腔ニ送入シ印象ヲ採得スルモノナリ

印象採得

Impression-taking
Abdrucknehmen

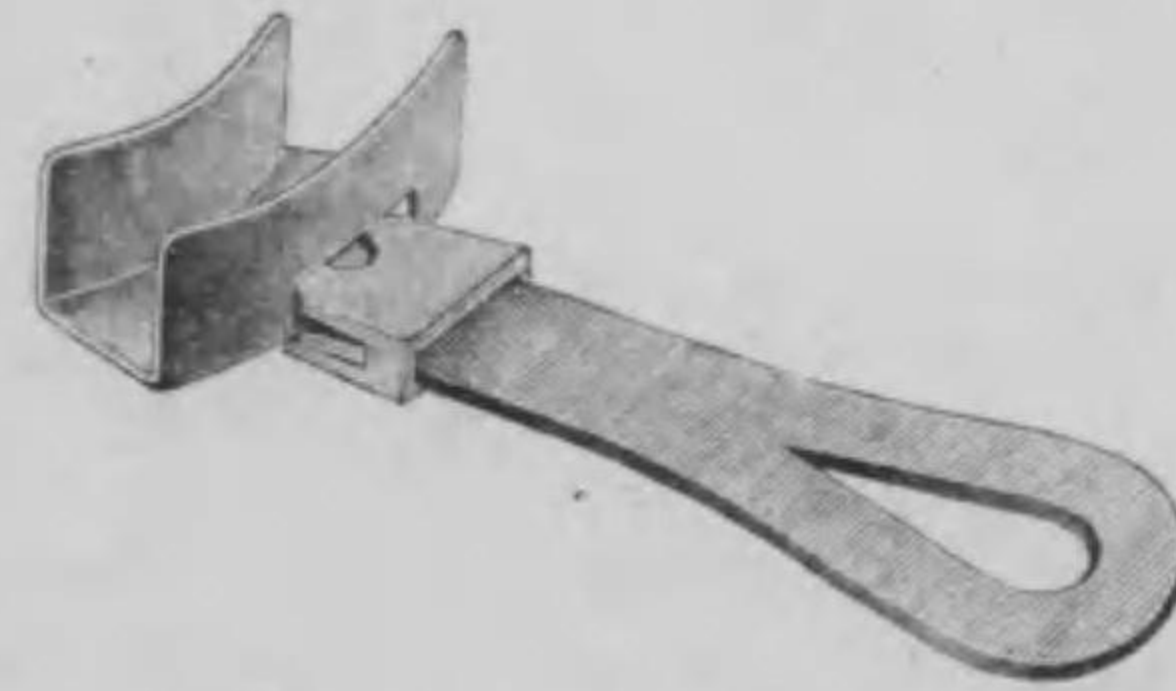
採得ハ極メテ注意ヲ要ス之レ

義齒適否ノ岐ル、處ナレバナ

リ其方法各材品ニヨリ少シク異ナル處ナキニアラズト雖モ梗概ハ相似タリ即左ノ如シ

1 先ツ托盤ノ適當大ノ者ヲ取りテ消毒シ之レニ軟化セシメタル印象材ヲ過不及ナク填塞ス

2 材品ノ硬化セザル様迅速ニ之ヲ口腔ニ送入シ徐々ニ顎骨ニ向ツテ平等ナル壓迫ヲナシ材品ガ齒齦ヲ沒了スルニ至ルヤ托盤ヲ堅ク其位置ニ固定シ他手ノ

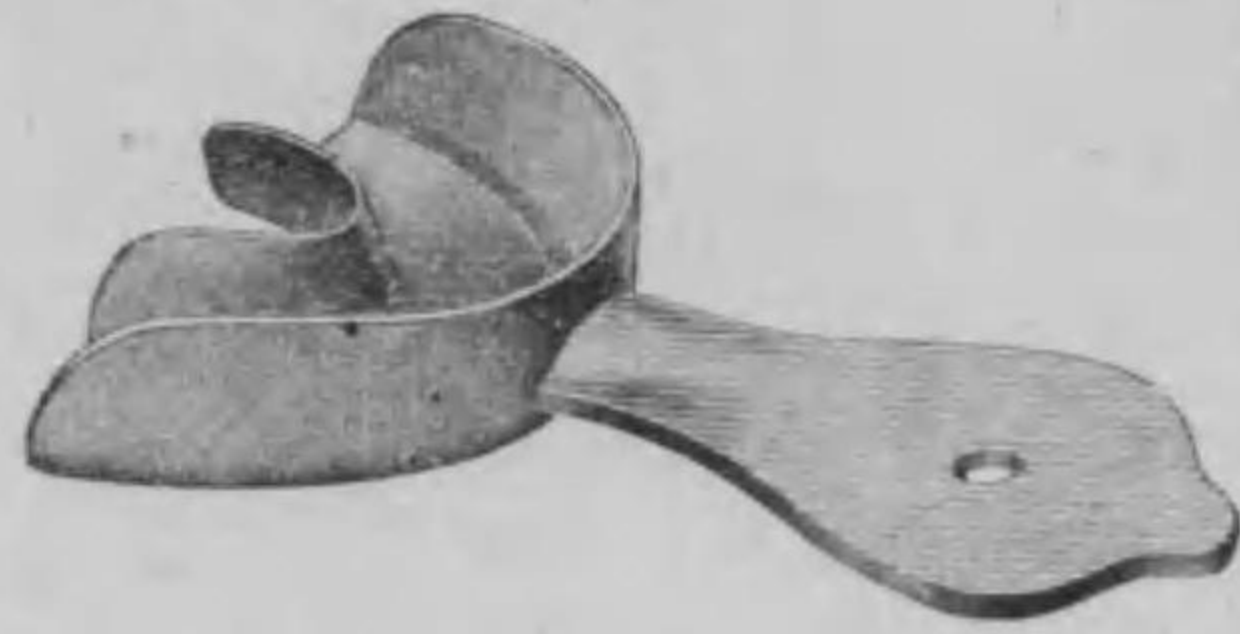


盤托用齒義部一 圖八十六百第

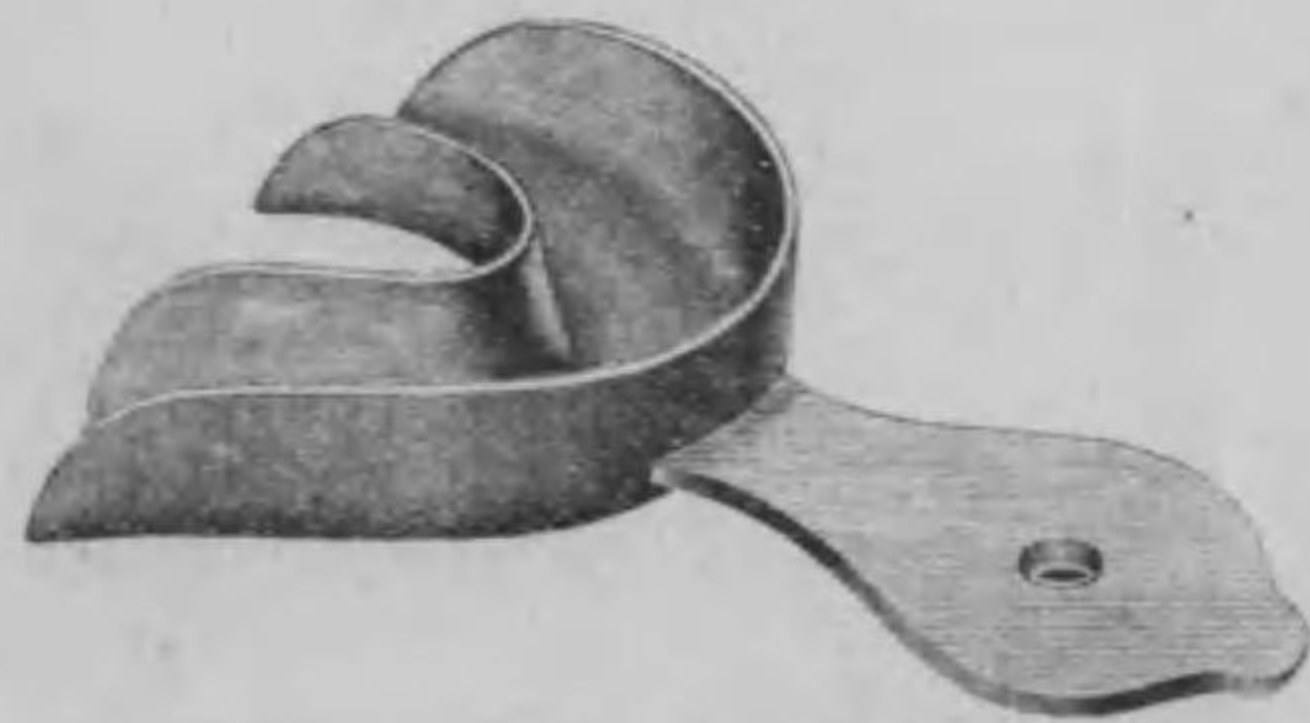
示指ヲ以テ頬唇ト齒齦トノ間ニ送り、溢セル材品ヲ齒齦ニ向ツテ壓迫ス、各側ニ於テ交互之ヲ行フベシ、又托盤ノ後縁即上顎ニアリテハ口蓋部ハ敢テ多大ノ注意ヲ要スルコトナシト雖モ、下顎ニアリテハ舌繫帶及舌阜等ノ存在スルカタメニ材品自由ニ普遍セサルヲ以テ示指ト中指トヲ以テ平等ナル壓迫ヲ加フルヲ必要トス

3 口腔ニ送入シタル材品ハ其石膏タルト其他ノモノタルトヲ問ハズ數分間放置スレバ硬化スルモノナレトモ之レヲ促進スルタメ密蠟及モデリング、ゴムボジション等ニハ冷水ヲ適用スルヲヨシトス、石膏ハ煉和ニ方リ〇六%位ノ比ヲ以テ食鹽ヲ常水ニ混和スルトキハ其硬化ヲ迅速ナラシムルヲ得ベシ

印象ノ採得

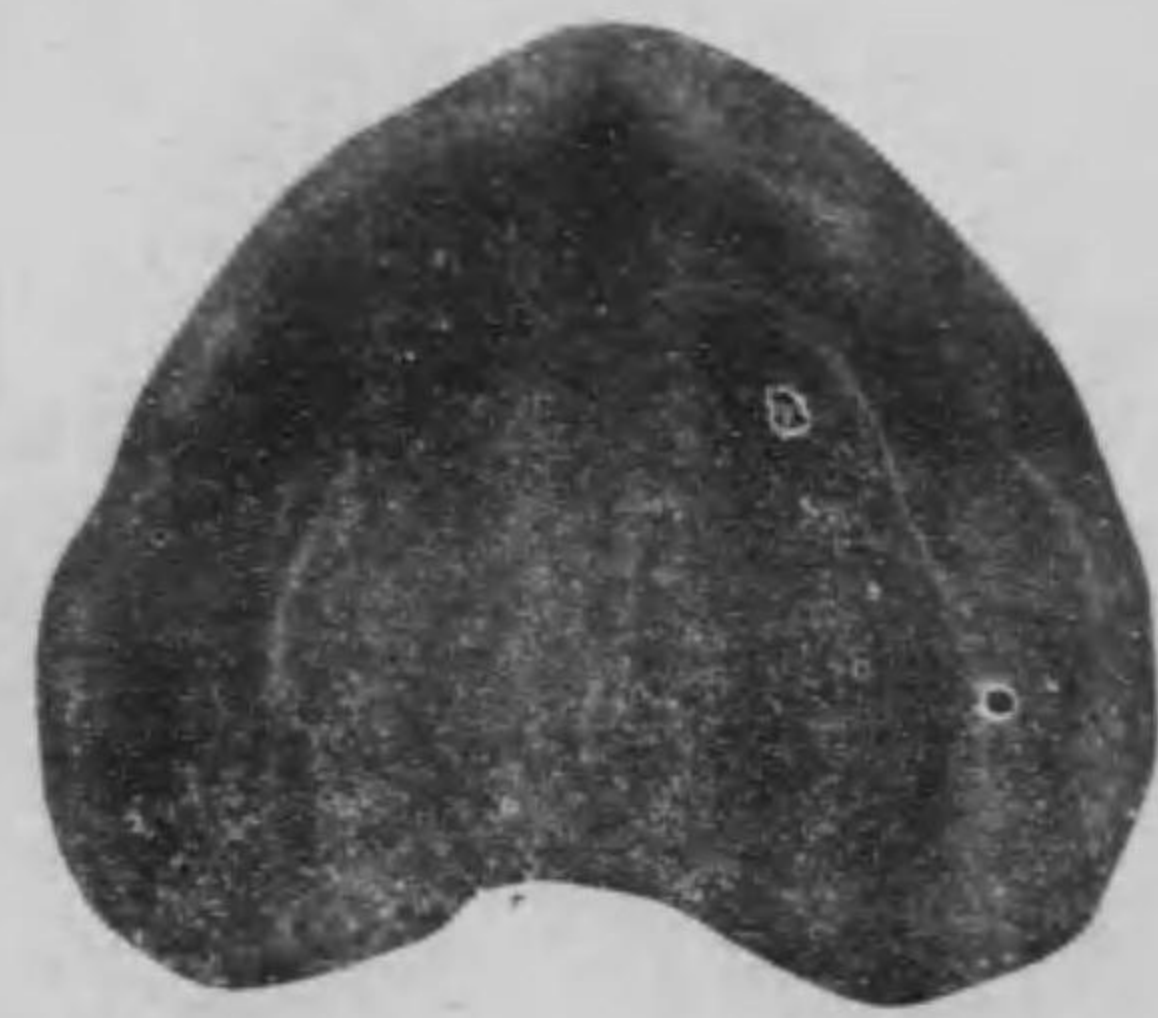


盤托用顎下 圖九十六百第



盤托用顎下 圖十七百第

4 材品ノ硬化完全ナルトキハ極メテ注意シテ平等ニ托盤ヲ支持シツ、之ヲ顎骨ヨリ剝離スベシ、此際石膏ヲ使用シテ破壊シタルトキハ之レヲ托盤中適當ノ位置ニ置キテ「サンダラック」等ヲ以テ粘着セシムベシ、是ニ於テ冷水ニテヨク印象面ヲ洗滌シ唾液及ヒ異物ヲ洗去スルトキハ乃チ石膏ヲ注入スルニ適ス(第百七十一圖)



象印顎上 圖一十七百第

三 石膏模型ノ調製

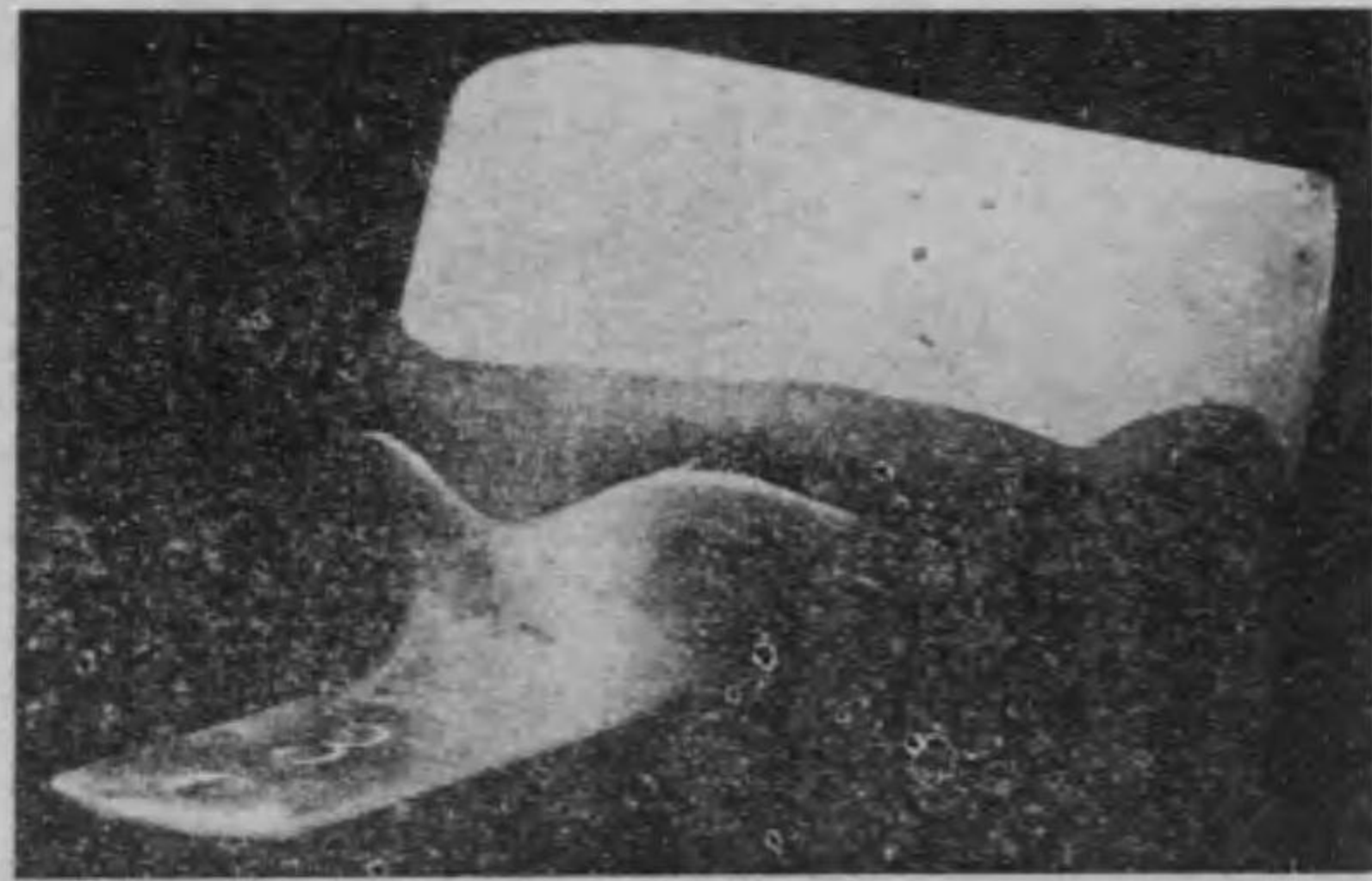
石膏模型

Plaster Model
Gypsum

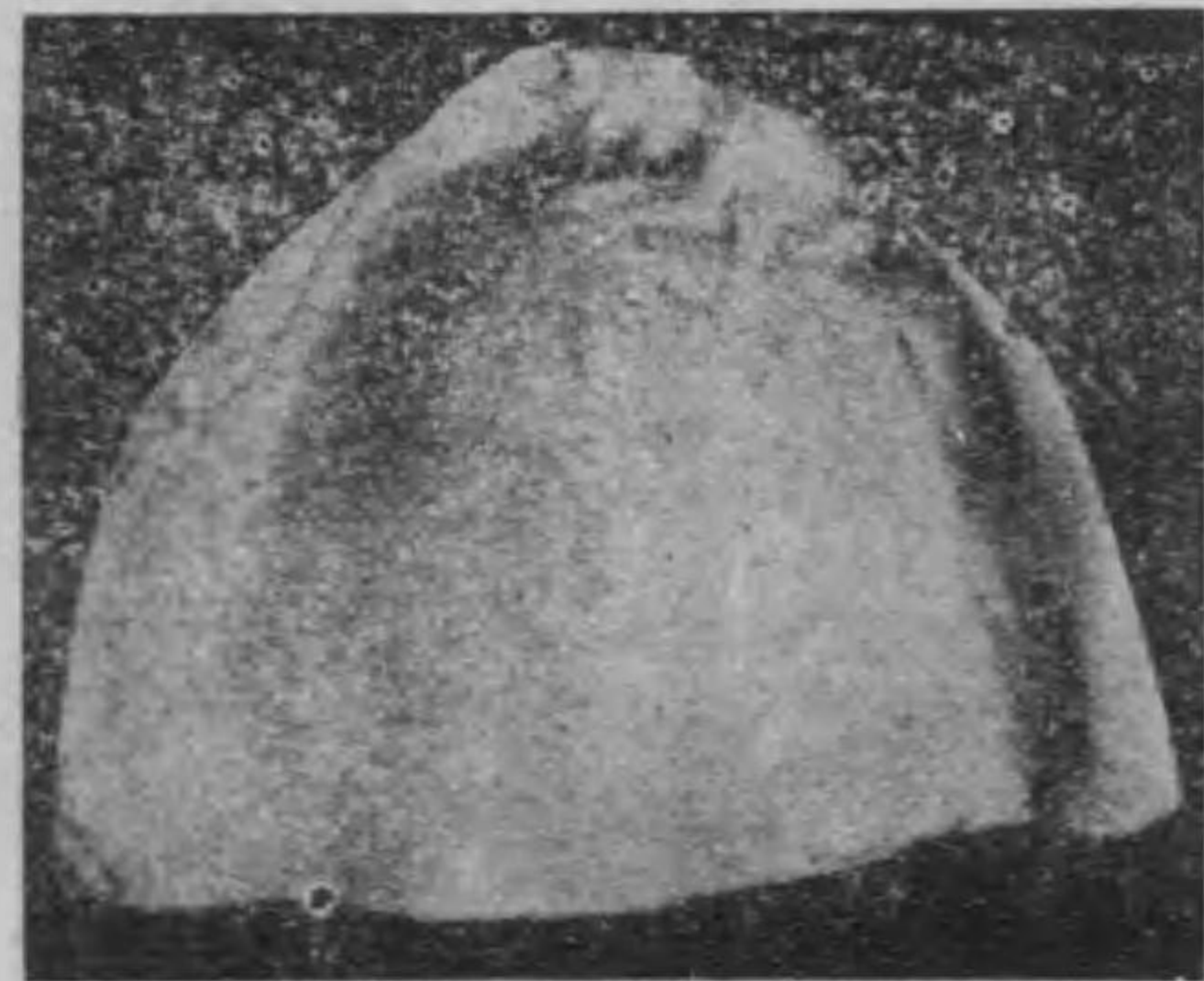
前記ノ方法ニヨリテ採得シタル印象ハ口腔ノ陰性模象ナリ、之レニ石膏ヲ注入シテ硬化セシメタルノ後(第百七十二圖)印象材品ヲ除去スルトキハ乃チ口腔ノ陽性模象ヲ得ベシ、之レヲ石膏模型ト云フ(第百七十三圖)

印象中ニ石膏ヲ注入スルニハ印象面ニ異物ノ膠着セルモノナク、其表面全體ニ濕潤シテ而モ過剰ノ水分ヲ蓄積セザルヲヨシトス、之レ石膏泥ノ容易且平等ニ普

遍スル所以ナレバナリ、印象ヲ石膏ニテ採得シタルトキハ其上ヨリ直ニ石膏ヲ注下スル能ハズ、膠着シテ分離シ難シ、故ニ印象ノ表面ヲ乾燥シテ「セルラック、ワニシユ」ヲ塗布シ、其乾燥シタルノ後更ニ「サンダラック、ワニシユ」ヲ塗布シ、其乾固スルヲ待ツテ石膏ヲ注入セサルヘカラズ



入注膏石 圖二十七百第



型模膏石 圖三十七百第

石膏泥ヲ注入スルニハ先ヅ其柔軟ナルモノ少許ヲ容レテ輕ク印象ヲ敲キ、微細ノ空隙ヲモヨク充塞シタルヲ確メタル後、徐々ニ泥ヲ附加シテ全ク印象ヲ填塞スルニ至テ止ム、之レヲ數時間放置スルトキハ印象材ヲ分離スルニ適スベシ

咬合模型ノ調製

印象材ヲ分離スルニハ材品ノ種類ニヨリテ同ジカラズト雖モ密蠟、モデリング等ニアリテハ之レヲ加熱軟化セシメテ除去スルヲ得ベク、石膏印象ニアリテハ之レヲ小片トナシ徐々ニ切離剝脱シテ除去ス

四 咬合模型ノ調製

咬合模型

Occlusion Model; Bite Articulationsmodel

石膏模型ハ單ニ口腔狀態ノ一面ヲ代表スルニ過ギズ、義齒ヲ調製スルニハ各自對合齒牙トノ關係ヲモ

知悉セザルベカラズ、之レ咬合模型ヲ要スル所以ナリ、即之レヲ標準トシテ陶齒ヲ排列スベキナリ

咬合採得

Bite-taking Bismuthen

咬合ヲ採得センニハ先ヅ口腔ニ於ケル兩顎齒牙ノ關係ヲ究知セザルベカラズ、若シ口腔ニ多數ノ健全齒存在シテ缺損僅ニ數齒ニノミ制限セラレ、トキハ兩顎ノ印象ヲ各別ニ採得シテ之レヨリ模型ヲ調製シ、此兩模型ヲ口腔ノ兩顎齒ニ倣ヒテ適宜關節セシメ、其正位ニ墨痕等ヲ以テ標目ヲ附スルモヨシ、然レドモ此便法ニヨル能ハサルトキハ宜シク左ノ順序ヲ守ルベシ

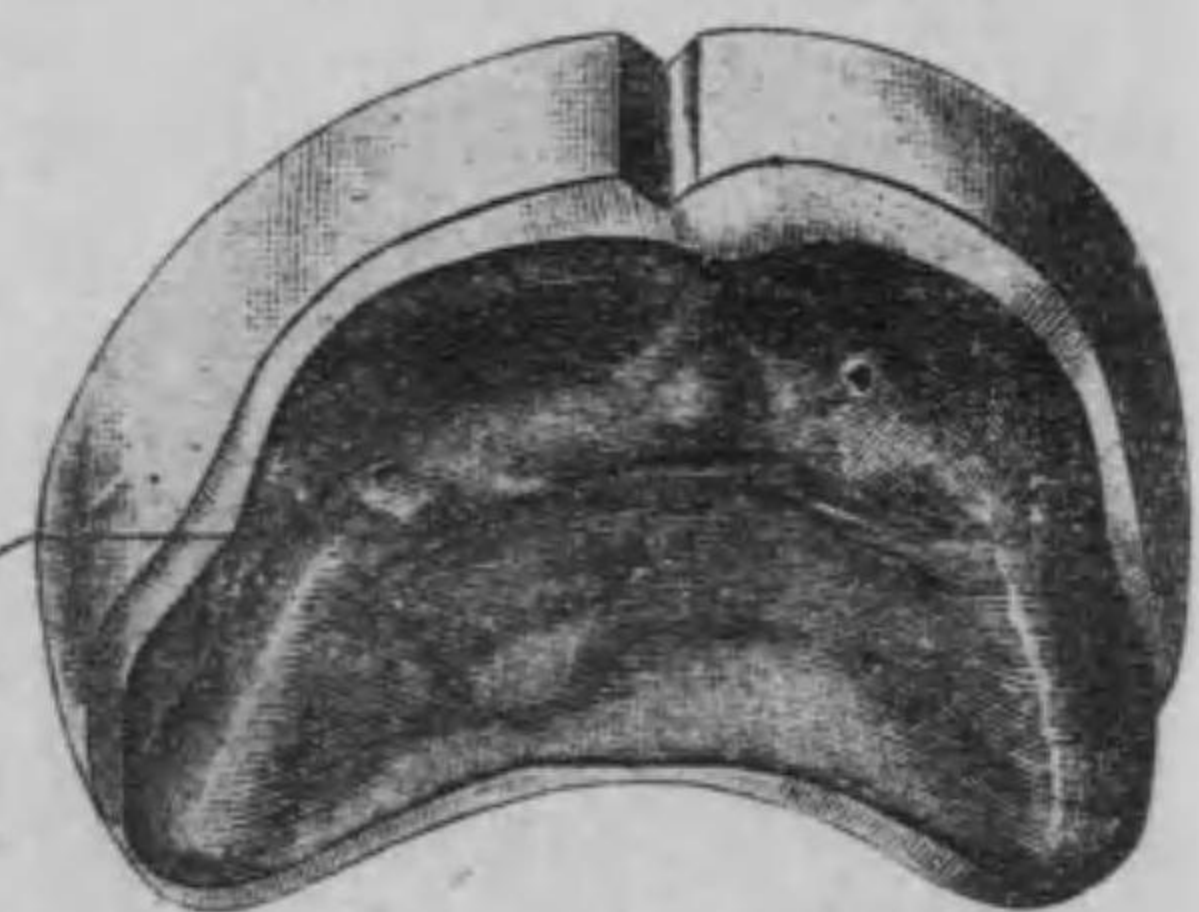
1 先ヅ當初兩顎ノ印象ヲ採得シ各石膏模型ヲ調製ス

2 其ノ模型ノ義齒ヲ適合セントスル部分ニ「パラフィン」ノ一層ヲ以テ所謂假床 Provisional Plate (第百七十四圖及第百七十五圖)ヲ作

リ、其上ニ軟化セル密蠟ノ厚層ヲ重ネテ蠟堤ヲ作ル(第百七十六圖)

3 之レヲ口腔ニ送入シテ正位ニ置キ、且顎骨ヲ正位ニ閉合セシムルトキハ密蠟上ニ對合齒ノ壓痕ヲ印スベシ

4 乃チ之レヲ取出シテ再ヒ石膏模型ノ正位ニ置キ、其上ヨリ對顎ノ模型ヲ密蠟



床假顎上 圖四十七百第



床假顎下 圖五十七百第



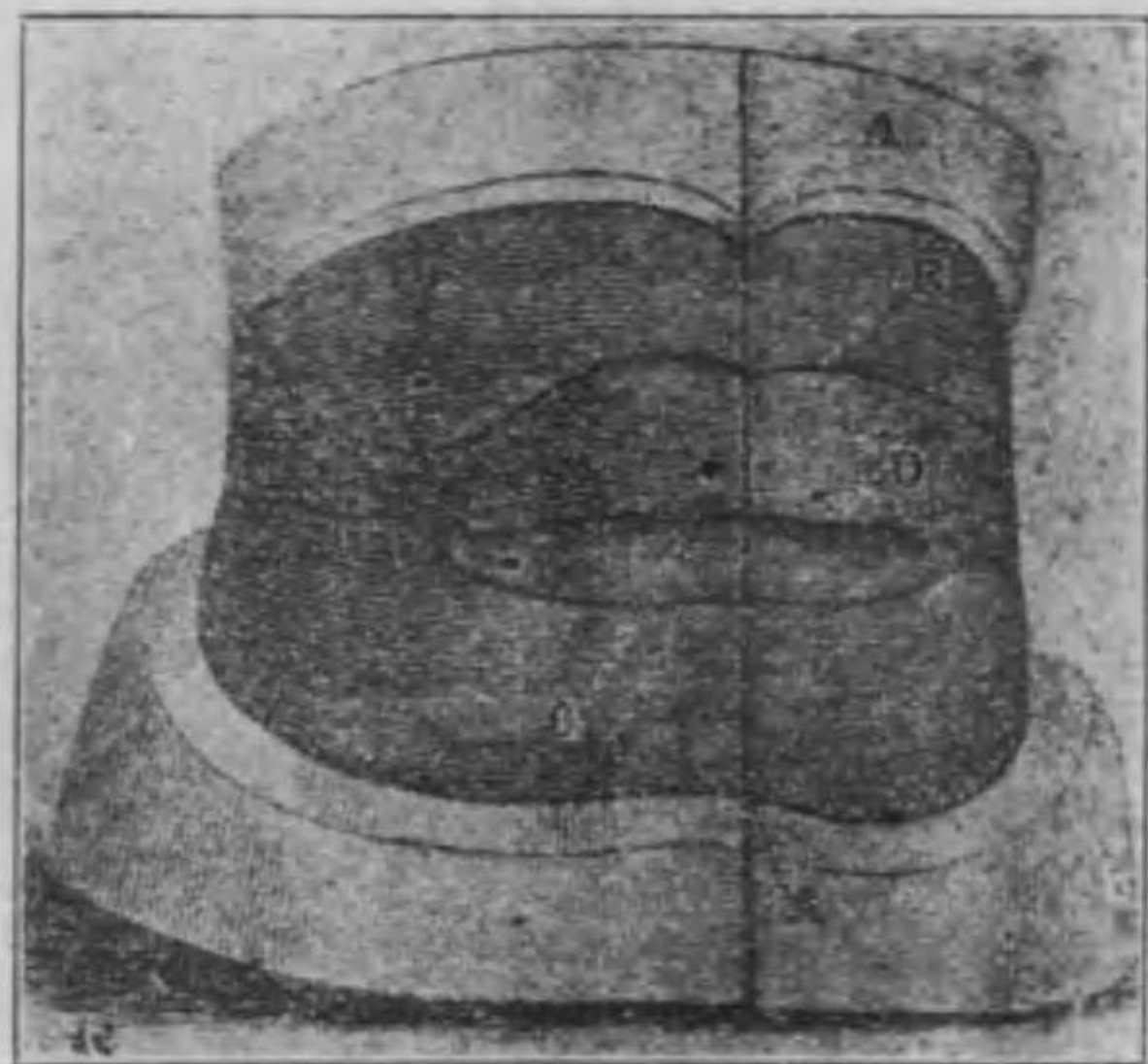
堤蠟下床假 圖六十七百第

咬合模型ノ調製

咬合模型ノ調製

上ニ於ケル壓痕ニ據リテ適合スルトキハ即口腔ニ於ケルト同様ノ咬合状態ヲ再演セシムルヲ得ベシ

咬合ハ習慣ニヨリ漸ク常規ヲ脱スルモノニシテ數齒ノ缺如ニヨリ正當ノ咬合ヲ營爲スル能ハザルモノヲ長ク放置スルトキハ先ヅ習慣ニヨリテ最便宜ナル齒牙ノミヲ以テ咀嚼シ、同時ニ之レニ調節センガタメ下顎隅角ノ角度ニ變化ヲ生ジ、終ニハ下顎關節亦之レニ從テ變形スルニ至ルベシ、此ノ如キモノニアリテハ單ニ解剖的狀態ニノミ拘泥セズシテ經驗的位置ヲモ參酌セザルベカラズ、之レ一顎全體或ハ兩顎ニ齒牙ヲ全ク缺如セル者ノ咬合ヲ探得スルコト極メテ困難ナル所以ナリ



合咬齒義全總 圖七十七百第

咬合機

Articulator
Arbitrator

此ノ如クニシテ口腔ニ於ケル兩顎ノ關係的位置ヲ學得シタルトキハ義齒ヲ排列スル間其位置ニ之レヲ保持セザルベカラズ、缺損僅ニ一二齒ナルトキハ兩顎ノ模型ヲ時々關節セシメテ以テ之レヲ排列

スルヲ得ベシト雖モ、數齒以上缺損セルモノハ特殊ナル方法ニヨラザレバ之レヲナスコト難シ、最輕便ナルハ所謂咬合機ヲ使用スルニアリ、即前記ノ如ク正位ニ關節セシメタル兩顎ノ模型ヲ其位置ヲ誤マルコトナク其儘



機合咬ニイランレナ 圖八十七百第



機合咬氏ンセンテスリク 圖九十七百第

咬合機上ニ致シ、上下兩面ニ充分ナル石膏泥ヲ附加シテ機ニ固着セシムルニアリ、機ハ後方ニ於ケル關節ニヨリ開閉自由ナルベシ

適當ナル咬合機ヲ得ルコト能ハザルトキハ所謂石膏咬合法(第百八十圖)ヲナスモ佳ナリ、即チ先ヅ一石膏模型ノ後縁ヲ敷延シテ扁平ナル表面ヲ作り、其一部ニ任意ナル截痕ヲ刻ンテ其全面ニ「サンダラック」等ヲ塗布シテ分離ニ便ナラシム、次デ相對合スル模型ヲ正位ニ關節セシメタル儘其後方ニ石膏ヲ附加シテ他ノ敷延部ニ於ケル截痕ニ適合スベキ突出部ヲ具有セル敷延部ヲ作爲ス、此截痕ニ於ケル關節

咬合模型ノ調製

ヲ標準トシテ兩者ノ咬合ヲ試ムレハ咬合機ヲ使用スルト大略同様ノ結果ヲ得

凡ソ此ノ如キ

方法ニヨリテ調

製シタル咬合ハ

單ニ兩顎間ノ間

隔、齒牙ノ關係的

位置ヲ示スノミ、即靜止時咬合ニ相當ス、故ニ之ヲ標準トシテ調製シタル義齒ハ果

シテ運動時咬合ニモ適シ得ルヤ否ヤハ頗ル疑問ナリ、グリットマン技ニ見ル處アリ、

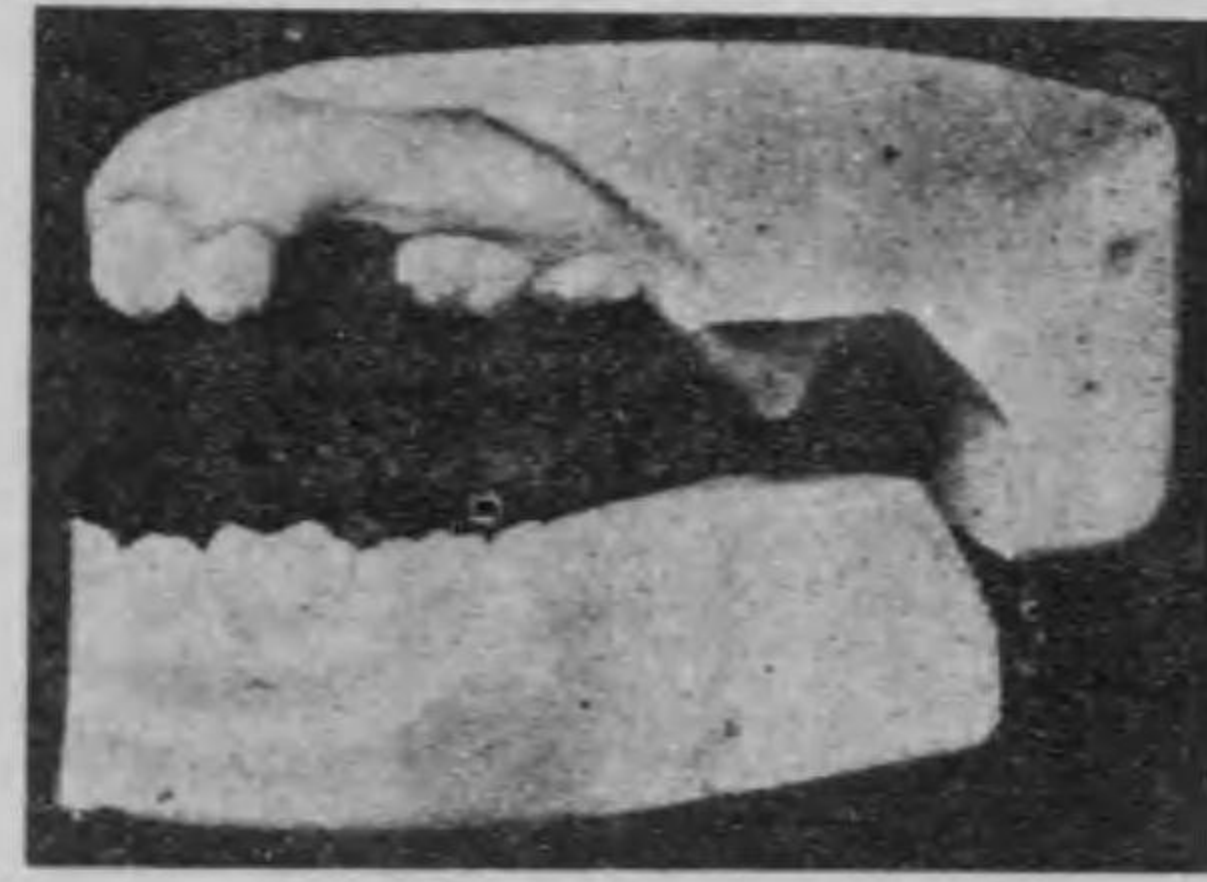
所謂生理的咬合機

Physiological Articulator

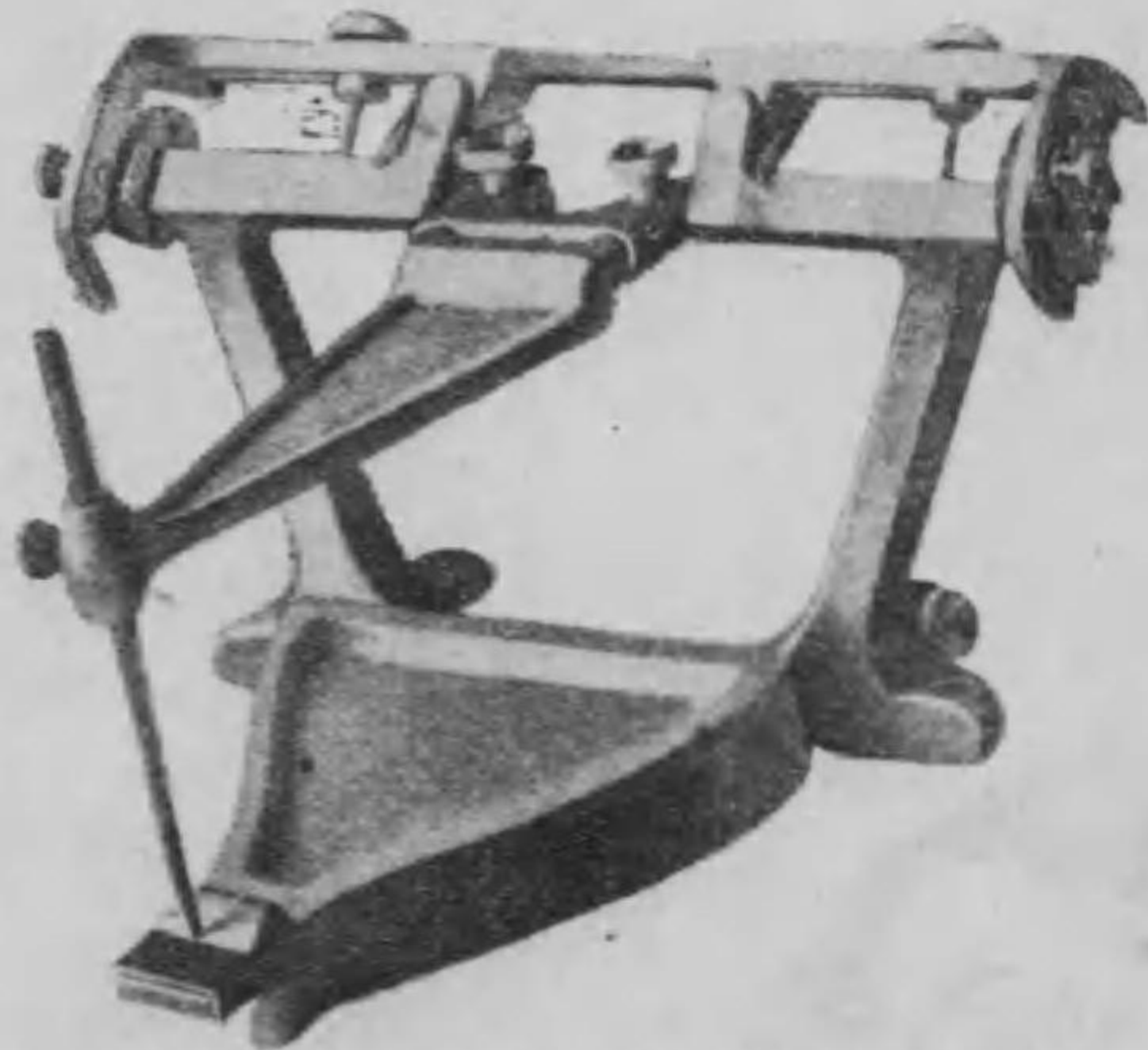
ナルモノヲ調製シ、下顎骨ノ運動ヲ略ボ代表

シ得ルガ如キ装置ヲ案出シタリ、即咬合模型ヲ之ニ附着スレバ安靜時咬合ノミナ

ラズ運動時咬合ヲモ窺知シ得ラルベキナリ、然ドモ各人ノ下顎、關節ノ解剖的關係



法合咬膏石 圖一十八百第



機合咬氏一シギ 圖一十八百第

ハ一ナラザルヲ以テスノ一ハ更ニ顔弓ナルモノヲ案出シテ下顎關節ト咬合トノ關係的位置ヲ採得シ、之ヲ標準トシテ咬合模型ヲグリットマン咬合機上ニ附着スル方法ヲ公表シタリ、最合理的ノ方法タルヲ失ハズ、近時ギンシーハ更ニ學理的研究ノ結果頗ル複雑ナル咬合機ヲ創製シタリ

五 陶齒ノ排列

陶齒ノ排列

Arrangement of Teeth
Anfertigen der Zähne

石膏模型成リ且咬合模型ヲモ得タルトキハ乃チ試ニ陶齒ヲ排列スルヲ順序トス、其法先ヅ、

ラフィン板ノ一層ヲ取り之レヲ將來義齒床ヲ適合セントスル部位ニ應ジテ模型ニ適合シ咬合ノ状態ニ倣ヒテ其齒穹線ニ陶齒ヲ排列ス、陶齒ハ兼テ患者ノ口腔ニ就キテ色彩及ヒ大小ヲ検査撰擇シ置カザル可カラズ、陶齒ノ撰擇ハ天然齒ノ存スル時ハ之ヲ標準トスルヲ得ベシト雖モ若シ之ヲ比較スベキ天然齒ノ存セザルニ方リテハ體格、資質、年齢、皮膚ノ色彩等ニ調和スルモノヲ撰擇セザルベカラズ、義齒ノ排列ハ極メテ技工的熟練ヲ要スルモノニシテ外觀實用兼備セザル可カラズ、其排列完了シタルトキハ蒸和ニ先タチ一度之ヲ口腔ニ試ムルヲ安全トス試適之ナリ

六 合盒及蒸和法

合盒法

Flasking
Eingussung in der Knetzie

前記ノ順序ヲ經タルモノ

ハ乃チ之ヲ「プラスチック」中ニ

埋没シテ蒸和ノ準備ヲナサ、ルベカラズ合盒法即之レ
ナリ、之ヲ行フノ順序次ノ如シ

1 口腔ニ試ミテ其適否咬合意ヲ得タルトキハ先ヅ
模型ヲ咬合機ヨリ脱離シ、石膏ヲ以テ之レヲ「プラスチック」

Plask
Arzelle 内ニ埋没シ、僅ニ陶齒及ビ「バラフィン」假床ノミヲ露
出ス

2 而シテ石膏ノ硬化シタルノ後、其表面ヲ平坦ニシ
普通ノ器械油、或ハ胡麻油、或ハ「ワゼリン」ヲ全體ニ塗布シ
後ニ合離スルニ便ナラシム

3 之ニ於テ「プラスチック」ノ上部ヲ適合シ、上ヨリ石膏ヲ
注入シテ「プラスチック」ヲ悉ク沒了シ、被蓋ヲ以テ被覆スベシ



法 盒 合 圖 二 十 八 百 第

4 「プラスチック」ヲ放置スルコト數十分ニシテ之ヲ炭火上ニ遠ク加熱スルトキハ
石膏ハ漸ク硬固トナリ假床ヲ形成シタル「バラフィン」ハ漸ク熔融シテ「プラスチック」ノ上
下兩部ノ接合線ヨリ溢出スルニ至ル、之レヲ度トシテ「プラスチック」ヲ炭火ヨリ下シテ
上下ノ兩部ヲ分離シ、其内面ニ熱湯ヲ灌注スルトキハ「バラフィン」ハ全ク消失シテ陶
齒ハ「プラスチック」内ニ一部或ハ大部石膏中ニ埋没セラレテ殘留スベシ(第百八十二圖)

蒸和法

Vulcanisation
Vulkanisieren

全ク之レヲ清潔ナラシメタルトキハ蒸和護謨 *Vulcanite-rubber*
Kautschuk

ヲ小片ニ切リテ「バラフィン」ノ消失ニヨリテ生ジタル空隙ヲ

徐々ニ填塞シ、全ク其ノ過不及ナク填入セラレタルヲ

確メタル後、又前ノ如ク「プラスチック」ノ上下兩部ヲ接合シ、

且此度ハ側方ヨリ三ヶノ螺旋ヲ以テ可及的確實ニ「フ

ラスク」ヲ壓搾シテ蒸和罐中ニ投シ、適宜ニ水ヲ入レテ

罐蓋ヲ施シ、二百八十度乃至三百二十度ノ熱ヲ四十分

乃至一時間持續スベシ、之レヲ蒸和法ト云フ、即蒸和法

トハ硫化護謨ヲ高壓ノ水蒸氣ニ逢會セシメテ融合硫

化セシムル方法ナリ



成 完 圖 三 十 八 百 第

一定時ノ後、罐ノ冷却スルヲ待ツテ、プラスチックヲ取出シ、螺旋ヲ脱シテ上下ノ兩部ヲ分離シ、正ニ硬化シタル義齒ヲ掘出スベシ、之レヲ清淨ニシ、護謨用鏡子ヲ以テ平滑ニシ、砂紙磨粉等ヲ用ヒテ護謨ニ光澤ヲ附與スルトキハ以テ口腔ニ送入スルニ適スベシ(第百八十三圖)

七 有床義齒ノ種類

有床義齒

Plate

蒸和護謨ハ常ニ必ズシモ理想的義齒ヲ作爲スルニ適セズ、或ハ其厚キガタメニ不快ヲ與ヘ、發音ヲ不明ナラシメ、或ハ唾液

ノ變性ニヨリ軟化分解シテ不潔ニ陥リ易キ等ノ弊ナキニアラズ、之レガタメ古來種々ノ材品ヲ以テ義齒ヲ調製スルコト行ハレタリ其主要ナルモノ左ノ如シ

(一) 護謨床義齒

Rubber Plate

前條ニ説述シタル處ニシテ少數ノ弊害アリト雖ト

モ其調製頗ル簡單ニシテ比較的缺點少ナク應用ノ範圍廣キヲ以テ最多ク使用セラル、一八五一年ネルソン、グットイヤーノ製作セシヲ嚆矢トナス

(二) 金床義齒

Gold Plate

黃金ハ鑲床トシテ用ヒラレタル最初ノ物質ニシテ一七八〇年頃ジエームス、ガードエツトノ創案ニ係ルモノ、如シ、床ハ薄クシテヨク吸着

セシムルヲ得ベク、唾液ニ逢ヒテ分解スルコトナク、又容易ニ摩擦スルコトナシ、之レヲ今日汎用セラル、處ノ蒸和護謨ニ比スルニ學理上勝レタル點頗ル多シ然レトモ只其製作極メテ煩雜ニシテ巨額ノ費用ヲ要スルヲ以テ其用途ノ制限セラル、ノミ

金床義齒調製ノ方法ハ左記ノ順序ニヨリ壓印法ニヨルコト通法ナレトモ現今鑄造法ノ進歩ニ伴ヒ往々之ヲ鑄造スルモノアリ、今壓印法ノ順序ヲ摘記スレバ左ノ如シ

- 1 通法ノ如ク石膏又ハ「モデリング」ヲ用ヒテ印象ヲ採得シ、石膏模型ヲ調製シテ之ヲヨク整備シ、重曹溶液等ノ中ニ煮沸シテ表面ヲ緻密平滑ナラシム
- 2 次デ極メテ僅ニ濕氣ヲ帶ブル鑄砂或ハ「カルカー」中ニ模型ノ上部ヲ平等ニ埋没セシメ、注意シテ之レヲ脱離シ、茲ニ生ジタル凹陷部ニ熔融シタル亞鉛ヲ注入スレバ夫ノ石膏模型ニ相當スル亞鉛模型ヲ得ベシ、陽鑄型 Die 即之レナリ
- 3 之レヲ基礎トシテ其上方ヨリ熔融シタル鉛ヲ注下スルトキハ夫ノ「モデリング」或ハ石膏ニテ採得シタル印象ニ相當スル鉛印象ヲ得ベシ、陰鑄型 Counter-die 即之レナリ

4 此ニ於テ此陰陽兩鑄型ノ中間ニ二十五番乃至三十番厚ノ金板ヲ置キテ壓印スルトキハ所謂金床ヲ得ベシ

5 此ノ金床ヲ護謨床義齒製作時ニ於ケル「バラフィン」假床ノ如ク他ノ石膏模型上ニ置キテ咬合機上ニ附着シ、金床用陶齒ノ適當ナルモノヲ「バラフィン」或ハ粘着蠟ヲ用ヒテ床上ニ排列シテ口内ニ試ミ、然ル後埋没シ鑲着シテ「バラフィン」或ハ粘着蠟ニ相當スル部ヲ金鑲ニテ置換スルトキハ即金床義齒ヲ得ベシ

6 鑲着術ハ極メテ熟練セル技能ヲ要スルモノニシテ純粹技工ニ屬スルヲ以テ本書ニハ之レヲ詳説セズ

(三) 亞爾密紐謨床義齒 *Aluminium Plate* *Aluminiumgebisse* 一八六六年ノ頃「ジェー、ビー、ブーン」ハ特殊ナル「フラスク」中ニ合金法ヲ行ヒテ鑄融シタル亞爾密紐謨ヲ「フラスク」中ニ送り所謂

鑄造法ヲ創案シタリト雖モ、其漸ク擴布スルニ從テ種々ノ弊害發見セラレ、遂ニ又多ク用ヒラレサルニ至レリ、製作法ノ煩雜ナルコト、亞爾加里性唾液ニ會ヒテ腐蝕セラル、コト等ハ其最大ナル短所ナリ、近來行ハル、ハ亞爾密紐謨ノ薄板ヲ壓印シテ床ヲ作り、之レニ蒸和護謨ヲ以テ陶齒ヲ附着スル方法ナリ、金床ニ代用シテ護謨床義齒ノ短ヲ補フヲ得ベシ

(四) 「セルロイド」床義齒 *Celluloid Plate* *Zelluloidgebisse* 一八七〇年「イザア、スミス、ハイアト」ガ特許權ヲ得タル處ノモノニシテ通法ノ如ク合金法ヲ行ヒタルノ後、蒸和護謨ヲ填塞スル

代リニ「セルロイド」ノ板狀片ヲ「フラスク」ノ兩部ニ間在セシメ、螺旋ヲ先ツ弛クナシテ偏里設林中ニ投シ、煮沸數時間ニ亘リ「セルロイド」ノ漸ク軟化スルニ從テ螺旋ヲ緊クシ、終ニ全ク緊壓シタルノ後、徐々ニ冷却スルニアリ、輕易ニシテ彈力性ヲ有シ、頗ル硬固ナリト雖トモ、熱ニ會ヒテ變形シ易ク、微力ノタメニ破折シ、又口腔液ニ長ク堪エサルヲ以テ多ク使用スルモノナシ

(五) 連續齒齦義齒 *Continuous Gum Work* *Enamelled Platingebisse* 本術ハ一八四六年「アレ」ノ調製法ヲ公表シタルヲ初メトス、一顎或ハ兩顎齒牙ノ悉ク喪失シタルモノニ適應スル處ニシテ、

其法先ツ通法ノ如ク陰陽兩鑄型ヲ作り、白金板ヲ用ヒテ床ヲ壓印シ、之レニ純金ヲ以テ有根陶齒ヲ鑲着シタルノ後、陶劑ノ基體ヲ齒齦及ヒ口蓋ノ上面ニ塗抹シテ白金ヲ外部ニ露出セサシメ、且其上ニ齒齦及口腔粘膜ノ色彩ニ類似シタル珫瑯劑ヲ塗布シテ窯燒調製スルニアリ、全ク理想的ノ方法ナリト雖モ其製作極メテ困難ニシテ常ニ巨額ノ資ヲ要スルヲ以テ廣ク行ヒ難シ

八 有床義齒ヲ口腔ニ維持スル原理

有床義齒ノ維持

Retaining of Plate
Retention der Platte

有床義齒ヲ口腔ニ維持セシムルハ通例吸着、空室、帶鈎、重量、螺旋發條、金冠類、根管釘等

ノ一乃至數者ニ據ル

(一) 吸着 Adhesion

印象ニシテ精確ニ探得セラレタランニハ恰モ夫ノ平坦ナル

二枚ノ硝子板ヲ相重ネタル時ノ如ク義齒ハヨク口腔粘膜炎ニ平等ニ吸着シ、氣壓

ニヨリテ其位置ニ保維セラルベシ、無齒上顎ニアリテハ最モ

緊要ナル維持方法タリ、或ハ特ニ吸着盤ナルモノヲ附着スル

コトアリ、然レトモ此ノ維持力ハ未タ極メテ安全ナリト稱ス

ヘカラズ、從テ他ノ維持力ヲ併用スルノ要アリ、空室或ハ鈎ノ

利用セラルコト多シ

(二) 空室 Air Chamber

Saugkammer トハ上顎ノ全部或ハ大部ノ義齒ヲ調

製スルニ方リ其口蓋ノ中央適宜ノ部ニ小凹陥ヲ設置シテ吸

着ニ際シ舌尖ノ作用ニヨリ此部ノ空氣ヲ排除或ハ稀薄ナラシメテ氣壓ノ外部ヨ



圖四十八百第 吸着盤

リ働クコト更ニ強カラシムルモノヲ云フ、合金法ヲ終リテ護謨ヲ「フラスク」ニ填塞スルニ方リ、小鉛板ヲ石膏模型ノ口蓋ニ相當スル部ニ置キ、其上ニ護謨ヲ附加シテ蒸和シタルノ後、其鉛片ヲ除去スレバ之レヲ得ベシ、常用スルニ足ル方法ナリ

(三) 帶鈎 Clasp

Klammer 口腔ニ殘存セル齒牙アルトキ

ハ義齒床ノ當該齒牙ニ相當スル部ヨリ鈎狀ノ突起

ヲ出シ、齒頸ニ沿フテ齒冠ヲ抱圍セシメ以テ義齒ヲ維持ス

ル方法ナリ、之ヲ附着スル部位ハ可及的床ノ後端ニ近クシ

テ健全強固ナル齒牙ヲ撰ビ、且外部ニ顯著ナル露出ヲナサ

ル様附着スベシ、護謨床ニアリテハ其實質中ニ之レヲ埋

沒シテ蒸和シ、鑲床ナレバ之レヲ床ニ鑲着ス

設置容易ニシテ維持確實ナルガ故ニ最多ク使用セラル、

然レトモ鈎ヲ以テ抱括セラル、齒牙ハ其彈力ニヨリテ取

捨ノ際徐々ニ弛緩シ易ク又齒頸部トノ間ニ異物ノ蓄積ヲ生シ易キヲ記憶セザル



圖五十八百第 空室



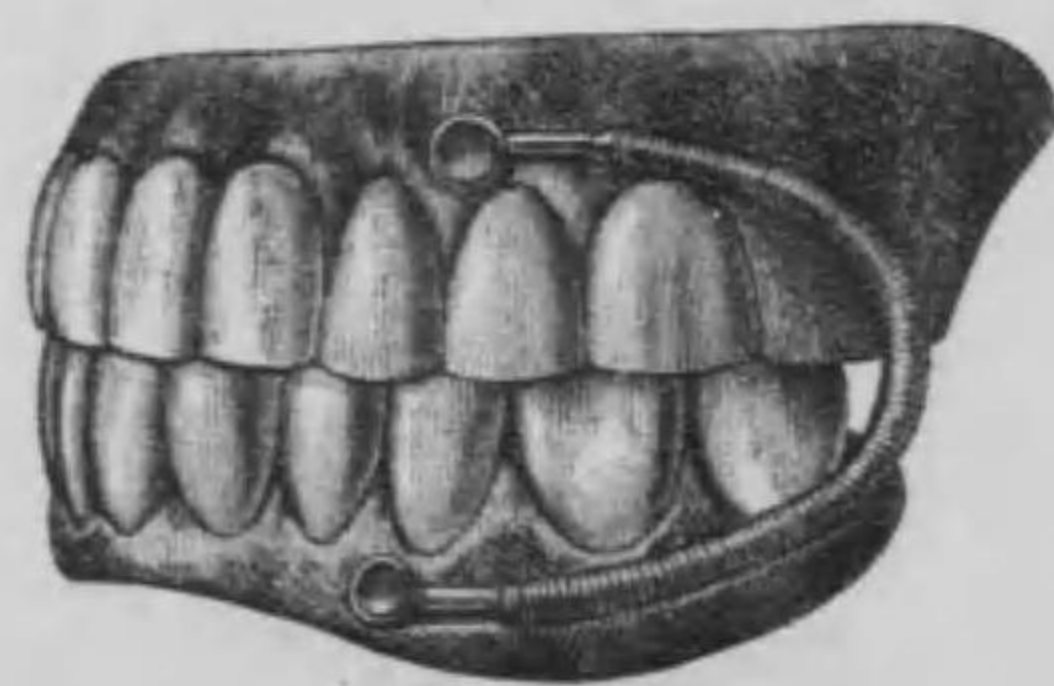
圖六十八百第 帶鈎

有床義齒チ口腔ニ維持スル原理

ベカラズ、故ニ堅固ナル齒牙ヲ撰擇シテ其部位ヲ定ムルト同時ニ使用中時々清淨法ヲナスヲ忘ルベカラズ

(四) 重量 *Weight* *Gravity* 下顎義齒ハ其重量ニヨリテ維持力ノ一部ヲ助ケラル、ハ疑フベカラズ、故ニ此理ヲ應用シテ齒槽突起ノ吸收顯著ニシテ維持力ノ薄弱ナル下顎總全義齒ニハ金屬ヲ混和シタル蒸和護膜ヲ使用スルコトアリ、所謂加重護膜即之レナリ

(五) 螺旋發條 *Spiral Spring* *Spiral Spring* 上下兩顎ノ總全義齒ニシテ帶鉤ヲ使用シ難ク、而モ空室ニヨリ満足ナル結果ヲ收メ難キコトアリ、此ノ如キニ際シテハ義齒ノ兩側ニ於テ上下兩顎ニ跨リ、發條或ハ螺旋發條ヲ附着シ、之ヲ維持セシムルコトアリ(第百八十七圖)



第百八十七圖 螺旋發條

(六) 金冠類 *Gold crown* *Gold crown* 金冠或ハ不全金冠ヲ義齒床ノ一部ニ附着シ大白齒或ハ小白齒等ノ圓壘狀ノ強堅ナルモノヲ撰擇シテ適合セシメ以テ維持ノ方法トナスコトアリ、製作ノ複雑ナルニ比シ帶鉤ト何等ノ差別ヲ見ズ

(七) 根管釘 *Root-Canal Post* *Root-Canal Post* 殘存齒根ノ根管内ニ適合スル様合釘ヲ床ノ一部ニ附着シテ其維持ヲ計ルコトアリ、現今用ユルモノ多カラズ

着シテ其維持ヲ計ルコトアリ、現今用ユルモノ多カラズ

第十七章 繼續義齒術

繼續義齒術

Crown Work *Kronenarbeit*

トハ齒冠ノ大部或ハ全部破壊セル齒根ニ人工齒冠ヲ接合スル方法ヲ云フ、按スルニ本術ハ二三十年以來漸ク進歩シタル處ニシテ、其以前ニアリテハ木製樞軸ヲ用ヒテ天然齒或ハ人工齒冠ヲ齒根ニ接合スル一法ノ僅ニ行ハレタルニ過ギズ、然ルニ近年齒科材料ノ製作漸ク進歩シゲーツ、バンウール、フオスター、ローガン等各種ノ陶製繼續齒冠ヲ製出スルニ及ンデ漸ク本術ノ隆運ヲ來シ、今ヤ其術式ノ如キモ數百ヲ以テ算スルニ至レリ

繼續義齒術ニ特異ナル點ハ夫ノ有床義齒ニ於ケルカ如ク床ヲ有セサルト取捨ノ要ナキトニアリ、故ニ恰モ天然齒ノ再生セラレタルカ如クニシテ異物ヲ口内ニ送入シタル不快感ヲ覺ユルコトナク、又味覺發音等ノ口腔機能ニ寸毫ノ障礙ヲ與フルコトナク、口腔ヲ不潔ニ陥ラシムルコトナシ、故ニ繼續義齒ノ適應症ニアリテハ常ニ之レヲ作爲シ有床義齒ヲ以テ代用スヘカラズ

繼續義齒術

一 適應症及禁忌症

適應症

健全ナル齒根或ハ治療シテ健態ニ復セシメ得ヘキ齒根ヲ有シ、而カモ充填ニ適セサル齒牙ハ常ニ繼續義齒ノ適應症ナリト云ハザルベカラズ、例之左ノ如シ

I 齒牙ノ折傷 齒冠ノ過半破折シタルモノハ充填殊ニ陶劑或ハ金箔等ヲ以テ充填スルヨリモ寧ロ色彩ノ天然齒ニ最酷似セル人工齒冠ヲ以テ繼續スルノ勝レルニ如カズ

2 齒牙硬組織疾患 齒牙消亡症ハ齒冠ヲ大破セシムルコト比較的少ナク從テ本術ノ適應症トナルコト多カラズト雖モ、齶蝕ハ最多ク本術ヲ要スルモノトス、前方齒牙ニアリテハ自然的色彩ヲ恢復シ、後方齒牙ニアリテハ完全ナル咀嚼器官ヲ復得センニハ之レニヨラサルヘカラザルコト多シ

3 齒牙ノ變色 齒髓ノ失活シテ著シク變色セル前方齒牙ハ此ノ適應症トナルコト多シ、但シ容易ニ漂白シ得ルモノハ此限リニアラズ、化灰不全ノタメ異色斑ヲ呈セル有髓齒ハ之レヲ要スルコト稀ナリ

4 齒牙ノ異常 成形異常齒殊ニ倭小齒、過剩齒、蜂窠齒、微毒齒等ハ其醜貌ヲ補ハシカタメ之ヲ切斷シテ繼續術ヲ施コスコトアリ、又排列不正齒ハ矯正術ヲ施コシ能ハザル場合ニ此術ニヨリテ所置セザルベカラザルコトアリ

5 有床義齒ノ維持法或ハ架工義齒ノ支臺トシテ此方法ヲ行フコトアリ

禁忌症

左記ノ狀態アルモノハ一時的或ハ絶對的ニ本術ヲ行フヲ中止セザルベカラザルコトアルベシ

I 齒膜及ヒ齒齦ノ極メテ纖弱ナルモノ 此ノ如キモノハ多大ノ勞力ヲ費シテ疾病ヲ治癒シ繼續ヲ施スト雖モ、病機再發シテ齒根漸ク弛緩シ、動モスレバ齒槽膿瘍等ニ轉歸シテ遂ニ脱落スルニ至ルノ患多シ、殊ニ唾液ノ極メテ不良ナルモノ及ビ口腔ノ清掃ヲ怠ルモノニ於テ然リ

2 同時ニ有床義齒ノ適應症アルモノ 例之顎ノ兩側ニ白齒缺損シテ茲ニ有床義齒ヲ作爲セザルベカラザルモノアリ、同時ニ切齒ノ一或ハ二根ニ繼續術ニ適應スルモノアリトセヨ、義齒ハ其繼續術ヲ施スト否トニ關セズ口蓋或ハ齒槽突起ノ全部或ハ大部ヲ被覆スル處ノ床ヲ製作セザルベカラズ、其前方ニ一二齒冠ヲ附着スト雖モ敢テ其負擔ヲ重カラシムルコトナカルベシ、此ノ如キ場合ニハ有床義

齒ト繼續義齒トヲ同時ニ製作スベキヤ、或ハ全然有床義齒ノミヲ以テ補綴スベキヤノ疑問ヲ生スベシ、切齒ノ齒根骨植確實ニシテ長ク保存シ得ベキ底ノモノナラシニハ多少ノ勞ヲ増多スルコトアルモ繼續義齒ヲ施スベシ、之レニ反シ齒根ノ將來極メテ安全ナリトナスコト能ハザルモノニハ之レヲ拔去スルカ、或ハ根管充填ヲ施シテ而シテ有床義齒ヲ作爲スルヲ得策トナス

3 架工義齒ノ適應症 齒列内ニ數ケノ缺損アリ、又タ支臺トスベキ齒牙或ハ齒根アリタリト假定セヨ、此ノ如キ場合ニハ架工術ヲ施スベキヤ、或ハ又有床義齒ト繼續義齒トヲ以テ補綴スベキヤノ問題ヲ生ズ、要ハ架工術ヲ施スベキヤ否ヤヲ解決スルニアリ、詳細ハ架工義齒ノ條下ヲ参照スベシ

二 齒根ノ準備及形成

齒根ノ準備

Preparation of Root
Vorbereitung der Wurzel

繼續義齒ヲ調製スル第一手段トシテハ先ヅ齒根ヲ健康ニ復セシメ、且之レヲ保存ニ適スル状態トナシ、次テ之レヲ人工齒冠ヲ受容スルニ足ル形態トナサハル可ガラズ、其治療ノ方法ハ各疾病論ノ條下ニ詳述シタルヲ以テ就テ見ルベシ、繼續術ヲ施スニ就テ

最緊要ナルハ齒膜ノ状態ニアリ、齒膜健康ナラザレバ繼續後往々齒牙ノ弛緩ヲ招來スベシ、齒髓ハ通例失活シタルモノナルコト多シ、故ニ其完全ニ摘出セラレ且消毒セラル、迄充分治療スルヲ要ス、但シ金冠ヲ調製スルニ方リテハ時トシテ齒髓ヲ保存スルモ妨ナキコトアリ

此ノ如クニシテ治療ノ完了セルモノハ其器械學的準備ヲ初ムルニ先タチテ必ラズ根管ノ尖端四分ノ一位ヲ僣答百兒加或ハセメントヲ以テ充填スルヲ要ス

齒根ノ形成

Shaping of Root
Formierung der Wurzel

次テ齒冠ヲ調製スルニ先タチ齒根ヲ成形シテ之ヲ受容スルニ適當ナラシメザルベカラズ、各繼續術式ニヨリテ多少ノ相異アリト雖モ概シテ左ノ三點ニ注目スルヲ要ス

一 根齦端ヲ平坦ニシテ之レヲ齒齦線下マデ切下ゲザルベカラズ

凡ソ如何ナル方式ノ繼續術タルヲ問ハズ、其齒根ト齒冠トノ接合ハ之レヲ齒齦線下ニ於テナスヲ常トス、蓋シ其齒齦線上ニ於テ接合セラレ、トキハ天然齒根ト人工齒冠トノ色彩多少調和セザル處アリ、且之レヲ合着スル材品即セメント等ノ外觀ニ露出セザルコトナキヲ保セズ、加之合着材品ハ口腔ニ於ケル醱酵酸ノ作用ニ對スル抵抗極メテ大ナラザルヲ以テ齒齦線上ニアリテ絶エズ唾液ニ浴スルト

キハ漸ク分解溶去セラレテ齒根ト人工齒冠トノ接合部ニ裂隙ヲ生シ、遂ニ齶蝕ノ再發或ハ齒冠ノ脫離等ヲ生起スルニ至ルベシ、然ルニ此接合ヲ齒齦線下ニ於テ營マシムルトキハ一ハ齒根ト齒冠トノ接合ノ醜貌ヲ外界ニ暴露スルコトナク、又一ハ其接合部ヲ齒齦線ニテ保護シ唾液ノ分解作用ノ影響スルヲ避クルヲ得ベシ、故ニ齒齦線下一乃至數密迷ノ水平ニ於テ常ニ接合セシムルヲヨシトス

接合面ハ常ニ平坦ナルヲ要ス、即齒齦線ノ彎曲ニ沿テ唇面及ビ舌面ニ於テハ根端ニ向テ凸彎シ、隣接面ニ於テハ齒間乳頭ノ如ク截端ニ向テ凸彎セシム

之レヲ行フニハ先ツ齒冠ノ一部殘存セルトキハ徐々ニ切斷鉗子ヲ用ヒテ少許宛齒齦線上ニ露出スル部分ヲ切除シ、或ハ格狀鋸子等ヲ用ヒテ之レヲ鋸斷スルモヨシ、而シテ齦線下ニ至ルマデ之レヲ刮去シテ且平坦ナラシムルニハ「コロンダム」^{「カーボランダム」}等ノ輪子ヲ旋盤ニ附シテ徐々ニ鑿刮スベシ

二 根齦端ノ上部ヲ圓筒狀ナラシム

後條ニ説述スルガ如ク有鑲繼續齒ト單純繼續齒トノ區別アリト雖モ、兩者共ニ多少根齦端ノ周圍ヲ圓筒形ニ形成セシムルヲヨシトス、蓋シ此部ハ珐瑯質ノ白堊質ニ移行スル部位

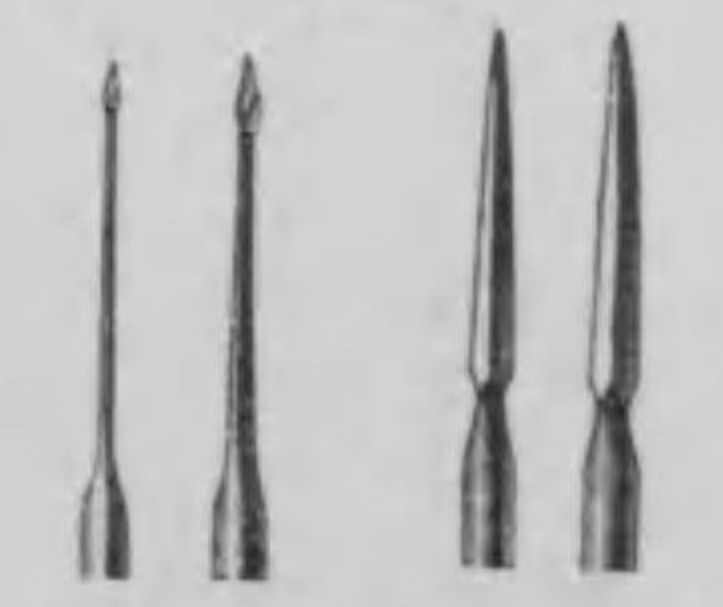


圖八十八百第
成 形 端 齦 根

ニシテ所々ニ不同ノ隆線ヲ顯出ス、此ノ如キ隆線ハ齒冠トノ齒根ト平滑ナル接合ヲ妨ゲ往々此部ニ不規則ノ小空隙ヲ遺シテ齒齦線下ニ異物ノ滯留ヲ招來スルノ弊アリ、故ニ根齦端ハ之レヲ鑿刮シテ齦線下ニ至ラシメタル後鑿子等ヲ用ヒテ其周圍ニ存セル珐瑯質ノ隆線ヲ刮去シ、數密迷間齒根ヲ圓壙狀ナラシムベシ

三 根管ヲ擴大シテ合釘ノ受容ニ適セシム

金冠ヲ除外例トシテ論スレバ繼續齒ハ根管內ニ插入合着セシメタル合釘ノ力ニヨリテ維持セラル、モノナリ、之レ樞軸齒ノ名稱アル所以ナリ、故ニ合釘ノ維持力ハ實ニ當該義齒ノ生命ノ繫カル處ニシテ又最大ナル注意ヲ要スル處ノモノナリトス、合釘ハ其愈大ナルニ從ヒ其維持力愈大ナルモノナリト雖モ根管ヲ無稽ニ擴大スルハ齒質ヲ徒ラニ薄弱ナラシムルノ弊アリ、故ニ第十三番位ノ鑿ヲ受容スルニ足ル大サトナセバ宜シトス、長サハ齒根ノ種類ト齒冠ノ大小及咬合ノ狀態トニヨリテ同シカラズト雖モ齒根長徑ノ三分ノ二以上ヲ以テ平均トナス、小白齒及ビ大白齒ニアリテハ其髓管ノ數及ビ形狀ニヨリ二或ハ三ヶノ合釘ヲ附スルコトアルガ故ニ其擴大ノ方法モ亦一樣ナラズ



圖九十八百第
ルリト管根

擴大ノ方向ハ通例根管ヲ標準トシテ之レヲ周圍ニ平等ニ擴大スルモノニシテ「リーマー」「ドリル」或ハ「バー」等ヲ以テ之レヲ爲ス、或ハ合着ヲ強固ナラシメンガタメ根管ノ所々ニ限局セル擴大部ヲ作爲スルモノアリ

三 繼續齒冠調製法

繼續齒冠

Artificial Crown
Artificial Crown

繼續齒冠ノ種類ハ極メテ數多ニシテ枚舉ニ遑アラズト雖モ、就中比較的有益ニシテ現今最多ク實施セラル

、モノ數個ヲ撰ヘバ已製齒冠單純合釘齒冠、帶鑲合釘齒冠、金冠及其變態等ヲ舉グルヲ得ベシ

(一) 已製齒冠

Ready-made Crown
Schon-senwache Schyshine

近來已製齒冠ノ市中ニ販賣セラル、者極メテ

多クバーンウイル齒冠、フォスター齒冠、ハウ齒冠、デービス齒冠、ホワイト會社製可撤繼續齒冠等ノ如シ、多クハ陶製齒冠ニシテ其實質中ニ種々ノ形狀ヲナセル管狀小腔ヲ有シ根管内ニ挿入シタル合釘ノ尖端ヲ受容スルニ適ス、然レトモ何レモ皆其附着力確實ナラズ咀嚼ニ際シテ破壊ス



圖十九百第
トイワホ
齒續繼撤可

ルコトナキヲ保セズ、故ニ近年之ヲ使用スル者少ナシ、獨リローガン齒冠 Logan's Crown
Logan's Crown
ハ齒冠ヲ形成スル陶質中ニ白金加金ノ合釘ヲ挿入シテ窯燒固着セルヲ以テ極メテ美ハシキ外觀ヲ備ヘ、齒冠ニ於テ破折スルコトナシ、且其合釘ハ方形ニシテ兩側ニ沿フテ小溝ヲ具フルヲ以テ合着力極メテ確實ナリ、只色彩及大小ノ適當ナルモノヲ市間ニ求ムルコト頗ル容易ナラサルノ短アリ



圖一十九百第
冠齒氏ンガーロ

此等ノ已製齒冠ヲ合着スルニハ單ニ根齦端トノ接合ヲ平等ニスレバヨシ、通例「コロンダム」或ハ「カーボランダム」輪子等ヲ以テ之レヲナスヲ得

(二) 無鑲合釘繼續齒冠

Bandless Post-crown
Sitzzahn ohne Wurzeln

根管ニ適合シタル合釘 Post-Size ノ合着力

ニヨリテ維持スル繼續義齒ニシテ應用ノ範圍頗ル廣シ、又單純合釘齒冠ト云フ、其調製法ヲ略述スレバ左ノ如シ

I 兼テ形成シタル根管ニ適合スル金加白金或ハ、イリジウム加白金ノ合釘ヲ撰擇シテ根管ニ試ム

2 三十番位ノ厚徑ヲ有スル純金鈹ヲ取り根齦端断面ノ大サニ切り、其ノ中央ニ穿孔シテ合釘ヲ通過シ、之ヲ略ボ根齦端ニ壓迫適合セシム根面鈹之ナリ、然ル後

チ之レヲ取出シテ二十二加煉金鑲ヲ以テ合釘ト飯トノ兩者ヲ鑲着ス
 3 之ヲ再ヒ根管ニ適合シテ根面飯ヲ堅ク根齦端ニ適合セシメ、其過剩ヲ悉ク
 剪去ス、此際根面飯以外ニ長ク突出セル合釘ヲ一密迷以下ニ於テ切斷ス

4 然ル後大小形狀色彩適當ナル金床用陶齒冠ヲ取り、根面飯上ヨリ其唇面縁
 ヲ緊密ニ適合セシム、コロンダム或ハカーボランダムヲ以
 テ隨意鏽刮シテ可ナリ、適合ハ之レヲ口腔ニ就テ直ニ檢ス
 ルモ佳ナリト雖トモ或ハ兼テ探得シ置キタル石膏模型ニ
 就テナスヲ得ベシ(第九十二圖)



圖二十九第 百第 齒陶ト飯面根

5 陶齒冠ノ裏面ヨリ少シク大ナル三十二三番厚ノ純金飯ヲ取り、其ノ適當ナ
 ル部ニ釘ヲ通過セシムルニ小孔ヲ穿チ、之レヲ通過セシメテ、裏面ヨリ堅ク陶齒ニ
 密着セシム裏裝飯即之ナリ、而シテ裏裝飯ト根面飯トニ少許ノ粘着蠟ヲ附着シテ
 其硬化ヲ待テ徐々ニ口外ニ取出ス

6 口外ニ取出シタル繼續齒ノ凡テノ部分ハ毫モ其關係ヲ移動スルコトナク
 石膏ニ大理石末或ハ石綿ヲ二ト一位ノ比ニテ混和シタルモノヲ水ニテ煉和シテ
 蠟ノ部分ヲ除キ悉ク被覆スベシ、埋沒法即之レナリ

7 埋沒材ノ硬化シタルノ後蠟ヲ除去シ、徐々ニ全體ヲ乾燥シ、全ク其ノ乾燥シ
 タルヲ確メタル時ハ根面飯ト裏裝飯トノ間ニ存スル空隙ニ十八加煉金鑲ヲ填塞
 熔融シテ鑲着ス

8 鑲着ノ代リニ壓迫鑄造法或ハ吸引鑄造法ヲ用ユルト
 キハ更ニ便ナリ、之ヲ行フニハ最初先ツ根ヲ形成シ合釘ヲ適



圖三十九第 百第 冠 成

合シタル後、直ニ陶齒ヲ鏽刮適合シテ此兩者ヲ「バラフィン」又ハ蠟ヲ以テ便宜合着シ、
 此蠟ノ舌面ヲヨク形成シ、埋沒スレバ乃チ其上ヨリ二十加煉金ヲ鑄入スルニ適ス
 ルモノナリ

此ノ如ク鑄造法ニヨリテ此種ノ齒冠ヲ調製スルコトハ頗ル簡便ニシテ良果ヲ
 得ル所以ナリ、時間ト勞力ノ節減、舌面形成、齒齦縁下ノ齒頸部形成等一トシテ鑲着
 法ニ於テ期待シ得ザル處ナリ、只其缺點トスベキハ陶齒ノ破折或ハ變色ヲ生ジ易
 キト多少多量ノ金属材料ヲ要スルコトナリトス

9 冷却後研磨スレバ即繼續齒冠ノ生成セルヲ見ルベシ(第九十三圖)

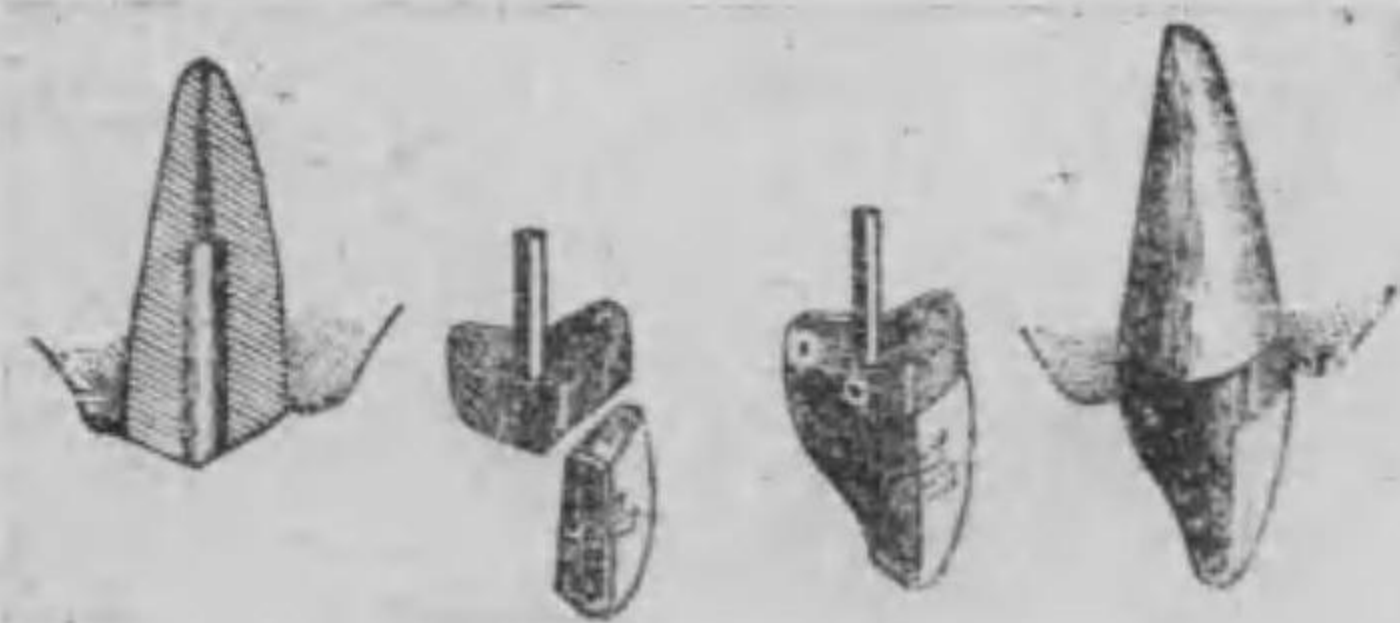
10 護膜裏裝合釘繼續齒ハ製法更ニ單純ナリ、即前記ノ如ク裏裝飯ヲ附スルノ
 要ナク、單ニ根面飯ト陶齒釘トヲ蒸和護膜ニテ蒸和結合セシムルニアリ、其順序ハ

前式ノ埋沒鑲着ノ代リニ合盒法ヲ行ヒテ蒸和スレバヨシ、或ハ更ニ根面飯ヲモ省略スルモノアリ

(三) 有鑲合釘繼續齒冠 *Banded Post-crown Siffrain mit Wurzling*

單純合釘繼續齒冠ハ時トシテ其維持

極テ堅固ナラズ、殊ニ切齒ニシテ對合齒ノ叩打スルトキニ於テ然リトス、加之根面飯ト根齦端トノ接合ハ單ニ菲薄ナル「セメント」ノ一層ニヨリテ成ルモノナレバ其酸性口液浸潤ノタメニ溶解セラル、ノ患ナキヲ保セズ、此等ノ理由ヲ以テ前者ヲ全然排斥シテ合釘繼續齒ニハ常ニ必ラズ帶鑲ヲ附セザルベカラザルヲ謂フモノアリ、然レドモ其製作ノ複雑ナルト其齒膜ニ刺戟ヲ附與スル患ノ少ナカラザルトハ單純合釘繼續齒ヲ全廢セシムルニ至ラザル所以ナリトス、リッチモンド齒冠 *Richmond Crown* ハ此種ノ繼續齒ヲ代表スルモノト謂ツベシ、其製作法ノ梗概左ノ如シ
1 兼テ圓壻形ニ調製シ置キタル根齦端ノ周圍ヲ微細ナル銅線ニテ計測シ、其長サヲ標準トシテ三十番厚二十二加竦金ヲ以テ鑲帶ヲ作り、根齦端ニ適合シ、之レヲ根齦端ト



冠齒氏ドノモチツリ 圖四十九百第

同一水平マテ鑿刮ス

2 其上ヨリ根面飯トシテ鈍金或ハ白金飯ヲ適合シ、之ヲ口外ニ取出シテ二十加竦金線ヲ以テ鑲着スルトキハ金帽ヲ得而シテ、金帽ヲ根齦端ニ適合シ置キテ其適當ナル部ニ小孔ヲ穿チテ合釘ヲ挿入シ、假ニ之ヲ蠟着シ、更ニ口外ニ出シテ鑲着合一セシム

3 次テ金床用陶齒ヲ之ニ適合シ、純金ノ薄飯ヲ以テ裏裝シ、假リニ粘着蠟ヲ以テ之レヲ金帽ニ附着シテ口内ニ試ム

4 埋沒シ、鑲着シ、研、磨スルコト前方ノ如シ、或ハ鑄造ニ附スルコト亦極メテ便ナリ、合着ニハ常ニ「セメント」ヲ使用ス

(四) 金冠 *Gold Crown Goldkrone*

金冠ハ繼續義齒ノ一形態ナリト雖モ前記ノ合釘齒トハ頗

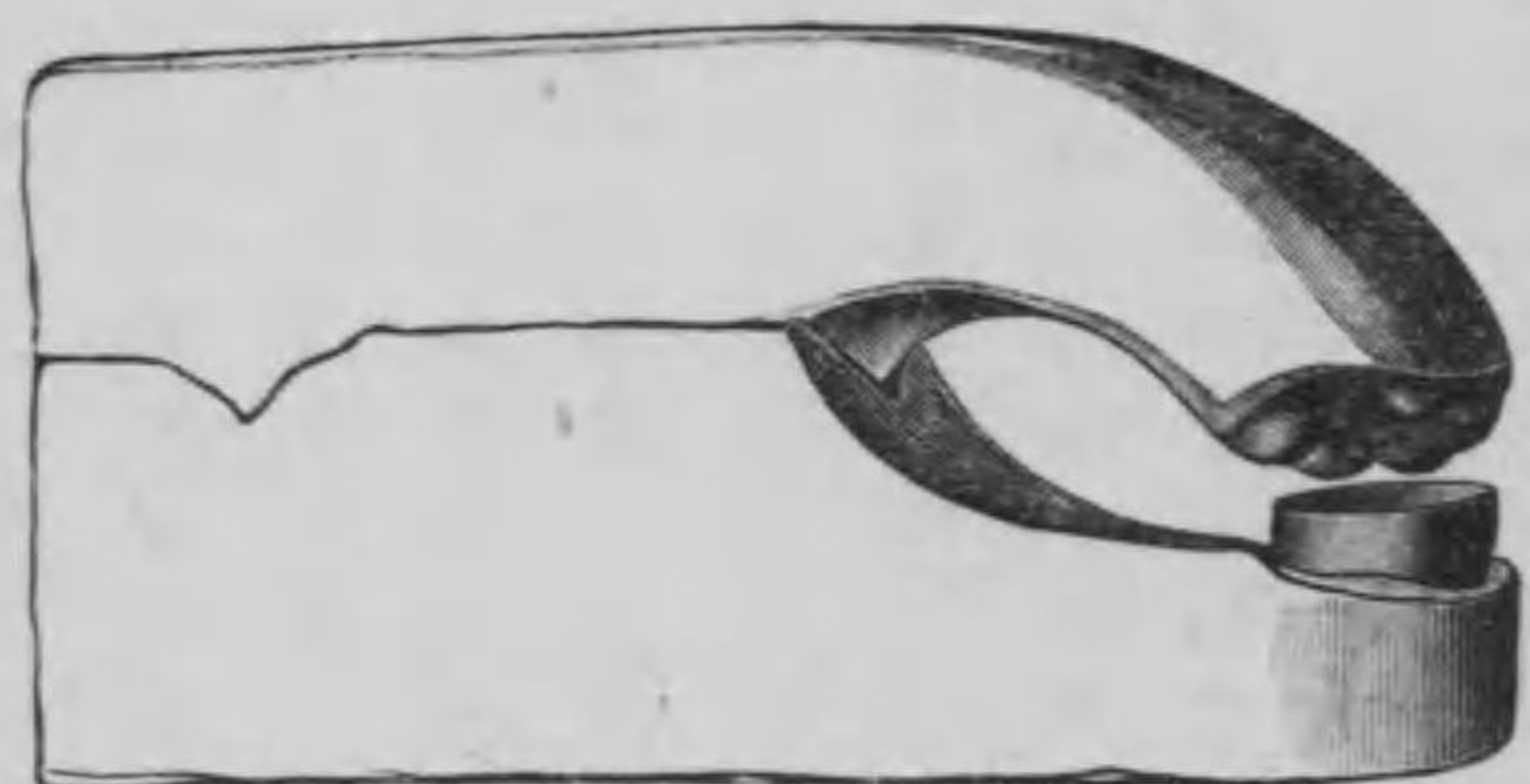
ル其趣ヲ異ニス、即合釘齒ハ根管ニ挿入シタル合釘及ビ之レヲ合着スル材品ノ作用ニヨリ其位置ニ固定セシムルモノナリト雖モ、金冠ハ之ト異ナリ齒根或ハ齒冠ヲ形成シテ圓壻狀ノ基礎ヲ作り、之レニ適合スル帽或ハ冠ヲ作りテ合着維持セシムル者ナレバ其ノ基礎ニシテ堅固ナランカ維持力極メテ強大ナリ、故ニ大白齒小臼齒等ノ如キニ用ユレバ充分咀嚼ノ要ヲナシ、架工義齒ニ應用スレバ以テ堅固ナ

ル支臺ヲナスベシ、然リト雖モ其金色燦爛タルヲ以テ前方齒牙ニ使用スルニ適セズ、調製法左ノ如シ

1 先ヅ強固ナル基礎ヲ作ル 即齒冠ノ一部殘存セルトキハ通法ニヨリ根管ヲ治療充填シタル後、アマルガムヲ充填シテ齒冠ヲ築上ス、若シ齒冠ノ大部喪失セルトキハ隔壁ヲ施シテ根管内ニ合釘ヲ挿入シ、其上ヨリ「アマルガム」ヲ充填シテ齒冠ヲ圓壻狀ニ形成スルヲ要ス、天然齒冠ハ其如何ナル表面タルヲ問ハズ眞直ナラザルヲ以テ之レヲ圓壻狀ニ形成スルニハ「コロンダム」等ヲ以テ鑿刮セザルベカラズ、而シテ圓壻ノ上面ハ咬頭或ハ窩溝等ヲ保存シ置クノ要ナシ、凡テ之レヲ鑿刮シテ平坦ナラシムベシ、圓壻ノ高サハ齒牙ノ種類ニヨリテ相同ジカラズト雖モ通例咬頭ノ基底迄ニテ足レリ

2 三十番厚ノ二十二加辣金鈹ヲ圓壻ノ周圍ヲ計測シタル長サニ切リテ其兩端ヲ鑢着シテ鑲帶トナシ其下縁ヲ齒齦線ニ倣ヒ鑿刮形成シ之ヲ齒牙ニ通過適合セシメ各面一樣ニ齒齦線下一密迷以上ニ到達シ、而モ齒齦線ヲ刺戟セザル様ナス
3 其上縁ヲ鑿刮シテ圓壻ト同水平ニ至ラシム、之ヨリ印象ヲ探得シ、印象ト共ニ鑲帶ヲ取出シテ之ヲ其位置ニ置キ、之ヨリ石膏模型ヲ作ル、同時ニ咬合ヲ探得シ

テ咬合機ヲ作ル、咬合機ニ於テ鑲帶ノ上面ニ石膏泥ヲ附加シ、對合齒ヲ標準トシテ咬合面ヲ彫刻形成ス(第九十五圖)
4 石膏模型ヨリ鑲帶ヲ脫離シ、其石膏ヲ以テ彫刻シタル咬合面ヲ「モルデン」中ニ壓入シテ印象ヲ作り、其中ニメロ、テ一易鎔合鑲ヲ熔融注入シテ陽型ヲ製ス、陽型ヲヨク煤煙ニテ燻ベ其上ヨリ易鎔合鑲ヲ鎔融注加シテ陰型ヲ作ル、此兩鑄型間ニ二十八番厚位ノ二十二加辣金鈹ヲ間在セシメテ壓印スレバ嚼面鈹ヲ得(第九十六圖)、但嚼面鈹ノ壓印及鑢着ノ煩ヲ避ケント欲セバ前記ノ如ク形成シタル帶鑲上ニ蠟ヲ置キテ咬合ヲ取りタルモノヲ直ニ埋沒シテ鑄造ニ付スルコト亦佳ナリ



合咬冠金圖五十九百第 (Morgenstern)



成完冠金圖七十九百第 帶鑲ト鈹面嚼圖六十九百第

5 嚼面鈹ノ周縁ヨリ過剰ヲ除去シ、ヨク鑲帶ト接合セシメ、此兩者ヲ銅線ニテヨク緊縛シ、或ハ鋸子ニテ保持シツ、其内面ニ十八加竦金鑽ヲ入レテ加熱シ、嚼面鈹裏面ノ陥没ヲ満シ、且鈹ト鑲トヲ緻着ス

6 過剰ヲ除去シ、ディスクニテヨク研磨スレバ合着ニ適スベシ(第九十七圖) 其他上前ノ如キ複雑ナル方法ヲ避ケンガタメ大小數多ノ鑄型ヲ有スル壓印器ニヨリ直接ニ金鈹ヲ壓印シテ金冠ヲ調製スル方法アリ無縫金冠 *Seamless Crown* *Figular Crown* 即之レナリ、然レドモ前法ノ如ク精密ナル適合ト堅實ナル構成トヲ期シ對シ

(五) 開面金冠 *Open-face Crown* *Fensterkronen* トハ主トシテ切齒或ハ犬齒等ノ外觀ニ露出スル部ニ適應スル金冠ニシテ前面即唇面ノ大部或ハ全部ヲ開放シテ黄金ノ露出スルコトナカラシムルモノナリ、故ニ齒冠全部或ハ其唇面ノ健全ナルモノヲ架工義齒ノ支臺ニ供スル時、或ハ齒頸部ニ於ケル齶蝕ニ際シ用ユルコトアリ、之レヲ調製スルニハ先ヅ齒冠ノ周圍ヲ計測シテ十二加竦、三十番厚前後ノ金ヲ以テ帶鑲ヲ作り、其長サハ齒冠ノ最長徑ニ同ジカラシム、之レヲ齒牙ニ鑿刮適合シテ齒頸線ニ相當スル彎曲ヲ附與シ、齒冠ノ截端ニ近キ部分ヲ口蓋面及ビ隣接面ニヨク壓接セシメ、其唇面ハ齒



第九百八十八圖 開面金冠

頸部ニ於テ齒齦線上ニ一密迷位露出スルニ止メテ他ハ悉ク剪切鑿刮シテ齒面ヲ露出セシムルニアリ

(六) 鑲帶 *Band* *Zerkalring* 齒牙ヲ圍繞スル帶狀ノ金鑲ニシテ健全齒ヲ架工義齒ノ支臺トナス時、或ハ齒列ヲ矯正シタルノ後之レヲ固定スル時ニ使用ス、齒槽膿漏齒ノ固定、脫臼齒ノ固定等ニモ亦之レヲ供用スルコトアリ、切齒ニハ狹小ニシテ外觀ニ大ナル影響ヲ與ヘザルモノヲ用ユ、但シ咬合ノ狀態ニシテ之レヲ許スベクンバ口蓋面ハ之レヲ廣大ナラシムルモ差支ナシ、調製法ハ開面金冠ト大差ナク二十二加竦、三十番厚位ノ金鈹ヲ以テ鑲ヲ作り、之レヲ齒頸線ニ倣ヒテ成形彎曲セシメ、直ニ齒牙ニ挿入シテ適否ヲ試ムルヲ得ベシ、大白齒及小白齒ニアリテハ前者ヨリ稍厚ク且廣キモノヲヨシトス、殊ニ架工齒ノ支臺トシテ使用スルニ方リテハ其壓力上下ニ加ハルヲ以テ維持頗ル堅固ナラズ、故ニ對合齒トノ咬合狀態ニ應シ任意其上縁ニ突起或ハ橫走帶ヲ緻着シ、咬合面ノ最低部或ハ小溝ニ適合セシムルヲ必要トスベシ

四 繼續齒冠ノ合着

合着

Mouling
Bystigung

一方ニ於テ齒根ノ準備成リ、他方ニ於テ繼續齒冠ノ調製成リタ
ルトキハ即合着法ヲ行フヲ得ベシ、然レドモ之レヲ施スニ先チ
試ニ齒冠ヲ齒根ニ適合シテ一ハ其適否ヲ檢シ、一ハ對合齒トノ咬合ヲ視ルヲ必要
トス

合着ニハ僱答百兒加ヲ使用スルモノアリト雖モ、燐酸セメントノ精確ナルニ若
カズ、之レヲ以テ合着スルニハ先ヅ完全ニ防濕法（簡易防濕法ニテヨシ）ヲ行ヒテ根
管或ハ齒冠ヲ乾燥シ、消毒シタル後稍柔軟ニ煉和シタルセメントヲ根管ニ輕ク滿
シ、更ニ合釘ノ周圍或ハ金冠ナレバ其内面ヲモ填塞シテ徐々ニ之レヲ齒根ニ適合
壓迫シテ其過剩ヲ齒齦縁ヨリ遁出セシム、約十分間ヲ經テ其硬化シタルヲ計リ、合
着材ノ過剩ヲ齒齦縁ヨリ除去スルヲ忘ルベカラズ

第十八章 加工義齒術

加工義齒術

Bridge Work
Brückenarbeit

トハ殘存セル天然齒冠或ハ齒根ヲ支柱トシテ喪失セ
ル齒牙ヲ補綴スル術ヲ云フ、恰モ夫ノ橋梁ヲ架スルニ

類シタルヲ以テナリ、或ハ其義齒ニ床ヲ附スルコトナキヲ以テ無床義齒トモ稱ス
往古エトラスカ時代ノ遺物ヲ見ルニ已ニ本術ノ淵源トモ認ムベキモノアリ、夫
ノ一度脱出セル自然齒ヲ殘存セル齒牙ニ結紮シタルガ如キ之レナリ、然レドモ現
今行ハル、架工義齒術ノ漸ク發芽シタルハ十九世紀ノ初期ニシテモ一レーガ六
前齒ヲ維持スルニ犬齒根ニ挿入シタル合釘ヲ以テシタルガ如キ、ドウィンネルガ床
ト合釘トヲ用ヒテ義齒ヲ維持セシメタルガ如キ之レナリ、然レドモ其學理的ニ正
當ナル術式ノ行ハル、ニ至リシハ最近二十年ニシテ實ニバンウィル、エヴァンス、リッ
チモンド等與ツテ力アル處ナリ

(一) 利害 架工義齒術ノ創案セラレシ當初ニアリテハ口腔内ニ於テ唇舌ノ運
動ヲ妨クル不快ナク、又取捨ノ勞ナキヲ以テ頗ル多大ノ聲名ヲ博シ有床義齒ヲ顧

ミルモノ漸ク少ナカラントシタリ、然ルニ之ヲ使用スルコト漸ク多ク且廣キニ至ルヤ乃チ効果ノ期望ニ添ハザルモノ往々之アリ、昔日ノ名聲空シク一睡夢タルニ終ラントス、蓋シ物ニ一利一害アルハ免レ難キ處ニシテ架工義齒術亦然リ

A 長所 本術ノ他ニ勝レル長所少ナカラズ、左ノ如シ

- 1 口内ニ於テ空間ヲ占領スルコト僅小ナルガ故ニ、機能障害ノ度少ナシ
 - 2 帶鈎床板ナク、又取捨ノ要ナキガ故ニ軟組織ヲ毀傷スル患少シ
 - 3 口腔粘膜ヲ被覆スルコト少ナキヲ以テ其機能ヲ障害スルコト少シ
 - 4 咀嚼時ニ軟組織ヲ壓迫スルコトナキヲ以テ之ヲ萎縮セシムル患少シ
 - 5 床及鈎ノ存在セザルヲ以テ異物ヲ堆積セシムルコト少シ
- B 短所 然レドモ注意シテ適症ニ之レヲ施サバ左ノ短所ヲ顯ス
- 1 支臺齒ハ他者ノ勞力ヲモ分擔セザルベカラザルヲ以テ弛緩脱落シ易シ
 - 2 取捨不便ナルヲ以テ清掃容易ナラズ
 - 3 齒齦ヲ形成スルコト能ハズ
 - 4 極メテ熟練セル技工ヲ要ス、從テ多大ノ費用ヲ要ス
 - 5 何レノ場合ニモ之レヲ適用スルヲ得ズ、即適當ナル支臺齒ヲ要ス

要スルニ架工義齒術ハ有床義齒術ノ如ク應用ノ範圍極メテ廣シト稱スルコト

能ハズ、只安全適當ナル支臺齒ヲ存在シタルトキニ之レヲ實施スベキノミ

(二) 支臺 *Abutment* *Brückenträger*

齒列中ニ於テ齒牙ノ一ケ或ハ數ケ缺損シ尙健全ナル齒牙

或ハ齒根ノ殘存セルモノアリタルトキハ之レニ有床義齒ヲ作爲スベキヤ或ハ架工義齒ヲ調製スベキヤノ疑問ヲ生ズベシ、然レトモ前記ノ如ク本術ノ長所アルヲ認識スルトキハ之レヲ實施シ得ベキ場合ニハ之レヲ施シ、只ダ之レヲ施シ能ハザルトキニノミ有床義齒ヲ施ス可シ、適當ナル支臺ノ存否ハ實ニ之レヲ決定スルノ要件タリ、支臺ノ適否ヲ決定スルニハ左記ノ數項ヲ熟考スルヲ要ス

1 齒牙ノ種類 齒牙ハ其種類ニヨリテ頗ル維持力ヲ異ニス、多クノ人ノ經驗ニヨルニ齒根ヲ健全ナルモノト見做シテ其維持力ハ左ノ如シ

一中切齒ハ以テ二ケノ中切齒ヲ支持スベク

二ケノ中切齒ハ以テ四ケノ切齒ヲ支持スルニ適シ

二ケノ犬齒ハ以テ六ケノ前齒ヲ支持スルニ足リ

兩側ニ於ケル犬齒ト第一大臼齒トハ以テ其中間ノ齒牙ヲ支持スルニ適ス

2 齒牙ノ狀態 同一種類ノ齒牙モ又其狀態ニヨリテ維持力ヲ異ニス、要スル

ニ齒冠ニ於ケル状態ハ敢テ多大ノ差異ヲ生ズルモノニアラズト雖モ齒根ハ其破壊ノ程度及ビ齒膜ノ状態ニヨリテ維持力ニ頗ル大ナル影響ヲ致ス

齒根ハ其破壊小ナルトキハ之レヲ「アマルガム」或ハ「セメント」ヲ以テ築上補綴スルヲ得ベシト雖モ其大破セルトキハ強固ナル支臺ヲ期待スルコト難シ、齒膜ノ萎縮ハ齒槽突起ノ吸收ト相待ツテ齒根ノ植立ヲ危クスルモノニシテ支臺ノ撰擇ニ際シ最瞩目スベキ事項タリ、蓋シ齒膜及齒槽突起ノ疾患ハ多クハ進行的ニシテ支臺トシテ他者ノ任ヲモ擔フニ至レバ急劇ノ増進ヲナスコト素ヨリ明ナリ

3 支臺ノ種類 架工術ニ於テ支臺トナスモノ種々アリ、主トシテ支臺齒ノ種類及ビ状態ニヨリテ之レヲ決定ス

切齒及犬齒ノ齒根ニハ單純或ハ有銀合釘繼續齒冠ヲ應用ス、其健全ナル齒冠ヲ有スルトキハ所謂開面金冠ヲ調製シ或ハ之レヲ失活セシメテ前記齒根ニ於ケルト同様ナルモノヲ作爲ス、又小白齒及大白齒々根ニハ金冠ヲ最良トナシ、其健全齒冠ヲ有スルモノニハ銀帶或ハ其變態ヲ應用スルコトアリ、蓋シ支臺トシテ最強固ナルハ金冠ニシテ有銀合釘齒冠之レニ次ギ、開面金冠及單純合釘齒冠ハ稍之ニ劣リ、銀帶及ビ其變態ハ只止ムヲ得ザルトキニノミ使用ス

(三) 架工齒ノ分類 架工義齒ヲ分ツテ二種トナス、曰ク固定架工義齒曰ク可撤架工義齒之レナリ

1 固定架工義齒トハ最普通ニ行ハル、方法ニシテ口内ニアリテ支臺ヲ支臺齒牙ニ堅ク「セメント」ヲ以テ合着スルモノヲ云フ、其利益トシテハ支持最堅固ニテ毫モ動搖不快感ナク日常撤除清掃スルノ煩勞ナク恰モ天然齒ノ再生シタルガ如キ點ニアリ、之レ此法ノ一般ニ廣ク應用セラル、所以ナラズンバアラズ、只其缺點トシテハ支臺齒或ハ其附近ニ疾病ヲ起シタル時ニ容易ニ撤除シ得ザルコト、破壊修理ノ容易ナラザルコト、並ニ下面ニ浸潤シタル異物ヲ除去シ得ザル點ニアリトス、之レ或事情ノ下ニアリテハ可撤架工齒ニ及バザルコトアル所以ナリトス

2 可撤架工義齒トハ口内ニ装着シタルノ後架工齒ノ大部分ヲ隨時支臺ヨリ分離シテ撤除シ得ルモノヲ云フ、此方法ノ長所ハ治療、清掃又ハ修理ノ目的ニ任意撤除挿入シ得ルニアリ

但其調製複雑ニシテ多數ノ時日ト勞力ト費用トヲ要シ固定前者ノ如ク堅固ナラザルヲ缺點トス

一 固定架工義齒

固定架工義齒

Fixed Bridge
Festsitzende Brücke

己ニ架工義齒ヲ應用スルコトノ適應ナルヲ認
メタルトキハ即

1 先ヅ口腔ヲ之ニ適スル狀
態タラシメ、然ル後 2 支臺ヲ調製シ 3 架工齒ヲ調製シ 4 各部ヲ合一シ 5
之ヲ一度口腔ニ試適シテ恰當宜シキヲ確タルノ後 6 口内ニ合着スルヲ順序ト
ス

(一) 口腔ノ準備 此ノ架工義齒ハ全然口内ニ固定スルカ或ハ之ヲ取捨スル
コト極メテ容易ナラザルヲ以テ或ハ有機質ノ蓄積ヲ致シテ粘膜疾患ノ素因ヲナ
スコトナキニアラズ、故ニ義齒ノ調製前己ニ疾病アラバ悉ク之ヲ治療シ將來口
腔ノ不潔或ハ疾患ヲ生ズベキ患アルモノハ皆之レヲ適當ニ所置セザルベカラズ
(二) 支臺ノ調製 Abutment 元來支臺ハ口腔ノ狀態ニヨリテ同カラズト雖モ常
ニ可及的堅固ナル維持力ヲ得ンコトヲ勉ムベシ、即臼齒及ビ小白齒ニハ金冠ヲ最
トシ、若シ能ハザレバ強廣ナル鑲帶ヲ作爲シ、切齒ニハ鑲帶合釘齒冠ヲ最良トシ單
純合釘齒冠及開面金冠之レニ次ギ、止ムヲ得ザル時ニノミ鑲帶ヲ使用ス、但各種支

臺ノ調製法ハ繼續義齒術ノ條ニ説キタレバ茲ニハ贅セズ

(三) 架工齒ノ調製 Bridge Teeth 支臺完成シタルトキハ之レヲ口腔ニ適合シテ其

ヨリ印象ヲ採得シ、印象ノ適當ナル部ニ支臺ヲ置キテ石膏模型ヲ調製シ、咬合模型
ヲ作爲シ、之レニ據リテ以テ架工齒ヲ作ル、切齒犬齒架工齒調製ハ極テ單純ニシテ
先ヅ大小色彩ノ適當ナル金床用陶齒ヲ取り之レヲ齒齦ニ鑿刮適合シ、三十番厚位
ノ純金鈹ヲ以テ裏裝スレバ佳ナリ

臼齒及小白齒架工齒調製ハ少シク複雑ナリ、即先大小色彩ノ適當ナル外裝陶齒
ヲ取り、之レヲ任意鑿刮シテ齒齦ニ適合セシメ、三十番厚ノ純金鈹ヲ以テ裏裝スル
コト前者ニ同ジ、次デ其後方ニ石膏ノ軟泥ヲ附加シ、對合齒ト咬合ヲ試ミテ適宜之
レヲ彫刻シ、咬合面ヲ形成ス、此石膏咬合面ヲ徐々ニ「モルデン」

中ニ挿入シテ印象ヲ作り、之レニ「メロッテ」易鎔合鑲ヲ注入シ
テ陽型ヲ作り之レヲ燻煤シテ、其上ヨリ合鑲ヲ注下シ、陰鑄型
ヲ作り、其間ニ二十二加竦二十八番厚ノ金鈹ヲ入レテ嚼面鈹

ヲ壓印スルコト金冠調製法ノ如シ(第九十九圖)是ニ於テ裏裝シタル外裝陶齒ト
嚼面鈹トヲ粘着蠟ヲ以テ假リニ合着シ、咬合ヲ試ミ、然ル後之レヲ石膏大理石末ヲ



第九十九圖 架工齒

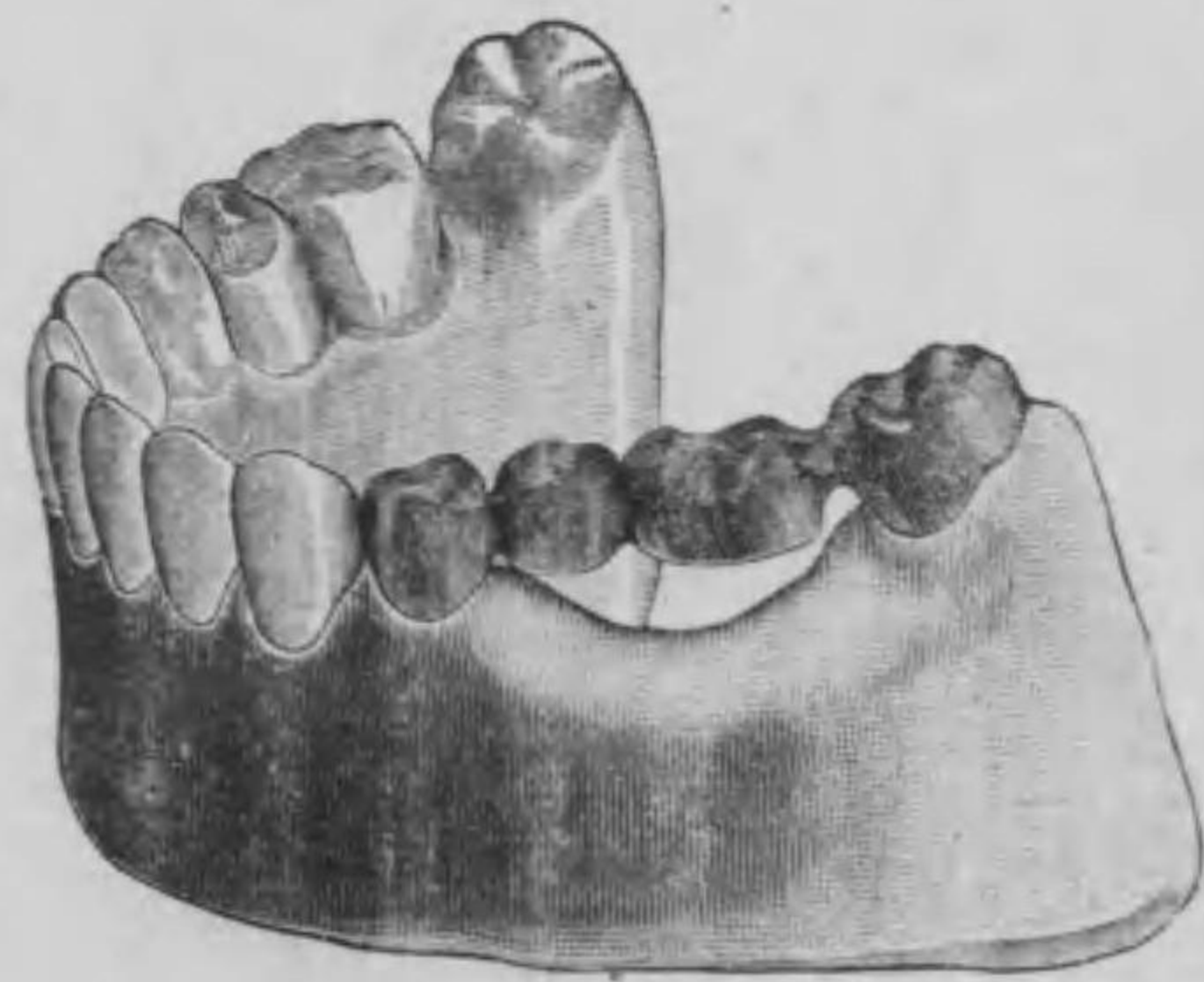
固定架工義齒

以テ埋没シ二十加竦ノ金鑲ヲ以テ粘着蠟ノ位置ヲ置換シ、嚼面飯ト陶齒合釘トヲ鑲着スレバ臼齒架工齒ヲ得ベシ

鑄造法ニヨレバ架工齒ノ調製ハ極メテ容易ナリ、即金床用陶齒又ハ外裝陶齒ヲ撰ビ其咬合面及舌側ヲ鑄造用蠟ヲ以テ形成シ直ニ埋没シテ鑄造ニ附スルニアリ

(四) 各部ノ合一 支臺及ヒ架工齒ヲ各別ニ調製シタルトキハ之レヲ模型上ニ配列シテ其咬合ヲ研究シタルノ後、各部ヲ粘着蠟ニテ附着シ毫モ其關係ヲ失スルコトナク之レヲ模型ヨリ去リ、石膏大理石末ノ混和物ヲ以テヨク埋没シ、蠟ヲ除去シ、完全ニ乾燥シ、十八加竦金鑲ヲ以テ各部ヲ鑲着合一ス、冷却後之レヲ埋没材中ヨリ取出シテ研磨スレバ合着ニ適ス、(第二百圖)此場合ニモ亦鑲着ニ代フルニ鑄造法ヲ以テスルヲ得ベキハ勿論ナリ

(五) 合着 *Mounting* *By setting* 合着ニ先チ一度口内ニ容レテ之レヲ試ムルヲヨシトス、對



圖百二第 固定架工義齒 (Morgenstern)

合齒トノ咬合及ビ齒齦トノ接合ハ最注目スベキ處ナリ、合着ハ繼續義齒ニ於ケルト相同ジ、完全ナル消毒ト乾燥ハ最大ナル要件ナリ、合着材品ニハ亦磷酸セメントヲヨシトス、故ニ其硬化完了スル迄約二十分間防濕法ヲ持續セザルベカラズ、齒齦縁ニ溢出シタル過剰ハ其前之レヲ拭去スルモ佳ナリ

可撤架工義齒

可撤架工義齒

Detachable Bridge
Abnehmbare Brücke

挿入撤除意ノ如ナル處ノ架工義齒ニシテ着用患者

自身ニ容易ニ取捨シ得ルモノアリ、或ハ齒科醫ガ器械力ヲ用ユルニアラザレバ撤除シ能ハザルモノアリ、支臺モ共ニ除去シ得ルモノアリ、或ハ單ニ架工齒ノミ取捨シ得ルモノアリ、調製ノ原理ハ固定架工術ニ同ジト雖モ只彼レト支臺ノ調製法ヲ異ニスルノミ、左ノ如シ

切齒及犬齒支臺トシテハ單ニ有鑲合釘繼續齒冠ヲ調製シテ架工義齒ヲ作り、合着ニ際シ、セメントヲ使用セザルモ佳ナ

可撤架工義齒



圖百二第 可撤架工義齒 (Morgenstern)

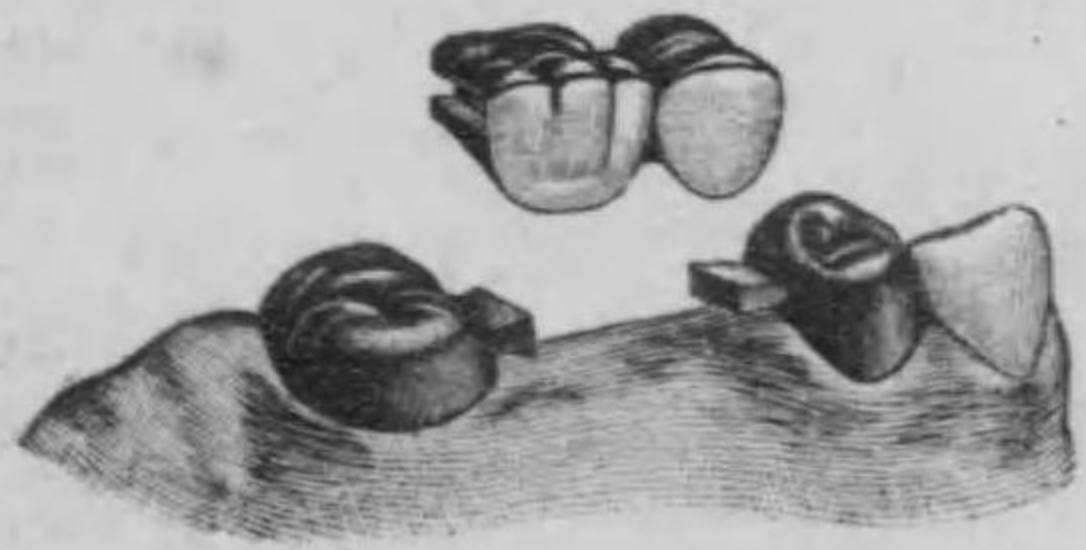
可撤架工義齒

リト雖モ更ニ安全ナルハ先ヅ齒根ニ金帽ヲ作りテ「セメント」ヲ以テ合着シタルノ後、其金帽ノ中央根管ニ相當スル部ニ僅ニ合釘ヲ容ル、ニ足ル小孔ヲ穿テ、其上ヨリ無鏢合釘繼續齒冠ヲ作りテ支臺トナスニアリ、然レドモ尙安全ヲ望マンニハ金帽ノ中央ニ適合スル細管ヲ鑲着シテ齒根ニ合着シ其上部ニ合釘繼續齒冠ヲ調製スルニアリ

小臼齒及臼齒支臺ヲ作爲スルニハ先ヅ齒冠部ヲ形成シテ圓壙狀ヲナサシメ之レニ適合シテ金冠ヲ調製スルトキハ此金冠ヲ以テ可撤架工義齒一方ノ支臺トナスコトヲ得、然レドモ更ニ安全ナルハ先ヅ齒冠部ニ圓壙狀金冠ヲ適合々々着シテ其上ヨリ第二ノ金冠ヲ調製シテ支臺トナスニアリ

或ハ前記第一ノ金冠ノ一側ニ鳩尾狀突起ヲ鑲着シ置キテ之レニ適合スル凹陷ヲ架工義齒ノ當該部ニ設置スルモ佳ナリ(第二百二圖)

可撤架工術ハ之レヲ固定架工術ニ比スルニ任意之レヲ取出シテ清淨ナラシムルヲ得ベク、又其破壊シタルトキハ



圖二百二第 可撤架工義齒 (Morgenstern)

之レヲ修復スルコト容易ナルノ利益アリ、然リト雖モ其維持極メテ強固ナラズ、其製作極メテ煩雜ニシテ、破壊スルノ患少ナカラザルガ故ニ必ラズシモ常用スルニ適セズ

七改訂 齒科學通論 畢

【ト】
 トームス纖維 三〇
 トームス顆粒層 三一
 ドナードソン有聲神經針 一三九
 兎 導 二五〇
 銅「アメルガム」 三三四
 陶劑鑲法 三五六
 齒蝕 一九八
 透明層 九四
 陶劑 三三五
 陶劑充填法 三五五
 陶劑ノ排列 四六五
 【チ】
 知覺過敏象牙質 一〇二
 知覺象牙質 一〇一
 瀰留囊腫 三〇九
 中毒性齒膜炎 一七六
 重量 七六
 智齒難生・ 二三一
 毒性潰瘍 一六六
 チモールパラフィン 一六六
 智齒 一二

三〇
三一
一三九
二五〇
三三四
三五六
一九八
九四
三三五
三五五
四六五

【リ】
 綠色齒石 二四四
 稜角 五
 稜柱間質 三四
 長性齒齦腫 三〇五
 リッチモンド齒冠 四八六
 流行性口内炎 二二〇
 流行性耳下腺炎 二八六
 隆線 六
 リガス病 二二四
 【ヌ】
 【ル】
 瘰癧齒 六八
 ルードウィツヒ安魏那 二七六
 【ヲ】
 【オ】
 押入法 四四〇
 オークエン橋形線 三一
 「オキスバラ」 一六六
 黃金 三三二
 大サノ異常 六一

二四四
五
三四
三〇五
四八六
二二〇
二八六
六
二二四
六八
二七六

【カ】
 鑄小臼齒 六一
 リルケホッフノ温度的診斷法 一二八
 彎曲齒 六六
 開面金冠 四九〇
 下顎中切齒 九
 下顎關節脫臼 二六五
 下顎關節炎 二八三
 下顎第一大臼齒 一四
 下顎第二大臼齒 一四
 下顎第三大白齒 一五
 下顎第一小臼齒 一一
 下顎第二小臼齒 一二
 下顎側切齒 九
 下顎犬齒 一〇
 下顎骨ノ骨折 二六〇
 下顎三角 一八
 下顎齒牙ノ拔去術式 三八二
 加答兒性口内炎 二二七
 隔壁 三四七
 頸骨々疽 二七二
 頸骨々膜炎 二六七

六一
一二八
六六
四九〇
九
二六五
二八三
一四
一四
一五
一一
一二
九
一〇
二六〇
一八
三八二
二二七
三四七
二七二
二六七

頸骨々髓炎 二七〇
 牙關緊急 二八三
 蝦蟇腫 三一四
 瘻口瘡 二三四
 瘻口瘡齒 二三四
 架工義齒術 四九三
 架工齒ノ調製 四九九
 可撤架工義齒 五〇一
 假床 四六一
 芽生菌性口内炎 二二四
 眼齒 一〇
 環狀齒切帶 四一
 餅子ノ適用 三七六
 痛腫 三二二
 乾屍劑 一三九
 桿狀體 九四
 乾性齲蝕 九三
 感染性無髓齒 一四五
 【エ】
 陽鏢型 四六九
 【タ】
 第一生齒 五一

二七〇
二八三
三一四
二三四
二三四
四九三
四九九
五〇一
四六一
二二四
一〇
四一
三七六
三二二
一三九
九四
九三
一四五
四六九
五一

第二白堊質 一九八
 第二生齒 五七
 第二期症候 二九一
 第三期症候 二九三
 對咬 二〇
 大白齒 一二
 帶鈎 四七三
 托盤 四五六
 唾石 二四三
 【レ】
 レツチウス褐色平行線 三四
 連絡紐 四五
 連合充填 三五九
 連續齒齦義齒 四七一
 【ツ】
 造白堊質細胞 四八
 造珐瑯細胞 四六
 造構 二九
 造構ノ異常 六六
 象牙質 二八
 象牙質ノ化灰 四四
 象牙質麻醉法 一〇二

一九八
五七
二九一
二九三
二〇
一二
四七三
四五六
二四三
三四
四五
三五九
四七一
四八
四六
二九
六六
二八
四四
一〇二

造口蓋術 二五五
 造齒細胞 四〇、四六
 【ネ】
 ネルゲオチデイヤ 一三六
 粘液腫様肉芽腫 二〇一
 捻轉齒 四三八
 【ナ】
 内生骨腫 三一八
 ナスミス膜 三五
 軟化層 九六
 軟骨腫 三一八
 軟性纖維腫 三〇三
 【ラ】
 螺旋 三七〇
 螺旋發條 四七四
 ランゲツンベグ法 二五二
 【ム】
 無縫金冠 四九〇
 無膠膜傷 二一二
 無鑲合釘綴續齒冠 四八三
 無髓齒 一四九

二五五
四〇、四六
一三六
二〇一
四三八
三一八
三五
九六
三一八
三〇三
三七〇
四七四
二五二
四九〇
二一二
四八三
一四九

外生骨腫 三一八
 窩洞ノ防濕法及乾燥 六
 窩洞ノ消毒 三三六
 窩洞ノ裏裝法 三四一
 窩洞ノ形成 三四二
 窩洞ノ填塞 三四三
 高溝齒 三四三
 化學細菌說 六三
 擴張蓋腫 八六
 過剩齒 二九三
 埋伏齒 六二
 磨耗症 六四
 慢性齒膜炎 八五
 慢性肉芽性齒膜炎 九二
 慢性化膿性齒膜炎 一九四
 慢性廣汎性齒膜炎 一九四
 慢性根端性齒膜炎 一九三
 慢性齒髓炎 一一五
 慢性基質性齒髓炎 四
 慢性特發性齒髓炎 一一六
 繼續義齒術 四七五
 鑲子 三七〇
 繼續齒冠 四八二
 頸線ノ彎曲 六
 外科的矯正法 四四八
 血石 二四四
 犬齒 一〇
 牽出法 四四〇
 フォルモクレゾール 一五七
 プライスヴェルグノ化學的診斷法 六〇
 プライスヴェルグ「ツオニエン」 六〇
 フラスク 四六六
 プライデー三角 一八
 覆蓋 一九
 腐蝕失活法 一三五
 分離器 三四七
 骨腫 三一八

骨膜下膿瘍 一八七
 咬頭 六
 汞毒性口内炎 二二〇
 口蓋破裂 二五三
 口蓋補綴術 二五七
 口蓋縫合術 二五五
 口蓋面 五
 口蓋穿孔 二五三
 口蓋膿瘍 一八九
 口蓋栓塞子 二五八
 口蓋手術 二五五
 合成的陶劑充填法 三五七
 口腔 四
 口腔梅毒 二八九
 口腔粘膜炎及齒齦ノ診斷的意義 二二三
 口腔ノ形成異常 二四九
 口腔結核 二九五
 口腔ノ準備 四五二
 咬合 二一
 咬合ノ異常 二〇
 咬合調節線 四四四
 咬合ノ欠如 四四一
 咬合ノ採得 四六〇
 咬合機 四六二
 咬合面 五
 咬合模型 四六〇
 口底蜂窠織炎 二七六
 口唇瘡 三二三
 光輝小體 九四
 黑色蝕蝕 九二
 固定加工義齒 四九八
 固定ノ選擇 四二七
 固實法 三四四
 硬性下疳 二九〇
 硬性纖維腫 三四四
 合着 三〇四
 合盒法 四九二
 護謨床義齒 四六六
 護謨床義齒 四六八
 根管釘 四七四
 根管充填 一五八
 根管漏又無痛膿瘍 二一三
 根端膿瘍 一七五
 根端性齒根壞疽 一九四
 根尖端孔 四四一
 潤滑層 四六〇
 混合充填 四六二
 永久齒 五
 永久齒ノ萌出 四六〇
 永久齒ノ形成及化灰 二七六
 遠心面 三二三
 圓錐齒 九四
 挺子 四二七
 抵抗形態 四二七
 電氣髓 三〇四
 テンボラリー、ストッピンガ 四九二
 傳達麻醉 四六六
 挺子ノ應用 四六八
 適應症 四七四
 轉位齒 一五八
 電透麻醉法 二一三
 添痛 一七五
 亞密爾紐護床義齒 一九四
 骨腫 三一八

欠

悪性齒齦腫	三〇八	楔狀欠損	八三	金冠類	四七四
アマルガム	三三三	吸着	四七二	金床義齒	四六八
アマルガム充填法	三五二	球間腔洞	三一	近心面	五
亞布答性口内炎	二三二	吸收	一九八	〔ユ〕	
亞砒酸	一三五	吸收器官	五三	癒合齒	六六
〔サ〕		急性齶蝕	九二	有鏢合釘綴續義齒	四八六
細齒管	二九	急性齒膜炎	一七四	有床義齒	四五〇、四六八
截端	五	急性化膿性齒膜炎	一七五	有床義齒ノ維持	四七二
三叉神經痛	二九九	急性限局性齒膜炎	一七五	〔メ〕	
〔キ〕		金冠	四八七	〔シ〕	
器械的失活法	一三六	義齒術	四五〇	齒瘻	二〇五
頰瘻	二一〇	急性廣汎性齒膜炎	一七五	齒乳頭	四六
頰面	五	急性根端性齒膜炎	一七四	脂肪變性	一一〇
白齒	一〇	急性周圍性齒膜炎	一七四	脂肪腫	三一五
急性齒膜炎	一七四	急性齒髓炎	一〇九	自働髓	三四五
急性齒槽膿瘍	一八七	急性全部性齒髓炎	一一一	齒長ノ異常	四三九
「キンダスレー」	二五九	急性一部性齒髓炎	一〇九	齒間腔	一九
近時合成的陶劑	三三五	急性化膿性齒髓炎	一一三	齒間分離法	三四六
金鑲嵌法	三五一	基礎質	二九	齒間副木	二六三
矯正力ノ適用	四二九	已製齒冠	四八二	齒間齒齦炎	二三九
矯正ノ原理	四二五	金箔	三三三	齒科學	一
巨大齒	六二	金箔充填法	三四九		

欠

非感染性無髓齒	一五〇	セメント充填法	三五四
破蓋	二〇	纖維腫	三〇三
皮樣囊腫	二二二	穿通性齲蝕	九二
網樣萎縮	三〇九	全部性齒根壞疽	二九四
〔モ〕		〔ヌ〕	
網樣萎縮	一二〇	水腫變性	一二一
生理的咬合機	四六四	水痛	二九七
生理的消耗	八一	クハ―調節灣曲	二一
切齒	八	數ノ異常	六二
尖角	五	髓管	一六
穿堀性齲蝕	九二	髓腔	一五
整復後ノ固定	四三二	髓室	一五
生活齒ト失活齒トノ鑑別	一二九		
靜止時咬合	一八		
石膏模型	四五八		
セロロイド床義齒	四七一		
舌面	五		
舌痛腫	三二四		
石灰沈着	一一一		
セメント	三三四		

58
24x

終

